



令和5年度 学社融合推進協議会活動報告集



令和6年3月
田辺市教育委員会

はじめに

昨年の5月に、コロナウイルス感染症の分類が見直され、2類から5類に移行されました。それに伴って、様々なイベントや行事での行動制限が撤廃され、スポーツ観戦でも声出し応援が可能となるなど、スポーツや文化活動などにおいてもコロナ前の様相を取り戻しつつあります。

しかしながら、この3年間で停止したり縮小したりした多くの活動をコロナ前の状態に戻すことは非常に困難で、もう少しの時間を要します。それでも、各学社融合推進協議会や学校では、実施可能な形でより良い方向を見出しながら取組を進めていただきました。

さて、学社融合推進協議会が発足して今年度で6年目となりました。

今年度も、昨年度に引き続き活動や取組における『内容の質的向上』をテーマとして実践をお願いしましたが、どの協議会でも例年の実践に一味加えた展開を創出していただき、地域の特色を生かした工夫ある取組を行っていただきました。

いくつかの推進協議会では、昨年度の学社融合研修会で学んだ対話の手法である「トーク・フォークダンス」を取り入れ、児童や生徒と地域の皆さんとで和気藹々と語り合う活動を展開していただきました。新たな手法を早々に実践し、協議会の活性化を目指して取り組む姿に感動を覚えました。

また、地域の特産物を使用した商品開発を、地元の高校や企業と連携して取り組んだ中学校も数校ありました。町内会の仕組みや役割について地域の町内会役員から学び、町内会の一員として自分たちにできることは何かを追及する「ミニ町内会」を開催した中学校もありました。地域の特産物を盛り上げるために、児童が保護者や地域の人と協働し、新たな活動を立ち上げようとしている小学校もありました。

これらの活動は、学社融合推進協議会の中で熟議し、実践に移した事例です。他の協議会でも創意工夫をし、様々な実践をしていただいています。このことは正に『内容の質的向上』に迫るものであり、熱意を強く感じる事が出来ました。

また、今年度は「世界遺産学習全国サミット in たなべ」を本市で開催しました。校区に世界遺産を有する学校のみならず、地域の歴史や伝統文化の学習に取り組んでいる学校、各学社融合推進協議会や公民館等が参加し、実践発表や体験活動を行いました。

日本国内に本市の学社融合の取組を発信することができ、内容面でも大いに誇れると自負しています。この成果を糧とし、ステップアップを図っていただきたいと思います。

結びに、今後も全ての園・学校と公民館・地域が連携・協働して、学社融合推進協議会の一層の充実を図っていただきますことを心から願っております。

令和6年3月

田辺市教育委員会 教育長 佐 武 正 章

目 次

[小学校]

田辺第一小学校	1
田辺第二小学校	3
田辺第三小学校	5
芳養小学校	7
大坊小学校	9
稻成小学校	11
会津小学校	13
新庄小学校	15
新庄第二小学校	17
三栖小学校	19
長野小学校	21
上秋津小学校	23
秋津川小学校	25
上芳養小学校	27
中芳養小学校	29
田辺東部小学校	31
龍神小学校	33
上山路小学校	35
中山路小学校	37
咲楽小学校	39
中辺路小学校	41
近野小学校	43
鮎川小学校	45
三里小学校	47
本宮小学校	49

[中学校]

東陽中学校	51
明洋中学校	53
高雄中学校	55
新庄中学校	57
衣笠中学校	59
上秋津中学校	61
秋津川中学校	63
上芳養中学校	65
中芳養中学校	67
龍神中学校	69
中辺路中学校	71
近野中学校	73
大塔中学校	75
本宮中学校	77

[幼稚園]

三栖幼稚園	79
上秋津幼稚園	81
中芳養幼稚園	83
新庄幼稚園	85

[学社融合推進協議会活動報告集]

令和5年度

各学社融合推進協議会の活動風景



衣笠中学校 ミニ町内会



本宮中学校 世界遺産学習サミット発表



三栖小学校 上野地区との交流



上芳養小学校 かみはやミライ塾

学校・園名		田辺市立田辺第一小学校		公民館名		中部公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
本校の校区は、かつての城下町の名残をとどめ、南方熊楠や片山哲などゆかりの偉人も多く、歴史と伝統にあふれる地域である。熱心に学校教育活動を支援してくれる人材にも恵まれており、教科・総合的な学習の時間・クラブ活動などを中心に、地域の教育資源を生かした特色ある取組を行っている。							
目 標	学校・園・地域	【学校】 ・地域の人々との活動を通して伝統芸能や文化にふれさせることで、地域に誇りを持つ子どもを育てる。 ・専門的で充実した活動によって、達成感や満足感を味わわせ、自主的・実践的な態度を育てる。 ・地域の人々や仲間との活動を通して、児童のコミュニケーション能力を育てる。 【地域】 ・地域と子どもたちとの交流の中で、互いが学び合っていることを自覚し、大人と子どもの双方からつながりを築く。 ・学校と地域が連携した活動を展開する中で、子どもたちに自分も地域の一員であるという自覚を持たせる。					
		校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織	
田辺第一小学校学社融合推進協議会 (会長1、副会長1、委員7、事務局2) 地域の力を生かした授業 熊楠学 クラブ活動 読書活動 合同行事 防災学習				・熊楠学 (地域学習コーディネーター) ・田一小校区協議会 ・田辺観光ボランティアガイド ・地域の方々 ・保護者			
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学校		・学社融合推進協議会定例会では、委員の皆様は学校の方向性や児童の様子を知っていただくとともに、学校運営について協議できるよい機会となっている。 ・地域教材は、児童にとって新鮮で未知なことが多く、充実感を得ることができた。 ・クラブ活動では、地域の方々の高い専門性のおかげで、児童は達成感や満足感を味わうことができた。 ・職員にとっても、地域や他の専門分野を知る良い機会となっている。 ・協力していただいた地域の方にも喜んでいただけた。		・地域の指導者の確保が必要である。 ・活動内容や予算について改善や工夫が必要である。 ・地域の方々に適切な言葉づかいができるよう日頃の学校生活でも気をつけて指導していく必要がある。 ・地域の方と職員とで日程調整をしたり、十分な打ち合わせをしたりするための時間を取ることが難しい。			
公民館（地域）		・本年度から新型コロナウイルスの影響を受けずに運動会や地域作品展などの行事を開催することができ、地域と学校・子どもたちが関わる機会を作ることができた。 ・公民館に遊びに来る児童も多く、公民館を利用する地域の方と話したり、一緒に体操したりするなど児童と地域の方と交流する良い機会になっている。		・新型コロナウイルスの影響と地域住民の高齢化が重なり、ゲストティーチャーをお願いできる指導者や人材が減少しており、新たな人材を確保しなければならない。より多くの地域の方に活動を知ってもらうために、学習成果の発表方法やその機会を工夫する必要がある。			

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
○「登下校時、子どもの交通安全について」 ・横断歩道の渡り方や、集団での歩行の仕方について、地域の方から指摘があった。注意や指導の必要がある事例については学級指導や全体指導を徹底している。 ・歩者分離型の信号は注意が必要だ。運転者は信号の切り替わりで見切り発車することがある。子どもばかりが悪いわけでもない。大人の問題でもある。 ○児童数の減少について ・ここ数年は毎年１０名以上減少している。今後は１３０名前後で安定しそうだが、人数の減少は育友会費など様々な分野に影響がある。 ・田辺第一小学校の特色、学校として何を売りにするか、示していきたい。お金を掛けずにできることもある。人数が減れば教育を手厚くすることができる。 ・人数が減っても教育の質は変わらないことが大切だ。お金が掛かる施設の充実や時間と人を必要とする行事の在り方も考えていかないといけない。 ・芸事の先生、退職、ボランティアの先生方で専門性のある方はいる。教科の授業は難しいが、特色のある学校へのヒントはある。 ・子どもが減ることは地域でも課題となっている。祭りなどの地域行事の継承が難しくなってきた。	
特徴的な協働活動	
「追究！南方熊楠（発表編）」語り部ジュニア活動（６年生）	
全体会チーム	南方邸チーム【南方邸の説明】
【南方熊楠の概要について】 パワーポイントを使って熊楠の魅力や偉業について紹介しました。親交のあった偉人や熊楠が好きだったもの等について自分たちの言葉で伝えました。	南方邸の蔵や書斎、庭の植物から見える熊楠の暮らしぶりについて、熊楠のこだわりを加えながら紹介しました。
 熊楠クイズ！ 熊楠が好きだったものは次のうちどれでしょう。 1あんぱん 2お酒 3洋食 4みかん	 熊楠が書斎で使っていた机は手前に傾いています。これは、顕微鏡での観察がしやすいように熊楠が行った工夫です。
南方熊楠顕彰館チーム	
【顕彰館の説明】 熊楠の生涯や集めた粘菌などについて顕彰館に展示されている資料を活用しながら紹介しました。	保管されている蔵書は約35000冊です。  庭の柿の木の 上で熊楠が発見した粘菌は、ミナカテラ・ロンギフィラと命名されました。
中部公民館地域運動会	大人も子どもも地域作品展
10月14日（土）に小学校体育館にて中部公民館地域運動会が行われました。小学生も多数参加し、フライングレースやさかなつりレース、モルックや囲碁ボールなどのニュースポーツ、防災クイズを地域の方々と一緒に楽しみました。最後に参加者全員で弁慶踊りを踊り、大いに盛り上がりました。	今年も11月4日と5日に小学校体育館にて公民館主催の「大人も子どもも地域作品展」が行われました。田辺第一小学校からは、全児童の絵画を展示し、多くの地域の方に見ていただくことができました。
 	 

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

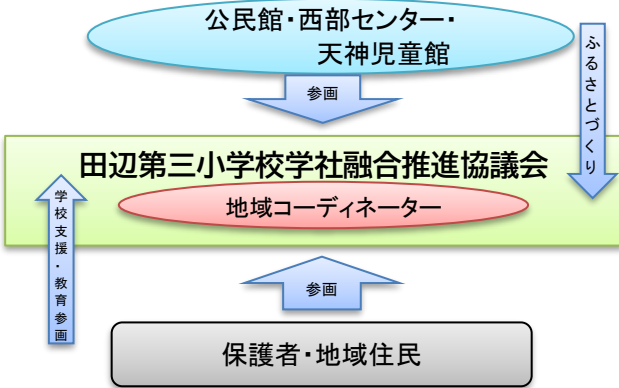
協議会名：田辺第二小学校学社融合推進協議会

学校・園名		田辺市立田辺第二小学校		公民館名	東部、南部公民館	
学社融合における学校・地域の様子						
本校は「地域活動に参加し、ふるさとを愛する子どもを育てる」を教育目標のひとつに掲げ、本校区にある東部公民館と南部公民館との連携を図りながら学社融合の取組を進めてきた。今年度は、新型コロナウイルス感染症が５類に移行し、様々な活動を再開することができた。公民館主催文化展示会への作品出品、中学校及び地域との地震津波避難訓練の実施、本校校内音楽会への中学校合唱部・吹奏楽部の参加、公民館主催行事（バスピン大会やなんぶフェスティバル等）に取り組んできた。また、各学年、生活科及び総合的な学習の時間に、公民館や地域の方々等のご協力を得ながら、地域に出かけたり、ゲストティーチャーとして来校していただいたりして、地域学習、福祉体験学習、歴史学習等に取り組んできた。						
目 標	学校・園・地域	○自分たちが住む地域のよさを知り、ふるさとを愛する児童を育てる。またその学習の中で調べる力・協力する力・表現する力を身につけさせる。 ○自分たちでは調べられないことをゲストティーチャーに教えていただき、聞く力・まとめる力を育てていく。 ○南海トラフ巨大地震の発生が懸念される中、沿岸部に位置する本校にとって防災安全学習への取組を充実させることは大変重要である。これらの活動を通して、主体的な判断力と行動力をもつ児童を育てる。 ○子どもたちと地域の方々の交流の橋渡し役となる。（公民館） ○地域の良さを伝えることで、子どもたちとの交流を楽しむとともに、自分たちも地域について見直す機会とする。（地域）				
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織		
田辺第二小学校学社融合推進協議会 ⇕ 東部・南部公民館 東陽中学校 幼稚園 ⇕ 保育所 育友会 ⇕ 地域の力を生かした教育活動				東部公民館 南部公民館 田辺市防災まちづくり課 田辺市社会福祉協議会 交通安全指導委員会東部小隊 闘鶏神社 神楽神社 地域にお住まいの皆様方		
成果と課題（学校・公民館からの視点）						
成果				課題		
学 校	○ゲストティーチャーと綿密に打ち合わせをすることで、各学年とも工夫して地域学習に取り組むことができた。 ○学校職員だけでは教えることができない地域の歴史や文化遺産に対する思いを、地域の方に教えていただくことができた。 ○地域の自然や社会【人々・歴史・施設・文化・動植物】と関わる中で問題を発見し、追求する力や仲間と協力し活動する力等を高めることができた。			◇新型コロナウイルス感染症が５類へと移行し、コロナ禍前に実施していた様々な行事が再開していく中で、行事の実施時期については年間計画と照らし合わせながら、検討していく必要がある。		
公 民 館（地域）	○東部公民館・南部公民館主催「ふれあいバスピン大会」では、子ども会・学校・地域・公民館が連携して、一つの行事の開催に取り組む、親子のつながり、親同士のつながり、親子と地域のつながりを深めることができた。 ○「東部公民館文化展」・「なんぶフェスティバル（作品展示の部）」では、田辺第二小学校児童の作品をはじめ、館区内の中学校、高校、各種関係団体、地域の方々の作品を一堂に展示し、日ごろの学習や活動の成果を地域で共有することができた。			◇「ふれあいバスピン大会」は、昨年度よりも参加者数が増加した。その他の各行事においても、徐々に参加者の増加がみられている。しかしながら、依然としてコロナ禍前の水準に比べると全体的に行事への参加者数は少ないままとっている。行事の開催にあたっては適宜工夫を加えながら、ニーズを捉えて地域住民の地域行事への参加を促していきたい。 ◇今後も学校・地域・公民館の連携をより一層深めていき、学校運営・公民館活動の充実を図っていく必要がある。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
【公民館主催ウォークラリー大会について】 公民館主催のウォークラリー大会を令和６年２月２３日に４年ぶりに開催予定である。本年度は、今まで行われていた従来のウォークラリー大会ではなく、６年生が「第１４回世界遺産学習全国サミット in たなべ」のエクスカーションとして行った「語り部活動」を取り入れる予定で計画を進めている。	
【育友会保体部主催 ソフトバレーボール大会について】 育友会保体部主催のソフトバレーボール大会を、令和６年１月２８日に４年ぶりに実施予定である。良き交流の場として、多数の保護者の方々に参加していただくためにはどのようにすれば良いかを話し合った。その中で、景品として学社融合推進協議会の委員の方々が経営されている商店にも協賛していただけることとなった。	
特徴的な協働活動	
守り続ける地域の誇り【６年生】 ～未来につなぎ魅力を伝えよう～	
6年生の総合的な学習の時間(トライタイム)に地域の偉人や遺産について調べ、学んだことを語り継ぐ「語り部活動」に取り組んでいる。本年度は、本校校区にある世界遺産「闘鶏神社」を軸に、神社に深く関係している「武蔵坊弁慶」や県文化財で紀州三大祭の一つに数えられる「田辺祭」について調べた。「守り続ける地域の誇り～未来につなぎ魅力を伝えよう～」のテーマに迫るために次のような流れで学習に取り組んだ。 （１）テーマの設定 （２）取材・調べ学習 （３）語り部活動 子どもたちにとって、自分たちが住んでいる地域に当たり前のようにある世界遺産「闘鶏神社」が武蔵坊弁慶に深く関わっていること、毎年開催されて当たり前祭である「田辺祭」など、当たり前前の「闘鶏神社」「田辺祭」にはそれぞれに長い歴史があり、その歴史を繋いでくれている人がいることが分かる良いきっかけとなった。 「第14回世界遺産学習全国サミット in たなべ」において、12月8日(金)には公開授業、12月10日(日)にはエクスカーションとして「語り部活動」を全国の参観された方々に発表することができた。	 
地域の方々との心のつながりを大切に	
	扇ヶ浜公園のトリムコースで実施した校内持久走記録会は、顔を真っ赤にして一生懸命に走る子どもたちに、大勢の地域の方々からご声援をいただいた。 また、校内音楽会や合唱部の「銀座ミュージックストリート」、ふれあいバスピン大会、校内バスピン大会でも、地域の方々からのあたたかい声援が子どもたちの励みになった。これからも、地域の方々との心のつながりを大切にし、連携して子どもたちの学びや愛郷心を育んでいきたい。

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：田辺第三小学校学社融合推進協議会

学校・園名		田辺市立田辺第三小学校	公民館名	西部公民館
学社融合における学校・地域の様子				
本校は、田辺第三小学校学社融合推進協議会を中心として、西部公民館、西部センター、天神児童館「西部エンパワーメント支援事業」等と協働・連携しながら各種事業に取り組んでいる。本校区内では、核家族化や少子高齢化などの問題が進行している。地域社会との関わりを推進し、地域の一員であるとの自覚を持つ児童を育成していくことは、大変重要であると共に大きな課題である。そのため、地域を知り、地域に興味・関心を持って活動を行うことを大切にし、地域に出かけ、体験的な活動を通して積極的に地域との交流を図るようにしている。				
目 標	学校・園・地域	①子どもたちの自尊感情を高めていき、教育をよりよいものとする。 ②地域の教育力を向上させ、郷土愛を育てる。 ③学社融合（生涯学習）を推進し、更に充実する。 ④「地域の子どもは、地域とともに育てていく。」という意識を更に高める。 ⑤学社融合事業をさらに地域に浸透させていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
			・西部公民館 ・西部地区自主防災連絡協議会 ・西部町内会連絡協議会 ・西部老人クラブ連合会 ・校区協議会 ・天神児童館 ・西部子どもエンパワーメント支援事業 ・西部センター ・民生委員 ・スポーツ推進委員	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成果			課題	
学校	・「花いっぱい運動」「グラウンドゴルフ」「昔の遊び」「やすらぎ荘訪問」等、コロナ禍が明けて活動を再開することができた。それによって、児童が地域を知り、地域と繋がる機会が増え、地域について考えることができた。 ・地域の方も子どもたちと関わることができて良かったというような感想をいただいている。		・学校行事等の都合で、計画通りに実施できない事業があった。コロナ禍が明け、再開する中で予測が難しいこともあったが、来年度はカリキュラムを見通し、計画的に実施していきたい。 ・地域で育てる子ども像を共有し、目標に向けてより協働できるようにしていきたい。	
公民館（地域）	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行したことで、行動制限のない中で各事業を展開することができた。中でも防災訓練や4年ぶりに通常開催となった天神児童館まつりでは、大勢の方々が来場し、少しずつではあるが地域の活性化を取り戻すことができた。 また、学社融合に関しては「花と緑いっぱい運動」や天神児童館祭りの中での「昔の遊び体験」を通じて、世代を超えた交流を図ることができた。		事業には老人クラブをはじめ多くの方々にご協力をいただいているが、高齢者が多く健康上の理由などにより辞退される方も増えている状況である。 こうした状況の中で、新たに協力していただけの方の発掘が課題である。	

今年度の取組内容			
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）			
○授業参観を通して、子どもの様子を共有し、協議を行った。			
○主な協議内容はコーディネーターについて 前任の方が引退後は、コーディネーターを公民館主事が兼ねているが、やはり、コーディネーターは地域に顔がきく、地域の方がよい。来年度は、地域の方に務めていただけるように働きかけていく。			
○その他の協議内容 ・学習でのタブレット使用について ・必要に応じて複数で指導するなど、きめ細やかな取組により落ち着いて学習することができている。 ・横断歩道で止まってくれた車にお礼をする子が増えてきている。あいさつも元気よくできている子が多い。まずは、健康でしっかりあいさつができる子どもを地域で育てていきたい。			
特徴的な協働活動			
田三の人間国宝さん	6年生：地域の偉人にインタビュー		
	【地域を知る・地域と繋がる】 「地域ですごいな、みんなに知ってもらいたいな、という人はいませんか」という投げかけから、地域の人間国宝さんにインタビューを行った。思いや、子どもたちに伝えたいことを伺い、学習発表会で発表した。		
・20年間立ち続けている交通指導員 ・戦争時代を生き抜いた100歳の方 ・市美術館、Big-Uを塗装したペンキ職人 ・児童館指導員 ・地域の駄菓子屋さん	 		
うえのやまチャレンジデー	日曜参観日の午後に、4つの体験活動		
子どもクラブ・地域スポーツクラブ・育成会・児童会と連携して、4つの体験活動を行った。			
			
・ドッジボール	・バレーボール	・工作	・クイズラリー
クラブ活動	外部講師（地域の方）・お年寄りの方との交流		
		西部老人会と連携 グラウンドゴルフで交流	
つりクラブ（地域の方と）	運動クラブ		

学校・園名		田辺市立芳養小学校	公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
平成１９年度より子供の健全育成と放課後の居場所づくりを目的に取り組み始めた「芳養ふれあい教室」、平成２０・２１年度には芳養小学校・芳養公民館が市の指定研究を受け、学社融合の先駆けとなった。その成果が脈々と受け継がれ、現在に至っている。コロナ禍や職員の異動により、地域の教育力を生かした授業実践がやや縮小されているが、「地域とともにある学校」としての意識を常にもち、学校と公民館が連携した取組を進めている。また本年度は創立１５０周年式典の中で、芳養小学校の卒業生である地域の方による音楽会を実施した。				
目 標	学校・園・地域	○学校・家庭・地域の連携と教育力の向上を図るとともに、児童の健全育成を目指す。 ○保護者や地域の方々との触れ合いを通して、児童のコミュニケーション能力を育むとともに、地域を大切に作る心を育てる。 ○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで教育内容の充実を図るとともに、地域活性へと繋げる。 ○地域の方々が学校や子どもたちの様子を知ること、今後の地域づくりに生かす。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
芳養小学校学社融合推進協議会 (会長1名・副会長1名・委員4名) 芳養人材バンク 公民館 学校 家庭 地域			・芳養公民館 ・町内会 ・芳養児童センター ・芳養校区子どもクラブ ・ふれあい教室実行委員会 ・芳養校区補導委員会 ・更生保護女性会 ・民生児童委員 ・交通指導委員 ・育友会 ・地域の方々	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成果			課題	
学 校	・本年度より、少しずつコロナ前の行事を復活させることができた。特に、１５０周年式典では子どもたちの普段の取組や成果を地域の方へ披露することができ、子どもたちにとってもとても良い経験となった。 ・ふれあい教室も、本年度は６教室開催することができ、地域の方と交流できる良い機会となっている。		・少しずつ行事を復活させることができたが、人材が不足している現状がある。そのため、今後に向けて行事の精選や人材の新規開拓にも取り組んでいく必要がある。 ・ふれあい教室の講師の方は大変協力的でとてもありがたいが、年々児童数が減少している影響もあり、ふれあい教室への参加者も減少傾向にある。そのため、来年度以降ふれあい教室への参加を呼びかけていく必要がある。	
公 民 館 （ 地 域 ）	・学校の授業や放課後のふれあい教室の活動に対して、地域の方々に積極的に参加・協力をしていただいている。教室が復活したり、新しい教室ができたりと、本年度はコロナ禍以前の状態に戻る大きな一歩を踏み出すことができた。 ・地域の方々が、地域の子どもたちを大切に育てていこうという意識を持ってもらうことに繋がっている。 ・子どもたちや学校の様子を知ることができ、地域の方々の交流も深まっている。		・ふれあい教室の講師やサポーターが高齢になってきており、今後もふれあい教室を継続していくためにも、人材発掘・育成に力を入れていく必要がある。 ・学校の授業やふれあい教室における活動に対して、より多くの地域の方々や保護者の方々に協力していただけるよう周知していきたい。	

今年度の取組内容		
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）		
【芳養ふれあい教室について】 教室の新規開拓にも取り組んでいきたい。その際、子どもの意見も取り入れることも大事ではないか。地域人材の発掘に努め、活用を広げたい。		
【ＩＣＴの活用について】 ＩＣＴの活用が進んでいる。市指定研究は学校を更に充実発展させるよい機会である。１５０周年の取組で、保護者や地域にもどんどん芳養小学校の魅力を発信してほしい。		
【１５０周年記念事業について】 １５０周年記念事業の進捗状況を説明。地域の音楽家による記念コンサートを実施する方向で進めることについて賛同を得る。		
【スクールカウンセラーの活用について】 児童、保護者の活用状況について質問があった。単独配置となって２年目であるが、スクールカウンセラーの活用についてもっとＰＲしてもよいのではないかとの意見が出された。		
特徴的な協働活動		
・今年度のふれあい教室は６教室（かきかた、花アレンジ、キンボール、俳句、読み聞かせ、１１月から将棋も追加）で実施していくこととなった。 ・本年度から１年間通年で児童を募集したが、概ね予定通り、ふれあい教室を実施することができた。 ・各学年の学習内容に応じて、スクールパートナーをお招きし、特別講師として語り部活動や米づくり体験・毛筆指導・梅ジュース作りなどに取り組むことができた。		
		
かきかた教室では、硬筆と毛筆の指導をしていただいた。また練習の成果として、芳養公民館展に児童１人１人の作品を出展するなど子どもたちも意欲的に活動に取り組んでいる。	婦人会の方々を中心に、花アレンジを指導していただいた。毎月季節にあった花を用意していただくことで、子どもたちは花アレンジを通して季節の変化も感じる事ができた。	キンボール教室では低学年と高学年の２部制で実施していただいた。参加児童はどんどん上達していく姿が見られるなど、とても意欲的に楽しく取り組むことができた。
		
俳句教室は、全学年を対象に実施していただいた。毎回やさしく俳句の作り方を教えてくださった。そのため参加児童も毎回俳句教室を楽しみにしている。	読み聞かせ教室は、低学年の子どもたちを対象に実施している。読み聞かせだけでなく、手遊びなども教えてくださるなど、子どもたちも毎回集中しながら聞くことができています。	今年新たに始まった将棋教室では、全学年を対象に将棋を指導していただいた。初心者の子や経験者の子もいるが、講師の方と毎回楽しく活動することができている。

学校・園名		田辺市立大坊小学校		公民館名	芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子					
本校区は大坊・団栗の二地区からなり、その住民の多くは柑橘・梅栽培を中心とした専業農家である。平成31年3月、地域の長年の願いであった新校舎が完成し、より一層地域の総合センターとしての役割が求められている。地域のつながりは深く、学校の教育活動に対しても大変協力的である。運動会や各行事において、各団体に協力していただきながら取組を進めている。					
目 標	学 校 ・ 園 ・ 地 域	地域とともにある学校 ～学校は地域の未来を創る～ 大坊小学校学社融合推進協議会は「地域とともにある学校」を目指し、「学校は地域の未来」となれるよう、各専門部会を核とした実践的な取組や活動を進めていく。 具体的目標 目標１：地域人材を生かした「学校力の向上」 目標２：地域人材を生かした「学校環境の向上」 目標３：小学校を活用した 「地域力の向上」			
		校（園）区の推進組織（組織体制図）			
		支援者及び支援組織			
		学社融合推進協議会親部			
		学習支援部 目標１：地域人材を生かした「学校力の向上」 取組の柱 ①学習支援 ②家庭教育の支援		・大坊小学校育友会 ・大坊小中学校校区協議会 ・大坊区 ・団栗区 ・地域老人会（白楽会） ・両区青年団 ・大坊女性会	
		環境整備部 目標２：地域人材を生かした「学校環境の向上」 取組の柱 ①環境整備 ②登下校の安全対策			
		地域活性化部 目標３：小学校を活用した「地域力の向上」 取組の柱 ①学校行事への参画 ②学校施設の地域への開放			
成果と課題（学校・公民館からの視点）					
成果			課題		
学 校	・「みんなの力で素敵な畑に！」の実践に地域とともに一体となって取り組むことができた。畑の整備にご協力いただき、子どもたちが育てた農作物を地域の皆様にも食べていただく機会を作ること、学校と地域の連携をさらに深めることができた。		・これまで行ってきた活動を継続したものも多いが、見直した活動もある。今後も地域とよく話し合って、学社融合の取組を推進していきたい。		
	・ふるさと学習で、地域の方から直接学ぶことは、子どもたちにとってよい刺激となり、その後の学習が活性化した。地域に誇りを持ってほしいという地域住民の願いが子どもたちにしっかりと伝わっている。		・教師主導のふるさと学習になりがちである。児童自身の地域とのつながりや探究心を生かした展開も考えていく。		
公 民 館 （ 地 域 ）	・公民館報を通じて、子どもたちの様子や学校の取組を地域の方々にも分かりやすく伝えることができた。		・高齢化が進んでいく中で、学校と地域の連携を継続していくことも意識する必要がある。		
	・様々な活動や事業を通じて、地域の方々同士の交流も深まった。また、「親子ピザ作り」「おでんパーティー」「みんなの作品展」等に参加、協力することができた。		・公民館としても地域に出向き、地域への情報発信により力を入れる必要がある。		
		・子どもたちを地域で育てるという意識から、地域の一体感もより良くなった。			

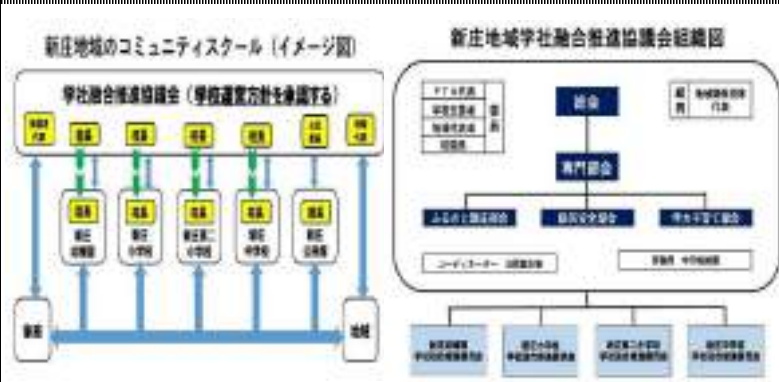
今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
	『地域活性化部』 ○本年度は、子どもたちの作品展と地域の作品展を同時開催した。いろいろな「好き」や「得意」が集まり、賑やかな作品展となった。
	『環境整備部』 ○育友会と一緒に、畑の整備作業に協力した。元校舎跡地を畑にするために、草刈り作業をはじめ、6トンもの土を畑に運んだ。
	『学習支援部』 ○ふるさと学習への協力や、絵本の読み聞かせ、クラブなど、地域人材と学校をつないだ。 【低学年：団栗地区と昔の遊び】 【中学年：梅のひみつ大発見】 【高学年：大坊と防災】
特徴的な協働活動	
Before     After 	
【児童の感想より】 こうしてみると「みんなの力で畑がどんどん素敵になってきたことがよくわかります」、私達はこの取組で、「みんなで協力すれば何でもできること」「本気で汗を流すと楽しいこと」「愛情こめて育てた野菜が本当においしいこと」など、たくさん学ぶことができました。畑作りの活動をふり返ってみると、楽しい思い出がたくさんできました。畑で作物ができたときの達成感、畑の恵みをいただいたときの満足感、やればできるという自信もつきました。「みんなで素敵な畑に」を合い言葉に、畑を耕し野菜を育ててきましたが畑と野菜が私たちを育ててくれたように感じます。これからも、畑作りを頑張りたいです。	
みんなの力で素敵 ^な 畑に！	
学校と地域で協力して、元校舎跡地の草刈り、石拾い、土入れをして畑に整備した。そこで育てた農作物を次のように、色々な方法で地域の皆様とともに美味しくいただいた。	
親子ピザ作り体験	
	
「焼きとうもろこしパーティー」&冷やしトマト・キュウリ・枝豆祭り	
	
焼き芋・干し芋・スイートポテト	
	
「おでんパーティー」	
	

学校・園名		田辺市立稲成小学校		公民館名		稲成公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
当地域では、学校と公民館、地域の代表者が中心となり、地域へ働きかけ、学社融合を推進してきた。 今年度はアフターコロナの1年とし、コロナ前に実施していた行事をどこまで戻していくかについて、地域との話し合いを進めてきた。行事の実施については、全部をコロナ前に戻すのではなく、より良い方法を模索しながら運動会や文化祭も工夫して取り組んだ。公民館や地域の方々との打合せを通して、概ね予定通り実施することができた。							
目 標	学校・園・地域	〈学校の目標〉 ①農業体験ボランティアを学校教育に定着させ、地域と共に学校教育を充実させる。 ②図書ボランティア活動を活発にし、児童の読書意欲を喚起するとともに図書室を地域コミュニティの場として活用する。 ③交通安全ボランティアを募り、より安全な登下校指導体制を構築する。 〈地域の目標〉 ①学校教育に関わることで、地域の子どもたちとの良好な信頼関係を結ぶ。 ②ふるさと学習を支援することで、地域の歴史や文化を語り継ぐ。 ③子どもたちが安全に登下校できるように支援する。					
		校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織	
		稲成小学校学社融合推進協議会 ⇄ 校 長 田辺市教育委員会 育友会 公民館 稲成・むつみ町内会 稲成愛郷会 稲小いわき会 農業支援ボランティア 図書ボランティア 交通安全ボランティア 環境整備ボランティア				・稲成校区協議会 ・稲成公民館運営協力委員会 ・稲成町内会 ・むつみ町内会 ・稲成愛郷会 ・稲小いわき会 ・稲成小学校育友会 ・民生児童委員会	
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
		成果				課題	
学 校	・運動会やふれあい文化祭等の行事前には、公民館や町内会と実施内容の確認等を行うことで、児童が安全に楽しく過ごせるような行事にすることができた。 ・登校時の交通安全については、地域や公民館、町内会の協力を得て、児童の安全な登校に努めることができた。 ・委員さんに来校していただき、授業参観や交流を行うことを通して、学校の取組や児童の様子について理解していただくことができた。また、交流からヒントを得て、福祉学習や野菜の栽培など、学校の取組を再考することができた。				・行事は概ね再開することができたが、運動会やふるさと文化祭など、コロナ禍から踏襲したものもあるため、今年度の取組を、来年度に新しい形を構築するために共通理解していく必要がある。 ・今後も実施できる内容を精査・工夫しながら、持続的な教育活動を意識した取組を進めていく。 ・新しい文化的・人的資源の情報収集に努め、地域に根ざした教育活動をさらに推進していく。 ・新しくできた公民館を地域との交流の場として活用していく。		
	新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し、行動の制限がなくなったことで、予定していた公民館事業や稲成小学校との学社融合事業は実施することができた。中でも、夏祭りや2023稲成・むつみふれあい文化祭は、子どもたちに焦点を当てた内容としたことで参加者が多く集まり、交流を深めることができた。 令和5年4月1日に、稲成地域の生涯学習の拠点施設である稲成公民館が供用開始したことで、新たに公民館を活用した事業を計画し実施することができた。				これまで実施してきた事業を検証して課題を洗い出し、必要に応じて改善を加え、事業をより良いものにしていきたい。 公民館の取組を多くの方々に関心を持っていただくため、広報を充実させる必要がある。		
公 民 館（ 地 域 ）							

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
年度当初の学社融合推進協議会では、今年度の実施計画や役員紹介、前年度の取組やその成果と課題等について話し合った。 その中で、前年度の取組に工夫・変更を加えながら実施していくという方向性を決めた。また、通学路の危険箇所については地域で対応していただいていることや地域の夏祭りも実施していきたい方針であること等について話し合った。 本校では、農業体験ボランティアや図書ボランティア、交通安全ボランティアの方のご協力により、地域と学校が連携した活動を行ってきている。今後も継続的な取組を進めていくという考えで一致した。 また、昨年度まで計画的に取り組めていなかった福祉学習については、本年度より4年生の学習に位置づけて取り組んでいくことを話した。委員からは地域の障害者施設の見学も考えてみてはどうかという意見もあった。 昨年度のように、地域人材と連携を図ることで、子どもの学びが深まったり、楽しく学んだりできるように本年度も取組を進めていきたい。 また、防災面では、避難訓練や消防体験だけではなく、避難所での生活についての体験活動を実施するなど、地震が増加している昨今、あらゆる機会を生かし、地域ぐるみで取組を進めていければと考えている。	
特徴的な協働活動	
学社融合に関わる学習は、地域の人々や自然、施設、産業などとの関わり合いを通して、コミュニケーション能力を高めたり、豊かな心を育んだりするとともに、地域を知り、地域に対する愛情を育てることをねらいとし、各学年で取り組んでいる。 本年度の学習発表会は、入場制限なしで地域の方々に見ていただくことができた。1年生は、詩と音読発表・鍵盤ハーモニカ演奏、2年生は鍵盤ハーモニカ演奏と手作りおもちゃの紹介。3年生は、タブレットを使って稲成地域の魅力を発表。4年生は、福祉学習で学んだことを生かしたみんなが暮らしやすい町についての発表。5年生は、体験活動をもとに自分たちの未来とSDGsについての発表。6年生は、高山寺多宝塔建立に尽力した阿涼師の演劇を発表をした。	
	
午後からは、公民館主催で「稲成・むつみふれあい文化祭」が行われた。高雄中学校吹奏楽部による演奏を聴いたり、フラダンスサークルによるダンスを楽しんだりした。最後には、餅まき・お菓子まきがあり、心が豊かになる一日を過ごすことができた。	
	
	
これからも地域人材を生かした学習による「学校力」の向上、保護者との信頼関係を基盤とした「家庭力」の向上、学校支援ボランティアを通して培う「地域力」の向上を3つの柱とし、『地域で学び、地域を愛し、地域に貢献できる子どもの育成』を目指していきたい。	

学校・園名		田辺市立会津小学校	公民館名	秋津・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子				
本校では、例年「会津さわやかコンサート」や「合同作品展」「獅子舞鑑賞」「昔の遊び体験」など、保護者や校区協議会、公民館、老人会等、地域の各種団体との連携・協力を得ながら様々な教育活動に取り組んでいる。現在435名の児童が通学しており、登下校の見守り活動や、地域の「ラジオ体操」など、地域で積極的に子どもたちを見守り、育む活動が展開されている。また、総合型地域スポーツクラブ「会津スポーツクラブ」の活動は、所属している子どもたちにスポーツに親しむ多くの機会を提供してくれているとともに、多くの子どもたちにスポーツに対する興味・関心を高める役割を担っている。				
目 標	学校・園・地域	【学校】 様々な世代の、多くの地域の人々との交流を通して ・地域の伝統や文化とその地域に住まう人々を大切にし、感謝する心を養う。 ・言葉や行動によって進んで表現しようとする意欲を養う。 ・発表や作品の観賞を通して相手の気持ちや思いを感じられる心を育てる。 【地域】 ・公民館活動を通じて学習した成果発表の場を提供する。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
会津小 学社融合推進協議会 学 校 公 民 館 家 庭 地 域			会津小育友会 会津小校区協議会 秋津公民館 万呂公民館 会津スポーツクラブ	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成果			課題	
学 校	2年生や3年生が行った「町探検」や「地域学習」では地域の施設や地理などについて学ぶことができた。これらの学習から、こどもたちは、地域について知るだけでなく、地域への愛着心を深めることができた。 校区協議会主催の「会津さわやかコンサート」は、参観者の制限がなくなったことで、入場者も多く、育友会や町内会役員の協力を得て、会場にいる皆が一体となる演奏会となった。		従来から行ってきた活動がコロナ禍以前とは形を変えながらよりよい形で、地域や保護者の協力を得ながらできるようになってきている。しかし、今以上に学校と公民館で情報を共有し、学校のニーズと地域の人材を照らし合わせながら、お互いにとってよりよい機会となるようにしていきたい。	
公 民 館 （ 地 域 ）	公民館の作品展において、お菓子の抽選会を行うなど工夫を凝らしたことで、児童が公民館へ足を運び、公民館を知ってもらいきっかけとなった。 町探検や昔遊びにおいて、公民館が地域コーディネーターとして学校と地域をつなぐことができた。また、地域の方も子どもたちとの触れ合いの中で、取組の内容や子どもたちの様子を知ることができた。		児童数の減少や子ども会の合併・縮小を受けて、学校や地域行事の運営の仕方等が変化しつつあるため、学校・地域・公民館が一体となって体制を見直す必要がある。 行事の参加者が減少・固定化してきているため、地域住民のニーズを把握し、それに合わせた行事を企画・実施していきたい。	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
第1回 会津小学校学社融合推進協議会 ・会津小学校学社融合推進協議会は令和5年5月15日に開催され、以下のような内容の協議を行った。	
◇地域と連携した協働的な学び ～今年度の主な活動について～ コロナ禍で3年間できなかった活動は、徐々に元に戻していくものもあれば、今の地域や学校の実態に合わせて工夫し行っていくものも出てくる。花の苗植えなどの活動では、老人会と保護者だけでなく、子どもも参加し、3世代で活動できるものにしていってもよいのではという提案があった。	
◇地域全体で子どもを見守る意識の醸成 ～「登下校の見守り活動」～ 町内会の組織である「万呂学童見守ろうかい」が、登下校時に交通量の多い箇所子どもたちが安全に渡ったり歩いたりできるように見守り活動を行ってくれている。見守りメンバーの方々には交通指導だけでなく、日々の児童の様子についても観察をし、職員や保護者の登校指導の際に、情報を伝えてくださっている。	
特徴的な協働活動	
2年 町探検 万呂公民館を訪ね、公民館主事から万呂公民館の歴史や、公民館の地域での役割や活動について話を聞いた。 公民館で働く主事の話聞くことで、身近な公共施設について知るとともに、公民館の活動に興味をもつことができた。	
～児童の感想から～ ・公民館では4人働いていると分かりました。橘さんはイベントを考えているときが楽しいことが分かりました。カボチャの重さ比べが人気なら、ほくも行きたくなってきました。 ・万呂公民館は、昔学校だったと知りました。ヨガとか料理とかができる部屋や図書室があると分かりました。いっぱい部屋があるなと思いました。 ・万呂公民館には、いろいろなものがあってすごいなと思いました。4人しか働いていないのに、こんなにもいろいろなことができるなんてすごいなと思いました。1日に50人も人が来るなんてすごいなと思いました。	
3年 地域学習 地域の方、町内会長、公民館主事をゲストティーチャーに招き、「自分たちの地域をもっと知ろう」をテーマに学んだ。 公民館主事からは、児童が興味を持ちやすいように「秋津と万呂ではどっちが人口多い?」「秋津と万呂の家の件数は?」など、クイズ形式で地域のことを学んだ。地域の施設、自然や地理について詳しく知ることができた。 地域の信仰のよりどころである須佐神社の話からは、地域の歴史を学んだ。また、ドローンで撮影した航空写真をもとに、自分たちの住んでいる場所を探すことから、自分たちの地域がどんな地形をしているのかなどの知識や理解を深めた。	
～児童の感想から～ ・万呂の方が秋津より人が多いことを知りませんでした。もっと分からないことを知りたいです。 ・校歌の歌詞に意味があるとは知りませんでした。須佐神社が須佐の森だとわかりました。昔は目印だったことを知ってびっくりしました。 ・須佐の森の高さが30mもあることを知りました。万呂の川はぐねぐねしているけど、秋津の川はまっすぐになっていると知って、万呂の方が津波が来たら危険だということを知りました。	

学校・園名		田辺市立新庄小学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子				
新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取り組みも進めている。				
目 標	学校・園・地域	田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。 本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織		
		- 学社融合推進協議会 ○ 幼稚園・小中学校育友会 ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 ○ 新庄共育コミュニティ本部 ○ その他関係機関 ○ 新庄地区老人会 ○ 真寿会 ○ ふたば福祉会 ○ 南紀のぞみ会 ○ 社会福祉協議会		
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成 果		課 題		
学 校	・ 地域の方々の協力を得ながら、専門的なお話を聞いたり体験的な活動を行ったりすることができ、児童は学びを深めることができた。 ・ 地域の方との交流を通して、地域でどのような活動が行われているかを知ることができ、地域理解に繋がった。 ・ 地域の行事に参加したり、地域の方々とともに活動したりすることで、地域の文化や伝統を身近に感じる事ができた。	・ ゲストティーチャーの活用を工夫し、地域の方に関わっていただく活動内容を広げていきたい。 ・ 地域の方々から教わるだけでなく、子どもたちが地域の一員として主体的に活動できるような取組を行いたい。 ・ 地域の方々との交流が1日で終わってしまったので、お手紙でお礼を述べる、他の学校行事にも参加してもらうなど、関係を続けていきたい。		
公 民 館 （ 地 域 ）	・ 地域の方が授業に参加できることで地域のことを伝えたり、特技を披露することができ、生きがいに繋がった。 ・ まちたんけんでの公民館への訪問などを通して、子どもたちに公民館のことを知ってもらうことができた。	・ 人材の固定化が見られるため、地域、学校、公民館の連携をさらに深めつつ、公民館行事やサークル活動等を通じて、地域の人材把握や育成に努め、新たな人材にも取組に参加してもらおう。 ・ 地域のことを子どもたちにより知ってもらうためにも、毎年の恒例行事だけでなく新たな取組も検討していく必要がある。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
◇学力子育て部会 ・ 講師招聘研修について 各校の保護者学級を学社融合推進協議会を通じて広報し（協議会委員、地域）、参加を呼びかけることになった。	
◇ふるさと新庄部会 ・ 奥山の甌穴（県指定天然記念物）の看板の取り替え 昨年実施した甌穴探検の際に、説明の看板の老朽化を確認。その看板の取り替えについて協議したが、関係機関に問い合わせた結果、本協議会の活動としては難しいことが判明。 ・ 鳥ノ巣半島の泥岩岩脈の見学 国指定の天然記念物である泥岩岩脈やその周辺の地層についてのフィールドワークを実施することができた。	
◇防災安全部会 ・ 田辺市消防団新庄分団の協力で、防災学習を実施。	鳥ノ巣半島泥岩岩脈の見学
◇その他 ・ 新庄地区合同研修会を、来年度以降、本協議会の事業に位置づけていくことを検討。	
特徴的な協働活動	
「防災教育」（６年生・２学期） 新庄地域は、古くから津波の被害に悩まされてきたため、地域としての防災意識が高く、本校でも避難訓練や起震車体験の他にも様々な取組を行っている。新庄地域が津波に襲われた１２月２１日には、地域の方にお越しいただき、６年生を対象に地震学の授業を行ってもらった。過去の新庄地域での津波の被害について、様々な写真を見ながら学ぶことができ、防災について考える良い機会となった。	
	
「森林学習」（５年生・２学期） 森林のもつ様々な機能について学び、人々の生活や環境との関係について関心を深めるため、年間を通して森林学習に取り組んだ。 １１月に行われた５年生の宿泊学習では、本宮町を起点に１泊２日で森林に関わる様々な体験活動を行った。県木であるウバメガシの植樹を体験したり、フィールドワークを楽しみながら熊野古道を歩いたりすることで、森林が自分たちの生活に深く関わっていることを実感することができた。また、今年は熊野出合いの里で、伐採・製材体験を行い、和歌山県の重要な産業である林業についても学ぶことができた。 これらの活動を通して、子どもたちは、森林の大切さや森林を守るための取組などについて考えを深めることができた。	
	

学社融合推進協議会活動報告書 協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名		田辺市立新庄第二小学校		公民館名		新庄公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、学校運営に地域の声を積極的に生かし、学校・家庭・地域が一体となり、「地域とともにある学校づくり」を進めている。各園・学校単位でも学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとに特色ある学校づくりを進めている。							
目 標		学校・園・地域					
		田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。 新庄第二小学校教育目標 自ら学び、人にやさしく自分にきびしく、心豊かにたくましく生きる児童の育成をはかる。					
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織			
新庄地域のコミュニティスクール（イメージ図）  新庄地域学社融合推進協議会組織図 				学社融合推進協議会 ○幼稚園・小中学校育友会 ○学校支援者・地域代表者 ○地域関係団体 ○公民館運営委員会 ○新庄地区校区協議会 新庄第二小学校学社融合推進委員会 ○育友会本部役員 ○主任児童委員 ○元学校評議員 ○校長・教頭・学社融合担当			
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学校				公民館（地域）			
①公民館や関係機関と連携・協働し、地域の人的資源を活用することにより、学校単独では実現が難しい活動を実施することができた。また、地域素材を教材化する際に、公民館主事と一緒に地域巡りを行い集めた情報をもとに、特色あるカリキュラムをつくることができた。 ②学校課題解決に向けたチームを、学校の校務分掌と育友会の部会を併せて組織し、協働しながら解決に向けて取組を進められている。 ③校内研修の門戸を学社融合推進協議会委員にも開いて実施することにより、学校の現状や喫緊の教育課題を理解してもらうことができた。				①学校教育側のメリットだけでなく、社会教育側のメリットも考えカリキュラム設計しているが、公民館と連携・協働し、取組（カリキュラム）を毎年ブラッシュアップしていく必要がある。 ②教職員の入れ替わりが早いため、学校の学社融合担当を固定しにくい状況にある。地域や保護者とスムーズに連携・協働していくために、継続した人的配置を行えるよう工夫する必要がある。 ③校内における取組格差を無くしていけるよう、また、取組の質の向上を図れるよう、学年部等チームでカリキュラム設計をしていく必要がある。			
①「新二まつり」「サークル活動（箏・グラウンドゴルフ・俳句）」「新庄ぎおんさんの夜見世」など多種多様な取組により、たくさんの地域の方が活動に参加できた。子どもたちの活動や様子を知れるとともに、多世代の交流にも繋がった。 ②地域の方が授業に参加できることで地域のことを伝えたり、特技を披露したりすることができ、生きがいに繋がった。				①地域子どもたちに対する関心を高めるような仕掛けを展開していく。 ②人材の固定化が見られるため、地域、学校、公民館の連携をさらに深めつつ、公民館行事やサークル活動等を通じて、地域の人材把握や育成に努め、新たな人材にも取組に参加してもらう。			

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

*** 学力子育て部会**

協議内容：教育諸課題について学べる機会の提供について
教育講演会を公民館で実施するという発想からの転換を図り、それぞれの学校で実施している保護者学級の門戸を新庄中学校区に広げ、新庄地域の保護者それぞれが、必要と感じているテーマ（教育諸課題）を取捨選択し、学校区を超えて一緒に勉強できる機会として提供できるようにした。



11月29日に新庄第二小学校
で

*** ふるさと新庄部会**

協議内容：フィールドワークについて
地域を知るために国の天然記念物である泥岩岩脈が見られる鳥ノ巣での現地学習を実施することとなった。



11月18日に新庄第二小学校で
実施した防災参観日の親子体験

*** 防災安全部会**

協議内容：防災体験の実施について
消防新庄分団・田辺市消防本部と防災参観日・新まつりにおける親子防災体験活動の内容について確認した。

特徴的な協働活動

タイムカプセル開封式の企画・運営

～ 今と昔が出逢うとき 未来へつなぐ 新二のキズナ～

＜取組の概要＞

今年度、本校は創立75周年を迎えた。学校が創立50周年を迎えた平成10年にタイムカプセルを設置し、それを25年後の2023年に開封することとなっていた。今年度に開催する新二まつりでタイムカプセル開封式を挙行することとし、昨年度より実行委員会を組織し取組を進めてきた。

タイムカプセル開封式を「過去と現在、そして未来をつなげられるような式典にしよう」を合い言葉に、実行委員会を立ち上げるところから取組をスタートさせた。実行委員会は、【保護者】現育友会長(1名)、副会長(2名)、【学校職員・児童】管理職(2名)、児童会担当職員(2名)、現児童会役員(8名)、【地域の人】当時小学生だった方々(15名)で組織した。保護者・学校・地域、大人と子どもが一体となって協働しながら開封式をどのような式典にするか検討を重ねた(実行委員会7回実施)。遠方の実行委員は、リモートで会議に参加(写真①)。第5回実行委員会は、大人と子どもが式典の内容についてアイデアを持ち寄り協議する機会となった(写真②)。開封式当日の運営は、当時の小学生である大人の実行委員と現児童会役員で行った(写真③)。

<成果>

実行委員会、当日の式典の運営の様子から、子どもたちが主体的に企画・運営に参画する姿が見られた。この新庄地域には、新庄地域学社融合推進協議会を核とし、学校、家庭、地域が一体となって地域の子どもたちを育てるという素地が脈々と受け継がれてきている。新庄第二小学校を卒業した先輩の母校に対する思いに触れ、在校生も愛校心が高まった。



第2回実行委員会
(リモート会議)



第5回実行委員会
参加者：卒業生・児童会役員・
学校職員・育友会役員



第35回新二まつり
運営：卒業生・児童会役員



公民館主事と協働した地域巡り
(カリキュラム開発)



地域の人的資源から学ぶ
「地域の歴史や文化」編



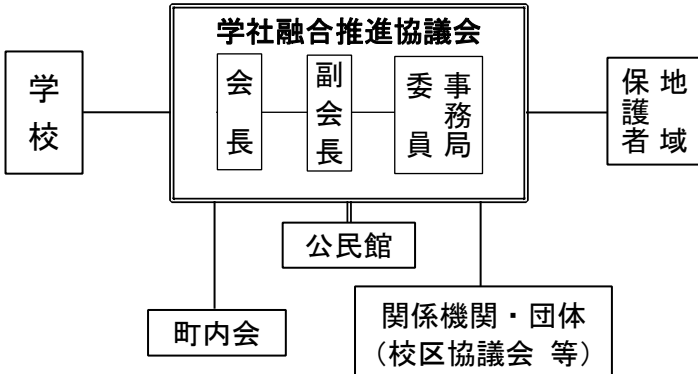
新二まつりにおける情報発信
「ローカルトレジャーハンター」

学校・園名	田辺市立三栖小学校	公民館名	三栖公民館								
学社融合における学校・地域の様子											
本校区は、梅を中心とする農村地域である。しかしながら、宅地造成や集合住宅の建設が進み、近年は専業農家数が減少傾向にある。また、他の地域からの転入数も多くなっている。このような状況の影響により、昔と比べ、人と人との繋がり方が難しくなっている。本校PTA組織は「育宝会」と名付けられており、子どもは地域の宝という意識が地域全体にある。地域は学校に協力的で、運動会等の学校行事やクラブ活動、教科学習でも各種団体に協力をいただきながら取り組んでいる。											
目 標	学 校 ・ 園 ・ 地 域	・ 地域の人々の知識や経験を生かし、積極的に他者に関わろうとする態度を育てる。 ・ 体験を通して、コミュニケーションを図るとともに、自他に関心を持つ。 ・ 地域の人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員として自覚をもたせ、ふるさとを愛する心を育てる。 ・ 子どもと地域への愛着、地域貢献の心を育む。 ・ 地域住民が子どもたちとのふれあいから、子どもたちの様子を知り、教育活動への関心を高める。									
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織									
<table><tr><td>会長（公民館長）</td><td>副会長（町内会長）</td><td>委員</td><td>・地域関係者 ・保護者 ・校園長</td></tr><tr><td></td><td></td><td>事務局</td><td>・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職</td></tr></table>		会長（公民館長）	副会長（町内会長）	委員	・地域関係者 ・保護者 ・校園長			事務局	・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職	・ 三栖公民館文化委員 ・ クラブ活動外部講師 ・ 交通安全指導員 ・ 交通安全協会 ・ 衣笠中学校 ・ 三栖幼稚園 ・ 保護者	
会長（公民館長）	副会長（町内会長）	委員	・地域関係者 ・保護者 ・校園長								
		事務局	・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職								
成果と課題（学校・公民館からの視点）											
成 果		課 題									
学 校	・ 日頃から幼稚園や中学校、公民館と積極的に連絡をとり、互いの行事に参加する機会をつくることができた。 ・ 機会を捉えて地域と関わりながら学習することで、学校・児童と地域を繋ぐよいきっかけとなった。 ・ 史跡巡りでは、公民館文化委員の方々に語り部をしていただきながら地域の歴史について学ぶとともに、地域に対する誇りと愛着を育てることができた。 ・ 一部のクラブ活動では、地域の方を外部講師としてお迎えし、専門的な知識や技術について学ぶことができた。 ・ 上野地区との交流では、児童が主体となって企画し、相互利益が得られる取組にすることができた。 ・ 幼稚園や中学校、近隣校の教員と合同で授業研修を行い、様々な視点からの意見交流をすることができた。	・ 幼稚園や中学校と少し離れていることもあり、互いに行き来する機会をあまりもつことができていないため、交流を深めるための工夫が必要である。 ・ 児童は取組によって様々な学習をすることができているが、「地域の一員であるという自覚」にフォーカスを当てるとともに、主体性を高めていきたい。 ・ 学社融合担当者以外の教員も地域との関わりを広げることができるとともに、主体性を高めていきたい。 ・ 地域に助けていただく取組がほとんどであるため、学校が地域に貢献できる機会を増やしていきたい。 ・ ただ取組を継続するだけでなく、より効果的な取組の工夫をしていきたい。									
公 民 館 （ 地 域 ）	・ 史跡めぐりを通して、三栖地域の歴史を子どもたちに知ってもらうとともに、文化委員と子どもたちとの世代間交流ができた。また今年度は巡る箇所を増やすことにも取り組んだ。 ・ 三栖公民館のロビーにおいて月替わりでロビー展を今年も継続実施している。また、公民館前の掲示板を修繕し、小学校の掲示委員の子どもたちに毎月の装飾をしてもらったことで、日常的に地域の方々に児童の作品を見てもらう機会を提供できた。 ・ 学校を訪問し、授業の見学をさせていただく機会が多々あり、子どもたちの様子を知ることができた。 ・ 公民館だより（館報）の発行を通じて学社融合の取組などを広く発信できた。	・ 公民館関係者の高齢化により、史跡巡りの参加可能な方が減少してきている。年齢層の若い方も増えてはいるものの、日中の学社融合の活動に参加してもらうことは難しい状態である。 ・ 活動への参加者を増やすためには、地域ぐるみで子どもを育成するという意識を高めていく必要がある。コロナ禍明けとして活動は再開できたが、協力いただける地域の人材を発掘し、より充実した環境を作る必要がある。 ・ 学校と公民館、公民館と地域といった二点間で終わることなく、三者で関わる機会を作りたい。									

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
【協議の中でいただいたご意見と取組】 ①開かれた学校づくりを大切にしていきたい ・ 1日のどの時間帯でも保護者が学校に足を運びやすくするため、時間割をお知らせした上で1日まるごと参観日を学期ごとに2日間設定した。 ・ 修学旅行やキャンプ等の宿泊体験学習の際、本校LINE公式アカウントのタイムラインを使って写真・動画・テキストでリアルタイムに様子を配信した。 ・ 運動会や音楽会の様子を動画にまとめ、youtubeで保護者に配信（限定公開）した。 ②あいさつができる子どもを育ててほしい ・ 児童会・学級委員・職員が校門前で朝のあいさつ運動を行っている。 ・ 児童会でどのようなあいさつができるかとよいかについて話し合い「あいさつレベル表」を作成し、各学年に周知した。 ・ 全校あいさつ強化月間を各学期に設け、各学級で目標を決めて取り組むとともに、月末に振り返りを行っている。 ③ベテラン教員（特に特別支援学級）の指導や児童への関わり方を見て若手が学べる機会を作るとよい ・ 研究授業に関わらず、互いに授業を参観する機会を増やした。 ・ 特別支援学級の公開授業の実施。 ・ 校内特別支援委員会を毎月開催。また、特別支援教育コーディネーターに日常的に相談できるようにしている。 ④町内会を基盤とした地域力の向上を目指していきたい ・ 学校としてできることは、児童や保護者同士のつながりを大切にしていこうと考える、PTA行事の開催や参加の呼びかけを積極的に行った。	
特徴的な協働活動	
上野地区との交流 5年生児童 上野地区 きっかけ・課題 交流会をしよう！ 協働 ・敬老の日のお手紙を喜んでもらえて嬉しかった ・もっと喜んでもらえることをしたい ・三栖小学校区なのによく知らない ・自分たちのことを知ってもらいたい ・上野地区がどんなところか行ってみたい ・上野地区の過疎化が進んでいる ・コロナ禍以降、行事もなく、地域の人同士のつながりが以前より減ってきている ・地域について知ってもらいたい ・地域外の人に足を運んでもらいたい	
1. 交流会に向けて 【児童】 ・国語科「話す・聞く」教材の単元名を「目指せ話し合いマスター～上野地区と交流するために～」と設定し、教材から習得した話し合いのコツを活用して交流内容を計画 ・歌の練習 ・クイズ作り ・プレゼント作製 ・タブレット端末を使用してチラシを作成 【学校】 ・旧馬我野小学校の講堂の清掃・ワックスがけ ・運動場の草刈り ・会場設営 ・旧馬我野小学校の歴代卒業アルバム等の写真展示 【地域】 ・地区内へのチラシの配布、参加よびかけ ・上野散策語り部計画 ・旧馬我野小学校校歌楽譜の搜索 ・ストーブ等の機器設置 ・簡易トイレの設置	
2. 交流会 ①開会挨拶(区長、校長、児童) ②〇×クイズ、スリーヒントクイズ(自分たちのことを知ってもらうための三栖小学校にちなんだクイズ) ③歌の披露(♪ふるさと ♪Believe ♪旧馬我野小学校 校歌) ④プレゼント贈呈(折り紙で作った花束) ⑤閉会挨拶(副区長、児童) ⑥上野地区散策(旧馬我野小学校から捻木の杉まで片道約2km、区長さん・副区長さんに語り部をしていただきながら捻木の杉まで歩いた。公民館文化展で三栖の史跡巡り発表の際に上野地区の史跡についても紹介する)	
3. 成果と課題 (成果) ・課題としていた地域貢献活動ができるよい機会となった ・地域の方々から感謝の言葉をたくさんいただくことができた ・児童が地域へ貢献し、達成感や成就感を得ることができた ・協働活動を通して相互利益を得ることができた (課題) ・交通手段をどうするか ・来年に向けてどのように繋げていくか ・実施時期の設定 (学校行事との兼ね合い)	

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：長野小学校学社融合推進協議会

学校・園名		田辺市立長野小学校		公民館名		長野公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
本校区は自然豊かな地域で、長野区では梅やみかん作り、伏菟野区では米作りやきくらげ生産に携わっている家庭が多い。地域の方々は、協力的でいつも児童を温かく見守ってくれている。児童らは、公民館や諸団体、地域の方々の協力を得ながら、地域の自然・産業・歴史・伝統文化等を学ぶことで、地域の素晴らしさを知るとともに地域を愛する心が育まれている。また、学校行事には地域から多くのご参加をいただき、児童と地域の方々の交流はもちろんのこと、地域の方々同士が交流する機会にもなっている。							
目 標	学校・園・地域	地域と共にある学校づくり					
		～学校・家庭・地域のみんなで自立・共生・健康をめざして～					
学校・家庭・地域の三者の力を集め、「自立」「共生」「健康」という長野小学校の教育目標を地域住民の目標としつつ、三者が知恵を出し合い、当面する教育諸課題克服のための諸取組を模索し、展開していく。							
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織			
				学社融合推進協議会 ○ 小学校育友会 ○ 長野公民館 ○ 長野町内会 ○ 長野校区協議会 ○ 長野郷明会 ○ 地域関係団体 その他関係機関 ○ JA紀南長野店 ○ 光福寺 ○ 不動寺 ○ 各区老人会			
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学校	・ 公民館や諸団体、地域の方々にご協力いただき、校内の環境整備をはじめ地域学習や参観授業等の行事を実施することができた。 ・ 今年度は創立150周年を迎え、記念行事の運営には協議会委員の方々や地域の方々等に大変ご尽力いただいた。また、創立150周年フェスティバル当日は多くの方々にご来場いただき、児童らの頑張りを見ていただくことができた。これを機に、地域の方々との関わりと学校や地域の歴史等について学びを更に深めることができた。 ☆児童らは、地域の方々にいつも温かく見守られていることを実感し、地域の良さや歴史について学ぶ機会を得ることで、さらに地域への関心を高めることができた。			・ 児童数減少が気になるところではあるが、児童には、さらに地域のことを学びたいという意欲を持たせると共に、新たな地域の魅力を発見できるようにしていきたい。 ・ 今後も、地域学習や体験活動の範囲を広げ、児童の目がより地域に向くよう進めていくことが大切である。 ・ 児童が、地域に住む一員として地域のことを学ぶだけでなく、地域のためにできることを考え行動し発信していくことや、地域の良さを他地域へ発信していくような工夫も必要である。 ☆長野・伏菟野地域への愛着や誇り、地域に貢献する心を育て実践に繋げていく。			
公民館（地域）	・ 今年度の地区内ハイキングでは、児童と地域住民が共にひるね茶屋まで登り、児童の元気な姿を見てもらい、交流を深めることができた。 ・ 地域の方々の学習会については、前年度の実施で好評であった講師先生を再度招き開催。（1月27日に開催予定） ・ 長野小学校150周年フェスティバルと同時に3年ぶりとなる長野文化展を開催し、来場者数100名を超える盛況となった。 ・ 学社融合推進協議会関連の各種行事等で、地域住民（公民館・町内会・各団体等）の学校訪問機会を多く確保することができた。			・ 公民館関係者の高齢化が進む中、館区内での人材確保が大きな課題である。今後、地域の方々との信頼関係をさらに築いていくことで新たな人材を発掘し、将来へとつないでいく仕掛けが必要である。 ・ 児童数も人口も減少傾向にある中、今後どのように活動を持続していくのか、事業の見直し等も含め話し合っていく必要がある。 ・ 地域の方々との積極的な関わりを通して、地域の新たな魅力を発見し、今後の取組に繋げていく。			

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
◎ 少子高齢化が進んでいる現状から地域活性化のために必要なこと	
【地域づくり】	
・ 地元に帰ってきたいと思える ・ 地元に帰ることができる	} そんな地域づくりをしていくことが大切！
☆ 長野・伏菟野地域への 愛着や誇り 地域に貢献する心を育てる	
【地域の方々の協力】	
・ 児童の見守り活動 ・学校行事等での関わりや協力 （行事でのゲストティーチャーや行事への参加、学校の環境整備等） 記念行事に関する内容の提案と地域人材の紹介や積極的な活用 等	
※今年度は長野小学校創立150周年を迎えるにあたり、特に、記念行事の運営に大変ご尽力いただいた。	
特徴的な協働活動	
【創立150周年記念行事】	
①創立150周年記念地区内ハイキング	
地域や保護者の方々と一緒に、長野地域にある熊野古道を歩きながら地域の名所を訪ねた。 近世の石畳や関所跡の石垣が残っている長尾坂、眺望が良いひるね茶屋等、地域の方々との交流を深めながら地域の良さや歴史について知るよい機会となった。	
②創立150周年フェスティバル	
長野小学校が、令和6年1月20日（土）に創立150周年を迎えるにあたり、それを記念して、令和5年11月18日（土）に「長野小学校創立150周年フェスティバル」を開催した。 児童・保護者・地域が一体となり、午前中の児童の発表をはじめ、午後からは、卒業生の森光國氏による記念講演「私たちの誇り；長野小学校と長野の里」や上秋津中学校・衣笠中学校の生徒さんによる発表が、さらにフェスティバルを盛り上げてくれた。参加者全員で、積み重ねてきた長野小学校の歴史をふり振り返りながら、伝統と誠実の心を未来へつなげることを誓い合った。	
	
※児童らは、創立150周年フェスティバルを通して多くのことを学び、来場者の方々から多くの称賛をいただいた。	
＜児童の感想＞	
・長野小学校は、ほくにとってたくさんの思い出が詰まっている場所。・これから、地域の方々と交流を深め、長野小学校がより一層活気あるいい学校になってほしい。・戦争で大変な時代から今の平和な時代まで長野小学校の歴史が受け継がれてきたことを知り、今も長野小学校があることを嬉しく思うと同時に、私が卒業して大人になっても長野小学校は残っていてほしい。 等	
＜来場者の方々の感想＞	
・地域に学校があることの意義が、午前中の発表と重ね合わせてよく分かった。・小学校は地域の宝。子どもたちの声が聞こえることが地域を明るくしてくれる。・児童の発表は、見ている者を楽しませてくれた。このまま素直に成長してほしい。・一生懸命発表している姿に心を打たれた。嬉しく思い励みになった。・久しぶりに感動のひとときを過ごすことができた。 等	

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：上秋津地域学社融合推進協議会

学校・園名		田辺市立上秋津小学校		公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子					
当地域は田辺市の中でも、梅・柑橘類を中心とした農業の盛んな地域である。そこで本校では、長年にわたり、地域の方々の協力を得て、体験学習に取り組んできた。近年、学校と公民館が連携して学社融合を深化させ、幼稚園、小・中学校が公民館と連携し「上秋津学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の方々の意見を取り入れた学校運営を進めている。					
目 標	学校・園・地域	・地域の地場産業である農業を学校教育に取り入れ、体験活動を通して地域の良さを知り、ふるさとを大切にする心を育てる。			
		・防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育を進める。			
		・幼・小・中・公民館が連携して地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。			
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織		
上秋津学社融合推進協議会 (会長1名・副会長1名・委員9名) 上秋津幼稚園 上秋津小学校 上秋津中学校 公民館 保護者・地域			・農業体験学習支援委員会 (ＪＡ紀南、ＪＡ紀南青年部、 上秋津公民館、育友会) ・上秋津町内会		
成果と課題（学校・公民館からの視点）					
成果課題					
学校	・公民館に講師をコーディネートしていただき、連携を図ることができた。 ・地域とのさまざまな関わりを通して、児童は地域に親しみをもち、上秋津の良さについて知るよい機会となった。 ・高学年では、実際に農家の方にインタビューさせていただいたり、一緒に活動に取り組ませていただいたりすることで、地域の良さについて考えるよい機会とすることができた。 ・「上秋津作品展」に作品を展示してもらうことで、地域の方にも児童の作品を見てもらうことができた。		・取組時期の調整の関係から、見通しを持ってゲストティーチャーに依頼する必要がある。 ・教師間で入れ替わりがあっても、地域についての取組を共有し、継続して取り組むことができるように位置づけていきたい。 ・今後も「活動して終わり」にならないよう、自ら進んで挨拶をしたり、人と関わったり、コミュニケーション能力を高める機会としていきたい。子どもたちの学びを地域へ発信していくことを、教師間でしっかり共有していきたい。		
公民館（地域）	・公民館が持つ地域との繋がりを生かし、小学校との協働活動において連携を取ることができた。 ・地場産業であるウメ、ミカンなどの体験学習の講師派遣や学校農園での収穫作業、高齢者との世代間交流の人集めなど、公民館から農業関係者や地域の高齢者に声かけを行い派遣することが出来た。		・農業体験は地域を学ぶ絶好の教材ではあるが、作物の成長の関係で収穫日があらかじめ設定できないことに加え、収穫期は農家にとって繁忙期であり、少なからず協力いただく農家にも負担をかけてしまう。 ・コロナ禍で公民館事業の中止が続いた結果、サークル活動においては参加者数の減少傾向となっている、それに加え老人クラブや女性会などがなくなるなど、公民館の繋がりを生かした活動を継続する上で、今後の課題となっている。		

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

◆第1回学社融合推進協議会 定例会（上秋津小学校）令和5年5月25日（木）

- ・令和4年度活動報告
- ・令和5年度計画
- ・意見交流

・児童の横断の仕方について、ご意見をいただいた。運転している方が常に気を付けてくれるわけではないので、自分の命は自分で守ろうとすることが大事である。
・スクールプランをもとに今年度の計画をお知らせした。
・上秋津幼稚園から園児数減少について話題が出た。

◆第2回学社融合推進協議会 定例会（上秋津幼稚園）令和5年9月15日（金）

- ・上秋津幼稚園参観
- ・各校園の取組と成果・課題について
- ・情報モラル教室について

◆第3回学社融合推進協議会 定例会（上秋津中学校）令和6年2月

- ・各校の取組と成果・課題について
- ・意見交流
- 学校評価アンケートより

特徴的な協働活動

1年 生活科「げんきにそだて わたしのはな」～さつまいもをそだてよう～

- ◆さつまいもを育てるにあたって、地域の方に、「苗植え」「いもほり」の活動のお手伝いをしてもらいました。収穫の際には、いものまわりをやさしく掘ることを教えてもらいました。大きなおいもをほり、満足そうな様子でした。
- ◆参加していただいた方から、「楽しかったよ」「来年も来たいよ」と声を聞くことができました。

2年 生活科「町たんけんにでかけよう」～上秋津のひみつ

- ◆3チームに分かれ、「秋津野ガルテン」「上秋津公民館」「JA上秋津支所」「Vショップ上秋津店」「DISH」「はつやま鮮魚店」「野村商店」「秋幸醸造」の計8カ所に出かけました。

- ◆それぞれの場所で、質問に答えてもらい、「上秋津」のことを知ることができました。実際に対面でき、地域の方から直接話を聞くことができ意義のある学習となりました。

- ◆地域の方には、各学年で「ゲスト ティーチャー」として関わってもらいました。「農業体験学習支援委員会」では、一年間の学習の流れを共有してもらい、体験の場の提供等していただきました。

学校・園名		田辺市立秋津川小学校		公民館名		秋津川公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
本地域は豊かな自然や伝統文化、地域産業に恵まれており、また、地域の方々の学校教育への協力体制も手厚く、常に子どもたちを温かく支えてくださっている。学社融合の取組によって地域の産業や伝統文化等について学ぶ中で、地域のすばらしさを知り、地域を大切に思う心が育まれている。また、秋津川中学校や秋津川保育所との「保・小・中連携活動」によって、交流を縦軸にもつなぐ取組を継続している。							
目 標		学校・園・地域					
		・ふるさとに夢や誇りを持ち、未来の創り手となる子どもを育成するため、学社融合を推進し、地域の豊かな伝統、文化、産業、自然環境等について学ぶとともに、地域の方々に感謝し、地域振興に主体的に貢献しようとする態度を育てる。 ・地域の方々との温かな交流を通して、対話や協働する力を育むとともに、地域への愛郷心を養う。 ・日常的に子どもたちと接する機会の少ない方々に、行事などを通して交流を持っていただき、地域の活性化につなげていく。					
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織			
教育委員会 秋津川地域学社融合推進協議会 秋津川小学校 ↔ 秋津川中学校 保護者・地域				秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川振興会 JA紀南秋津川店 JA女性会 秋津川婦人会 秋津川中学校 秋津川保育所			
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学 校		・秋津川公民館・秋津川振興会をはじめ、地域の方々の積極的な支援があり、児童は地域の自然や産業、伝統文化のよさを実感しながら学びを深めることができた。 ・紀州備長炭風鈴づくりやウバメガシの森づくりの植樹・育苗活動をとおして、子どもたちは地域のために貢献する経験ができた。 ・秋津川町民運動会やふるさとまつりでは、久々に地域全体での開催となり、交流を楽しむことができた。			・学社融合活動を支えてくださる地域の方々への感謝の気持ちを今後も大切にするとともに、地域社会の願いに応じて行動している子どもたちの意欲を次年度にもつないでいく。 ・教科書の改訂に伴い、学社融合活動と各教科等の内容や系統性についての関連を図り、教育課程を編成する。		
公 民 館（地 域）		・秋津川地区はこれまでも地域と学校の繋がりが深く、地域が学校を支える体制が整っていた。また、コロナ禍の3年間は多くの活動が中止となったが、活動が再開され今年も町民運動会やふるさとまつりにおいては、学校と地域が一体となり協働した取組が行えた。			・コロナ禍後の初めての年であったが、学校と地域が連携し活動することができた。 ・地域の人口が減少していることに伴い、児童数も減少しているが、これまでの繋がりを生かした学社融合活動を進めていきたい。 ・少人数であっても、児童と地域との交流など秋津川地区ならではの独自の活動を大切にしたい。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
○学社融合推進協議会において、学校運営方針に関して承認をいただいた。 ○今年度も、地域の関係機関、各種団体と連携しながら、秋津川地域の特色を生かした教育活動を展開していくことを確認した。また、学社融合推進協議会の方々には、ふだんから学校を訪問していただき、教育活動の状況や子どもたちの様子の共有を図ることも確認した。 ○これまでの様々な地域学習が、教育活動の充実につながっている。学習の成果は、これまでも学習発表会等で発表してきているが、今年度はより広域に発信できるよう、リーフレット等にもまとめてみることにした。 ○今後も、子どもたちのために、アットホームで和やかな本地域の良さを生かしながら、協議を重ねていくことを確認した。	
特徴的な協働活動	
○秋津川たんけんたい（1・2年生） 中村地区・竹藪地区を探検し、紀州備長炭記念公園やJA紀南梅加工場を訪れた。 紀州備長炭物産店では、人気の商品や仕事でうれしいと感じる時などの話を聞くことができた。 梅加工場では、梅干しをおいしくつくるための工夫などについて教えていただいた。 【児童の感想】 ・梅ぼしを試食したときは、ちょっとすっぱかったけど、やわらかくておいしかったです。サイズを分けるきかいや水あらいをするきかいが大きかったので、びっくりしました。	  ○紀州備長炭発見館見学（3～6年生） 紀州備長炭発見館の方々から、備長炭の歴史や製法、優れた特質や活用法などについて、詳しく教えていただいた。また、修復中の炭焼き窯や窯出しの様子を見せていただくこともできた。地域の特産品である備長炭に関心を持ち、さらに調べて発信したいという意欲を高めることができた。
  ○梅収穫体験・梅ジュースづくり（全学年） ○さつまいも収穫体験（全学年）	  ○紀州備長炭風鈴づくり（全学年） 秋津川振興会の方々に教えていただいて、紀州備長炭風鈴を製作した。風鈴には田辺地域を訪れる人々に向け、「ようこそ田辺へ」などの歓迎の言葉を書いてつるした。できあがった風鈴はJR紀伊田辺駅とtanabe en+に飾り付けた。紀州備長炭の涼やかな音色が鳴り響いていた。 【児童の感想】 ・田辺を訪れる多くの方に、紀州備長炭のきれ
○秋津川町民運動会（地域全体） 地域の方々、秋津川保育所・秋津川中学校の皆さんと共に運動会を行うことができた。子どもたちは、練習を重ねたダンスを披露したり、地域の方々とともに玉入れなどの様々な種目で活躍したりすることができた。児童会で考えたスローガン「みんなで力を合わせ、元気を届けよう！笑顔が輝く秋津川」に向かって取り組む子どもたちの姿を、地域の方々に見ていただくことができた。	  ○秋津川ふるさとまつり（地域全体） ○紀州備長炭の里秋津川 ウバメガシの森づくり（地域全体）

学校・園名		田辺市立上芳養小学校		公民館名	上芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子					
自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に大切に見守られながら学校生活を送っている。 小学校・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動には協力的である。 公民館は子ども対象の行事の実施や住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催し地域の交流を図っている。					
目 標	学校・園・地域	学校 ○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする児童生徒を育成する。 ○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。			
		地域（公民館） ○将来を担う子ども達が地域のことをよく知り、多くの地域住民と交流することで地域に愛着を持つような学社融合の取組を行う。 ○子ども達が学校生活では体験できないような事業を実施し、豊かな感性を育む。			
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織		
上芳養学社融合推進協議会 委員15人 （学校関係者、 各種団体代表及び学識経験者） 事務局4人（上芳養小・中、公民館） 各種団体・地域住民等 校区協議会 小学校、中学校及び育友会			育友会 上芳養小学校育友会 上芳養中学校育友会 上芳養公民館 日向保育所 各種団体 ・上芳養町内会 ・交通安全協会上芳養分会 ・上芳養消防団 上芳養校区協議会 学識経験者 地域の事業所・地域の先生		
成果と課題（学校・公民館からの視点）					
成果			課題		
学校	・学校の情報を様々な手段で発信（ホームページ・公式LINE・学校だより）することで、学校の“今”を見える化ができ、地域や保護者の信頼を得た。 ・地域の方は、非常に協力的である。梅学習を年間計画に位置づけ、地域の人たちから系統的に学ぶことができた。また、校内を芸術的な環境に整え、児童は落ち着いた環境で豊かな学びの時間を過ごすことができています。 ・たくさんのゲストティーチャーを依頼することができた。		・梅学習については、受け身的な内容が多く、目標に繋がっていない。このことから児童と保護者、地域の方々が共に熟議を行い、協働する活動にアップデートすることを通して、将来地域に貢献する意欲や予測不可能な社会を切り開く創造性を高めたい。これを、3学期から取り組む予定である。 ・コロナが第5類になったが、高齢者学習や障害者施設への訪問等の福祉学習に取り組めていない。今後、実施できるようにしたい。 ・地域や社会に貢献できる人材育成の視点から、公民館をはじめ地域の各種団体とより連携を深める必要がある。		
公民館（地域）	・カヌー体験教室をプール等ではなく、大自然に囲まれた日置川で実施した。児童達は日常生活ではできない体験を通して、豊かな感性を磨き、育むことができた。 ・体育等の各種公民館事業において、児童や教職員、地域の方が積極的に連携・協同して取組を行うことができ、新たな関係性を築いたり、より強固にしたりできた。		・乗馬体験教室への参加者数の減少が顕著であるので、本年度は新たな試みとして、乗馬だけではなく親子参加型の一社会見学会として企画したが、参加者数は振るわずに敢え無く中止となった。来年度は、児童・保護者のニーズを汲み取りながら再検討していく。 ・地域の若い世代の方も、学社融合の取組により参加していただけるように引き続き人材の発掘に努める。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
第1回定例会 令和5年7月6日（木） ○上芳養小、中学校 学校経営方針 ○令和5年度事業計画書 ○令和5年度収支予算書 ○今後の本校の姿について熟議を行う。	
臨時会議 令和5年12月14日（木） ○上芳養小学校の取組・・・梅学習を中心とした取組の紹介 ○上芳養中学校の取組・・・梅アピール大作戦等取組の紹介 ○今後の活動について 令和6年度小学校の活動について （農業未来基金を活用した総合的な学習の時間の更新） ・上芳養ミライプロジェクト かみはやミライ塾 かみはやきゃらばん@梅田 かみはや梅キッズ ・上芳養小学校創立150周年について ○その他 ・上芳養の農業について、現状と未来への展望 ・上芳養の農業の歴史	
第2回定例会 2月に開催予定 ・活動のまとめと次年度の取組について ・学校評価について	
特徴的な協働活動	
～ 梅から地域を学ぶ	
【3年】6月 梅座学 JA職員より梅についてのお話を伺う。 梅採り 地域の方の畑で体験をする。 ⇒ 梅ジュース作り	
【4年】3学期 着花率調べ JA職員の指導のもと、地域の方の畑で観察・調査をする。（予定）	
【5年】6月 梅座学 JA職員より着果率、流通等のお話を伺う。 梅拾い・梅漬け体験 地域の方の畑で収穫し、地域の梅農さんの指導で梅を漬ける。 7月 梅天日干作業 地域の方の指導のもと実施する。 3学期 梅干しパック詰め（予定） 1月22日、2月9日、3月4日に「かみはやミライ塾」を開催する。「かみはやミライ塾」では、児童と協力者・地域の方・保護者が熟議し、パンフレットを作ったり、梅の配布の計画をたてたりする。（予定）	
【6年】5月 修学旅行で新京極商店街の一面を借り、梅を配布する。 3学期 梅座学 地域の方より世界農業遺産等についてお話を伺う。（予定）	
～ 地域の先生から学ぶ ～	
ころころ山 読み聞かせ 全学年 毎月第2第4木曜日 8:10～8:30 地域の方々と構成されている読み語りグループ「ころころ山」のメンバーが読み聞かせをしてくれている。学年に合わせ、紙芝居や絵本を中心に読み聞かせしてくれている。時には語りもしてくれる。コロナのため中止していた全学年一堂に集めての読み聞かせを、今年は11月に行った。	
生け花教室 6年 毎週水曜日 12:45～ 生け花教室を開いている先生に来ていただき、生け花教室を行っている。同時に花の名前や花の特徴も教えていただいている。できた作品は、約2週間玄関ホールに飾る。	
ようこそ先輩 5, 6 創立記念日（7月15日） 7月10日8:10～ 毎年創立記念日に上芳養小出身の先輩に来ていただき、昔の地域や子どもの様子についてお話をしていただいている。 今年は、平成25年度卒業の都築勇貴さんに来ていただいて、「夢を実現するため」について話していただいた。	
年間10時間 書道教室 3～6年 書初会の時期を中心に、地域の書道に精通している方に来ていただき、毛筆を教えていただいている。文字の細かいポイントまで分かりやすく教えてくれている。 3年生は、毛筆を初めて習うので、道具の扱い方や筆の持ち方書き方等、基本から教えてくれている。	
11月 上芳養名人にインタビュー 4 上芳養の産業や特色等について理解するため、地域に住んでいる名人にインタビューした。和菓子職人・シェフ・しめ縄職人等5人に行った。	
上芳養の未来がよりよくあるために 6年 地域の農家の方々と招いて、上芳養の未来について話していただき、地域の方々と意見の交流を行った。	

学校・園名		田辺市立中芳養小学校	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
本校は、田辺市街地周辺の梅・柑橘類の栽培を主とする農村地帯にある。児童は明るく、上級生が下級生の世話を進んで行き、地域住民も学校の教育活動に協力的で、みんなで子供たちを見守ろうとする優しい雰囲気の中で教育活動を行っている。平成28年度までの「共育コミュニティ本部事業」の三つの柱「子供の育成」「文化の継承」「交流の推進」を大切にし、学校と公民館が連携しながら地域の教育資源を活かした教育活動の充実に努めている。				
目 標	学校・園・地域	・子供たちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
中芳養地域学社融合推進協議会 (会長・副会長・委員10名) 地域 公民館 幼稚園 小学校 中学校 PTA 子供の育成 文化の継承 交流の推進			・中芳養公民館 ・中芳養幼稚園 ・中芳養中学校 ・JA紀南芳養谷支所 ・中芳養町内会 ・中芳養地区老人会 ・中芳養地区消防団 ・中芳養小学校PTA ・地域の農家 ・地域の寺院・神社	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成果			課題	
学 校	・コロナの5類移行に伴い、多くの活動を実施することができた。地域の自然・歴史・産業等の教育資源を生かした豊かな学びが展開できている。 ・ふるさと学習を通じて、児童は教科書では学べないことを学び、郷土の良さを知ることができている。 ・一連の学習過程のなかで、課題づくり、体験、調査、発表等の活動を通して、児童は仲間と協力しながら探求する力や表現力等を育成することができている。		・ふるさと学習のカリキュラムはほぼ確立しているが、児童の実態や時代の変化をふまえつつ、指導者の創意工夫でよりよいものにしていきたい。 ・ゲストティーチャーとして協力してもらえる人材を、今後も公民館と協力して探していく必要がある。 ・活動や体験のみにならないように、活動の目的・目標を明確にして学習していくことが大切である。 ・学校の取組を保護者や地域に知ってもらえるように、引き続き積極的な情報発信に取り組んでいきたい。	
公 民 館 （ 地 域 ）	・今年度、新たに地域の方を講師にお招きし、ヨガ教室を開催。新たな人材を発掘し、学社融合の取組を推進できた。 ・合同作品展や4年ぶりとなる夏まつり、盆踊り練習会など地域と学校が一体となって事業を行うことで、児童達の郷土愛を深められた。また、地域の方達も児童と触れ合う場面が多いことで「地域で育む子ども」という思いを深めることができ、関心を高められた。		・既存事業以外にも、児童達の感性を育む事業を検討していく。また、既存事業に関しては、ニーズを汲取りながらブラッシュアップしていく必要がある。 ・公民館と小学校は徒歩圏内にあるので、その立地を生かし、より公民館に親しみを持って事業に参加してもらえるような取組を検討していく。	

今年度の取組内容		
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）		
・授業を参観して、子どもたちはとても楽しそうだった。各校園の説明を聞いたが、どこも素晴らしい取組をしている。こういった経験が将来生きてくるのではないだろうか。 ・学社融合の組織を幼小中で一本化できていてよい。特に幼小は距離も近く、学習以外の安全確保等でも連携しやすいのではないかと。 ・園児との遊び、盆踊りの練習など、園学校の行事に呼んでもらうことが老人会としてうれしい。 ・地域の防災や通学路の危険箇所についての意見交流等。		
		定例会の様子
特徴的な協働活動		
ふるさと学習～地域に学ぶ		
<u>季節みつけ</u> 季節ごとに違う草花や生き物の様子について地域の先生に教えていただきながら観察した。	<u>中芳養夏祭り</u> 4年ぶりに開催された夏祭り。児童は伝統的な盆踊りを地域の方から教えていただいた。当日は大勢の人で賑わった。	
		
<u>クリーンアップ作戦</u> 自分たちの住む地域の環境をテーマに、校区内の調査や清掃をおこ	<u>梅博士になろう</u> JA芳養谷支所と地元の農家さんの協力を得て、収穫や梅干し作り等に取り組んだ。	<u>中芳養合同作品展</u> 幼・小・中の児童・生徒の作品や地域の方の作品が展示され、多くの人が来場した。
		
<u>大絵馬作成</u> 児童が作成した干支の大絵馬を神社の境内に飾っていただいた。	<u>写生会</u> 地域にある寺院に出かけ、伝統的な建物を題材に絵画制作に取り組んだ。	<u>ヨガ教室</u> 地域にお住まいの先生を講師に迎え、ヨガを体験した。
		

学校・園名		田辺市立田辺東部小学校		公民館名	ひがし公民館
学社融合における学校・地域の様子					
平成7年に「ひがしコミュニティセンター」が建設されてから、学校と地域公民館が連携した取組の充実を図ってきた。近年は新型コロナウイルス感染症の影響で多くの活動を制限せざるを得なかったが、本年度は「ひがしふれあい秋祭り」を従来のものに近い形で開催するなど、これまで受け継がれてきた学校・地域の取組を概ね「コロナ前」の状態に戻すことができた。プランクを経ての実施のため手探りになった部分もあったが、公民館・各町内会・育友会等の協力により大きなトラブルもなく盛況のうちに終えられた。来年度も地域・学校を取り巻く状況を総合的にとらえて判断し、本会の本来の目的がより高い水準で達成されるよう取組を進めていきたい。					
目 標	学 校 ・ 園 ・ 地 域	○地域の方々が持つ知識や技能を活用し、専門的・体験的な学習を展開することで、子どもたちの学ぶ力・生きる力を育む。			
		○学校と地域が協同的な活動に取り組むことで、地域の魅力・課題への認識を深め、子どもも大人も地域の一員であるという自覚を高める。			
		○様々な交流やふれあいを通して、地域の方々と子どもたち、また地域の方々どうし・子どもたちどうしが望ましい人間関係を築く。			
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織		
田辺東部小学校学社融合推進協議会 学校 地 域 ひがし公民館 あけぼの 朝日が丘 新万 南新万 民生児童委員			◎ひがしコミュニティセンター ◎ひがし公民館 ◎ひがし秋祭り実行委員会 ◎町内会（新万・南新万・朝日ヶ丘・あけぼの） ◎子供会（新万・南新万・朝日ヶ丘・あけぼの） ◎花つぼみ会 ◎読み聞かせサークル ◎ちひろ助産院 ◎橋谷獅子舞保存会 ◎地域にお住まいの方々		
成果と課題（学校・公民館からの視点）					
成果			課題		
学 校	○4年ぶりに「ひがしふれあい秋祭り」を本格開催し、多くの来場者で賑わった。地域と学校が一体となり、連帯感を深めるといった目的を達成することができた。 ○地域の方々を学校に迎えたり子どもたちが地域に出て行ったりして、「ひと・もの・こと」に触れながら体験的な学習を行うことができた。 ○「6年生語り部活動」は、従来から時期をずらして取り組んだ。子どもたちは地域の歴史等についてゲストティーチャーから学び、保護者を対象に発表会を行った。		○「ひがしふれあい秋祭り」を経験したことのない保護者にとっては、分かりにくい部分もあった。地域の方も含め、より分かりやすい情報発信を心がけたい。 ○昨年度3年ぶりに開催した「東部っ子を育てる会」は、新型コロナウイルスの感染状況に鑑みて開催を見送った。今後も状況に応じて弾力的に取組を進めていく必要がある。 ○それぞれの活動が、子どもたちにとってより主体的なものとなるよう、目的意識や課題意識の持たせ方を工夫したい。		
公 民 館 （ 地 域 ）	○4年ぶりに「ひがしふれあい秋祭り」を本格開催することができた。多くの来場者で賑わい、地域と学校の関わりを深めることができた。 ○「ひがし趣味の作品展」や「6年生語り部活動」を通じ、地域と学校が関わるきっかけをつくることができた。		○4年ぶりの本格開催となったため「ひがしふれあい秋祭り」未経験の運営委員が多く、手探りの部分があった。今回の課題を次回に生かしたい。 ○今後も公民館と学校が連携を密にして、計画的に活動を進めていきたい。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
○新型コロナウイルス感染症の第5類移行によって、学校でも家庭でも地域でも対応が大きく変わってきた。マスクをなかなか外せない児童もいるようだが、子どもたちの表情が明るくなったように見受けられ嬉しく思う。 ○授業の様子を参観し、どの学級も落ち着いて学習に取り組んでいる様子が見られた。タブレットの活用など、先生方が工夫して授業づくりをしていることも見て取れた。個別に配慮が必要な児童もいるが、支援員を配置するなどして丁寧に対応してくれていると思う。 ○「ひがしふれあい秋祭り」を、4年ぶりに制限なしで開催することができてよかった。同日の午前に校内音楽会を組み入れたのもよかったと思う。本会での取組としては、「ひがしふれあい秋祭り」と「東部っ子を育てる会」が2本柱になる。来年度は「東部っ子を育てる会」も開催できるとよい。	
特徴的な協働活動	
○生命の授業 7月13日(木)、5年生は助産師の大平昌子先生を迎えて「生命の授業」を行った。保護者も参加する中で、赤ん坊が母親の体内で大きくなって生まれてくるまでの様子や、これからの思春期に子どもたちが大切にすべき体づくりのポイントなどについて学んだ。新しい命の誕生に直接関わり続けている大平先生の言葉には強い説得力があり、子どもたちは真剣な眼差しで聞き入っていた。授業後の振り返りには、「私はこの授業で命の大切さに気づくことができた。」や「姿勢をよくすることがとても大切だと分かった。」などの感想が見られた。	
○ひがしふれあい秋祭り 11月19日（日）、田辺東部小とひがしコミセンを会場に「第14回ひがしふれあい秋祭り」を実施。4年ぶりの本格開催で多くの来場者を迎えた。午前中は、1・2年生が「キッズよさこいソーラン」を披露したり、全校児童が校内音楽会で演奏を行ったりした。午後は、橋谷の獅子舞がお祭り気分を盛り上げ、ステージイベントにはコーラス・大正琴・太極拳のサークルなどが出演した。子供たちは町内会・子供会が用意したゲームコーナーに参加し、最後の餅まきまで楽しむことができた。来場者からは「工夫されたお店がよかった。」や「来年も楽しみにしている。」などの感想が聞かれた。	
○花の苗植え 11月30日(木)、「花つぼみ会」の方々に教えてもらいながら、3年生が花の苗植えを行った。保護者も参加し、国道沿いの花壇にパンジーやナデシコなどを植えた。また、学校に戻ってから自分の鉢にも花苗を植えた。事前に「花つぼみ会」の歴史や活動の意義を学んでいたのも、子どもたちは目的意識をもって活動できた。子どもたちからは「植えるだけでも、やってみたら大変だった。」や「花つぼみ会さんは、ただ花を植える人たちだと思っていたけど、みんなのことを考えて自分にできることをしているんだなと思った。」などの感想を書き残していた。	

学校・園名		田辺市立龍神小学校		公民館名	龍神公民館 龍神分館
学社融合における学校・地域の様子					
龍人学の礎である「龍神の元気の素は人にあり」を旗印にして学社融合を推進することで龍神小学校区の人を元気にすることを目標に取り組んでいる。 保護者や地域の方々は、学校の教育活動に大変協力的である。					
	学校・園・地域	本校における学社融合の目標 ・学校を地域に開き、学習や行事等に参加してもらうことで児童の様子や教育課程の実施状況について理解してもらう。 ・地域の素材や優れた人材を活用し、生きた教育活動を展開する。			
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織	
龍神小学校学社融合推進協議会 会長－副会長－委員（7名） 公民館 PTA 行政局 教育事務所				田辺市役所 龍神行政局 田辺市立龍神小学校PTA 田辺市立龍神小学校動産委員会 田辺市龍神公民館龍神分館 田辺市教育委員会 龍神教育事務所	
成果と課題（学校・公民館からの視点）					
	成果	課題			
学校	・ 地域の方に学校に来ていただいたり、こちらから行かせていただいたり、積極的に交流することができた。地域の方々も学校に協力的で、お互い楽しく交流することができた。 ・ 運動会に参加していただいたり、学習発表会を見に来ていただいたりして、子どもたちの様子を見ていただくことができた。 ・ レゴ体験やピザ焼き、伝統工芸など、地域の素材や優れた人材を活用した活動をするができた。		・ いろいろな感染症について、その都度状況を見ながら対応を考えていく必要がある。 ・ 地域が広く、高齢化が進んでいるため、学校まで来ていただくのが、難しくなってきた方が増えてきている。		
公民館（地域）	・ 活動を通して、子どもたちと地域の方々のふれあいの場となった。運動会や学習発表会などの行事は、地域の方が子どもたちの頑張る姿を見たり声を聞いたりする機会となっている。また、旧大熊小学校のあった大熊地区の住民と囲碁ボールで交流し、普段接する機会の少ない子どもたちの様子を地域住民に見てもらうことができた。		・ 今年は、大熊地区の住民と囲碁ボールで交流することができたが、次年度以降は人口が減少し、高齢化でニュースポーツも一緒に出来なくなっている為、従来通りの交流ができない可能性がある。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
第1回 ・学校の経営方針に関する事項について、本年度重点的に取り組んでいくことを中心に学校長が説明を行った。 ・教育課程編成に関する事項について、いろいろな感染症等の対策をしながら編成していくことを学校長が説明した。 ・運営に関する年間計画について話し合い、防災キャンプ、運動会や学習発表会で協力していくこととなった。	
  	
特徴的な協働活動	
・防災キャンプ（６月） 土砂災害啓発センターの方に来ていただき、土砂災害の起こる仕組みや避難の仕方などについて授業を行っていただいた。また「出張減災教室」の方にも来ていただき、起震車体験を行った。	
・レゴ体験（９月） 地域の方がレゴを持ってきてくださり、体験させてくれた。いろいろな作品を製作していくなかで、子どもたちに楽しく創造的な時間を過ごさせてくれた。	
・敬老の手紙（９月） 今年度も、全校児童で地元の高齢者の方に手紙を書いた。近所の方には子どもたちが届けた。地域の方々も楽しみにしてくれているようだ。	
・運動会（１０月） 校報を通じて地域の方に参加を呼びかけた。今年度も、じゃんけん大会や〇×ゲーム、一発的中やリレーなどに参加していただいた。子どもたちの元気な姿を見ていただくことができた。	
・学習発表会（１１月） 校報を通じて地域の方に参観を呼びかけた。工場見学や和紙づくり、地域の紹介などの発表を行った。最後には校歌を歌い、龍神太鼓を披露した。たくさんの方々に見ていただく中で、子どもたちは日ごろの学習の成果を発表することができた。	

学校・園名		田辺市立上山路小学校	公民館名		龍神公民館 殿原分館・東西分館・宮代分館
学社融合における学校・地域の様子					
本校は、殿原小学校、東小学校、宮代小学校が統合して１５年目を迎えた。その間、3地域の願いや想いを大切にしながら様々な取組を行ってきた。地域の方々は、「自分たちの学校」という思いを強く持ってくれており、何事にも協力的である。地域の教育資源を生かし、地域と学校が一体となった取組を進めている。					
目 標	学校・園・地域	学校地域連絡協議会会則 上山路小学校と学区民が連携を図り、地域全体で児童の健やかな成長を担う環境づくりに寄与する。			
		本校における学社融合の目標 ・「地域とともにある学校」づくりを推進する。 ・学校・家庭・地域の連携を強化し、子ども達の健全育成を進める。			
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織		
学社融合推進協議会 ↑↓ 学校 ↑↓ 学校地域連絡協議会 ↑↓ 上山路地域			学社融合推進協議会 ・殿原分館 ・東西分館 ・宮代分館 ・学校支援者 ・地域指導者 ・龍神教育事務所 ・上山路小学校PTA ・龍神中学校 学校地域連絡協議会 ・学社融合推進協議会各位 ・５地区（６区長）・３婦人会 ・４老人会		
成果と課題（学校・公民館からの視点）					
成果			課題		
学校	・新型コロナウイルス感染症が５類に移行したことで、学校行事が行動制限なく、活発に取り組むことができた。 ・地域の方々との交流や体験活動を通して、人々の願いや思いを知ることができた。 ・「ふるさと学習」で学んだことを、学習発表会で保護者や地域の方に伝えることができた。 ・地域の歴史や文化、伝統を学び、龍神村の良さを知り、地域への愛着心を抱くことにつながった。		・今後も、地域についての取組を教職員間で共有し、継続して取り組んでいくと共に、地域の方々とのつながりも継承していきたい。 ・取組時期や内容等、見通しを持って計画し、子どもたちが地域の一員として主体的に取組ができるよう進めていきたい。		
公民館（地域）	・学校行事・取組への参加が地域の交流の場となり、学校を中心としたコミュニティが形成されている。 ・新型コロナウイルス感染症の影響で開催できていなかった「上山路カフェ」を実施することができた。		・学校行事や学社融合の取組を進めるには、地域と学校をつなぐ人材の確保が必要である。しかし、人口減少と高齢化が進んでいるため、新規人材の確保が年々難しくなっている。人材の確保と並行して、少ない人数で実施できるように、事業の見直しも必要である。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
【第１回　学社融合推進協議会】 ○学社融合推進協議会について、構成委員、田辺市学社融合推進協議会規則、学社融合推進体制の説明を行った。 ○令和５年度上山路小学校学校経営方針について、学校経営・運営方針、学校教育目標（スクールプラン）の説明を行った。 ○本年度の年間計画について説明を行い、学校の課題や児童の様子について意見交流を行った。 [交流内容] ・児童は、挨拶やお礼を礼儀正しく伝えてくれる。 ・児童のやりたいことを精一杯にできるよう、何にでも挑戦をしてほしい。	
【第２回　学社融合推進協議会は　２月に実施予定】	
特徴的な協働活動	
ふるさと学習「地域とともにある学校作り」	
【１・２年生　「まちたんけん」】	
１・２年生がまちたんけんに出かけた。１回目は、地域の方の家に行き、龍神地鶏を見学したり、薬師寺について教えていただいたりした。龍神地鶏は、今から３００年ほど前から飼われていて、全国的にも数が少なくとても貴重な鳥だそう。雄はきれいな色をしているけれど、雌は全体的に黒っぽい色をしている。２回目は、龍神自然食品センター、古久保商店、丸井旅館、山本理容へたんけんに出かけた。４年ぶりのまちたんけん、どのお店も温かく迎えてくださり、お店の歴史や仕事の様子などを教えていただいた。挨拶をしたり質問をしたり、とても緊張したようだが、お店で働く人たちの思いを知ることができた。自分たちの生活を支えてくれている人がいることに気づき、ますます龍神村のことが大好きになったようだ。	
   	
龍神自然食品センター　古久保商店　丸井旅館　山本理容	
【３・４年生　つるし柿作り】	
地域の方の畑に実っている渋柿を収穫し、老人クラブのみなさんをつるし柿作りをした。皮をむきやすいように包丁でむいていただいたり、ひもに柿の枝を通すのを手伝っていただいたりした。地域の方と一緒に作ることが楽しかったようだ。	
【６年生　刀鍛冶】	
刀鍛冶職人の工房見学に行った。伝統文化である刀鍛冶について学んだ。刀ができるまでの工程や、刀を見学した。作業工程で起こる様々な苦労や楽しみについてのお話も聞いた。伝統文化を守り継承する人々の心意気や願いに触れることができた。	
   	

学校・園名		田辺市立中山路小学校	公民館名	龍神公民館 中山路分館
学社融合における学校・地域の様子				
本校では平成11年より龍人学（ふるさと教育）として、地域に根ざした教育活動を広く行い、その基盤を生かした実践と共に「地域の学校」としての活動を展開してきた。保護者および地域住民等の学校運営への参画や学校運営への支援・協力を推進しながら、学校が持つ役割や責任を自覚し、家庭・地域・関係機関との連携の在り方を相互補完型から協働機能型へとその発展を目指している。				
目 標	学校・園・地域	・学校・保護者・地域の連携を密にし、相互にその教育力を活用し合い、協力して学校運営の改善や児童の健全育成、地域の教育力向上に努める。 ・地域の方々との交流を通して人とのつながりを深め、児童のコミュニケーション能力の育成を図る。 ・地域学習や地域の方々との交流を通して、地域の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛し地域に誇りを持つ子を育てる。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
保育園・中学校・公民館・福祉施設 中山路小学校学社融合推進協議会 （会長・副会長・委員・事務局） 保護者・地域住民			・中山路小学校PTA ・龍神公民館中山路分館 ・3地区 ・3地区シルバー会 ・柳瀬保育園 ・龍神中学校 ・龍トピア・龍の里 ・龍神教育事務所 ・学識経験者	
成果			課題	
学 校	・交流学习では、各学年、地域の方と話をしながら活動したり、地域の方から学んだりできた。 ・図工科、生活科など各教科でも地域教材を生かした学習を設定し、地域とつながりをもつことができた。 ・チャレンジキャンプや秋祭りなど、地域の行事にも積極的に参加できた。 ・学社融合参観日を設け、児童の学校での様子を見ていただく機会とし、後の協議では、地域での様子を共有し、これからの活動について意見交流を行う。		・各教科や行事などで、地域の方にお世話になるが、その地域の方が固定化してきている。さまざまな分野・年齢の方から学ぶ機会を設けていきたい。 ・新たな地域教材を掘り起こしていく。 ・学校行事や地域の行事を見ながら、早めに計画して準備を進めていくと、実り大きい活動につながる。 ・活動の目的や児童につけたい力を明確にし、地域の魅力(自然・文化・人)を発見する学習にしていく。	
公 民 館（地 域）	・地域について学ぶことで、地域の良さに気づくことができた。 ・交流学习会は、地域の方々とのコミュニケーションの場となった。 ・子どもと向き合って共に活動したり、地域教材で学んだ学習の成果発表を聞いたりすることで、地域の良さを再発見する機会となった。		・学社融合活動への参加者が固定化してきており、新しく参加していただけるような工夫が必要である。 ・地域人材の高齢化が進んでいる。	

今年度の取組内容		
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）		
【第1回中山路小学校学社融合推進協議会】 [議事]①本会について(学社融合推進協議会規則の確認) ②役員選出 ③令和5年度中山路小学校の経営計画について ④令和5年度の学社融合活動計画について ⑤地域での児童の様子について ⑥その他 [事業内容] ○学校運営方針に基づき、地域として運営の協力を行う。 ○学社融合関係の取組に参加協力を呼びかけたり、実際の運営支援を行ったりする。 ○挨拶運動について、地域にも声かけ等を呼びかけ、地域活性化につなげていく。 ・10/1 運動会は半日で行う。今年度は、地域の方の種目も予定している。 ・各地域での児童の様子を聞いたり危険箇所はないか教えていただいたりした。 ・地域からは、7/23地域の一斉清掃への参加呼びかけ、秋祭りへの参加をお願いしたいとの要望があった。		
特徴的な協働活動		
【交流学习】 ★グラウンドゴルフを楽しもう！ 3・4年生児童と地域の方でグラウンドゴルフを通して交流する。 [児童の感想]・心に残ったことは、遠くにとぶコツを教えてくださいました。どこを打てばいいかをアドバイスしてもらったのでボールが遠くにとぶようになりました。		
★和楽器演奏に挑戦！ 5・6年生は、学習発表会に向けて地域の方から、三味線を習う。 [児童の感想]・はじめて三味線という和楽器を使った時はなかなかできず、重い楽器で、みんなと合わせるときも合わせられなくて、先生方の演奏を見て、すごいと思いました。 ・本番では、「こきりこ節」の1番の歌を歌うのが楽しかったです。三味線の学習をして、楽譜がふつうの楽器と全然違うことを知ることができました。		
★昔の遊び体験 1・2年生は、1月24日に地域の方をお招きして、こまやお手玉など、昔の遊びを教えていただく予定。		
【学習発表会】 これまで教科で学習したことや地域に出かけて調べたことなどを、各学年ごとに発表した。発表の最後の全校合唱では、「ふるさと」を地域の方と一緒に歌った。		
		
★花の苗の贈りもの	★「紀南索道」について聞き取り	★「龍」の置物づくり

学校・園名		田辺市立咲楽小学校		公民館名	龍神公民館 福井分館・甲斐ノ川分館
学社融合における学校・地域の様子					
地域の方の、学校教育に対する関心が高く、多くの家庭が積極的に協力してくれる。運動会や学習発表会等には、たくさん地域の方々が参加してくれる。本校では創立時より各地区長、老人会長、女性会代表や公民館、PTA、学校職員等で組織する学校地域連携推進会議が学校と地域を結ぶ中心的な役割を果たしてきた。本年度は地域の祭礼に児童も参加し、事前に笛や太鼓、獅子舞等を習い、祭りに積極的に参加すると共に、会場には児童会で作ったゴミ箱を設置するなどの協力をしている。地域ぐるみで子どもを育てようとする土壌があり、子どもたちも安心して生活することができている。					
目 標	学 校 ・ 園 ・ 地 域	○咲楽小学校と学区民が連携を図り、地域全体で子どもの健やかな成長を担う環境作りに寄与する。			
		・咲楽小学校の教育発展のために広く意見を聞き、学校運営に反映できるよう努める。			
・学校を開き、地域住民と連携を図っていく中で、学校教育方針の周知に努める。					
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織		
咲楽小学校 ⇔ 学社融合推進協議会 ・会長・副会長・委員（学校長含む） ⇕ 学校地域連携推進会議 ・老人会（４地区）・区長会（４地区） ⇔ ・女性会（福井、甲斐ノ川） ・公民館（２分館）			・咲楽小PTA ・校区会（４地区） ・龍神教育事務所 ・市教研龍神ブロック ・柳瀬保育園		
成果と課題（学校・公民館からの視点）					
成果			課題		
学 校	・運動会や学校開放週間等では、多くの地域の方にご支援いただき、改めて学社融合の大切さを認識することができた。 ・会議において学校内外での児童の様子を共有することができた。また、学校と地域が一緒になって児童を育てていくことを再確認することができた。		・学校開放週間の期間に多くの行事を入れたので、仕事の都合をつけて学校に来るのが大変だったという声があった。開放期間を長く設定し、行事を分散させていく。 ・授業参観を設定したので、授業を参観してくださる方が多かった。 ・地域の高齢化が進む中で、高齢者がより参加しやすい取組を今後も検討していく必要がある。		
公 民 館（地 域）	・学社融合活動を通じて、児童と触れ合うことが大人にとっても楽しみであり、学校と地域を繋ぐ良い機会となっている。また、児童と地域の繋がりがだけでなく、保護者と地域の交流の場となっている。		・学社融合活動への参加者が高齢化してきており、それに伴い、従来の取組に協力していただける内容も限られてくるため、取組み内容の変更や新しい地域人材の発掘が求められる。 ・若い世代の地域人材に参加してもらうための工夫が必要になってくる。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
学社融合推進協議会・学校地域連携推進会議	
第１回学社融合推進協議会議案 （１）本年度の役員について （２）田辺市学社融合推進協議会の運営について （３）学校運営方針について （４）本年度の活動について （５）児童の様子・意見交流等	
学校地域連携推進会議	
第１回学校地域連携推進会議 （１）本年度の役員・委員について （２）学校の様子について （３）第１回学社融合推進協議会より （４）今年度の活動について	
第２回学社融合推進協議会議案 （１）学校運営の基本方針に係る取組報告（活動状況報告書の作成） （２）各専門部会からの取組報告（活動状況報告書の作成） （３）次年度に向けての意見交換 （４）本部会議からの報告事項	
特徴的な協働活動	
◇登下校見守り活動 徒歩通学の児童は、集団で登下校を行っており、その際、地域の方がいつも一緒に歩いてくれている。	
◇愛校作業(8月20日) 保護者の方や地域の方と愛校作業(整備作業)を行った。運動場の木々の剪定や校舎内の窓拭き、草抜きなどの作業に多く参加していただいた。	
◇学校開放週間(11月6日～10日) 校区内にお住まいの全戸に「学校開放月間全体行事予定案内」を、さらに保護者には各行事前に案内チラシをそれぞれ配布すると共に、保護者と老人会には重ねて出席を呼びかけ、多数の保護者や地域住民の参加があった。 ①収穫祭 7日(火) 児童が育てたさつま芋を収穫し、当日、学級毎に準備をし、校長が準備した炭火に入れて焼き芋にした。芋が焼けるまでの間、5・6年生が中心となりレクレーションを行った。また、お世話になった地域の方にも食べていただいた。また、5、6年生が育て収穫したもち米を使って、餅つきもおこなった。ついたお餅は、お世話になった地域の方にも食べていただいた。 ②花の苗植え 9日(木) 地域の方の指導により、全校児童で学校の花壇やプランター、白寿荘前の花壇に苗の植え替え作業を行った。毎年参加していただいている老人会の皆さんは、学校に来るこのような機会を大変楽しみにしてくれている。進んで作業に取り組み、楽しみながら児童と交流する姿を、毎年観ることができる行事の一つでもある。 ③木工教室 10日(金) 3～6年生児童の活動。講師を招き、木のバナーナイフや木トンボ(木でできた竹とんぼ)を作った。また森林の働きや、森を守るための活動について教えていただいた。保護者も参加して児童と一緒に学習したり作業等を行ったりした。 ④昔の遊び体験10日(金) 1～2年生児童の活動。地域の方を講師として招き、ぶんぶんごまの製作と遊び方(使い方)について教えていただいた。	

学校・園名		田辺市立中辺路小学校		公民館名		中辺路公民館 栗栖川下分館 栗栖川上分館 二川分館	
学社融合における学校・地域の様子							
本校は中辺路地域学社融合推進協議会を中心として、公民館・社会福祉協議会・老人会等の関係機関に様々な協力をいただきながら取組を進めている。地域の方々や保護者に見守られて子供たちは明るく健康的な学校生活を送っている。地域の方々に訪れていただける行事を計画し、子供たちが頑張っている姿を見てもらえるように、また、共に活動したり現地に出向いて指導していただいたりする中で、ふれあいや協働の機会を持てるように努めている。							
学校・園・地域		子供たちを取り巻く環境や学校が抱える課題は複雑化・困難化しており、教育改革、地方創生等の動向からも、学校と地域の連携・協働の重要性が指摘される中、学校や地域が抱える課題を解決するとともに、地域を担う人材を育成するため、これまでの「学社融合の取組」を生かして、学校と地域が当事者意識をもって子供の成長を支えていく学校づくりを進める。					
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織			
田辺市学社融合推進協議会規則（H30、4、1施行）に基づき設置 中辺路地域学社融合推進協議会 事務局：教頭（教務） 学習支援・行事部会 環境・安全部会				・ 公民館 ・ 町内会 ・ 老人会 ・ 社会福祉協議会 ・ 読み聞かせサークル ひまわり ・ 田辺市消防団中辺路支団 ・ 岩見淳三（プロギタリスト） ・ 下校見守り隊 ・ JA女性会 ・ 校区内在住の方々			
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学校		・ 町民との合同運動会、学習発表会の実施など、新型コロナウイルス以前の活動にできるだけ戻すことができた。 ・ 収穫祭や学習発表会では地域の方々に来校していただき、子供たちのがんばりを参観していただくことができた。また、地域の方々とともに活動する中で、教室だけでは教えられないことを学ばせることができ、地域の方々との信頼関係づくりにもつながった。				・ 小学校・中学校・地域と連携した奉仕作業を４年ぶりに実施することができたが、８月実施は熱中症の心配もあり、実施時期について検討していく必要がある。 ・ 町民との運動会については、地域の方々も楽しめる種目を考えながら、学校の意向も伝えていきたい。 ・ ふるさと学習で学んだことを、地域に出向いたりICTを使ったりして、発信の仕方を工夫していきたい。	
公民館（地域）		・ 小学校・町民の合同運動会や中辺路子ども環境探偵団など、学校と連携をとりながら、また、工夫を凝らしながら取組を進めてくれた。 ・ 学習活動に協力することで、学校の取組を理解し、心豊かな子供たちの育成に関わることができた。また、子どもたちに地域のよさを知ってもらうことができた。				・ 小学校・町民合同運動会については、日程や種目を検討し、小学校・地域の意向を考慮して実施する方向で考えていきたい。 ・ 今後も様々な事業を継続させるためには、新たな支援者の発掘や、学校の要望に応じたゲストティーチャーの紹介をしていきたい。	

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- ・中辺路小・中と地域が連携した奉仕作業を計画し、実施することができた。学校・保護者の負担軽減を考え、学社融合推進委員が、町内会や老人会、消防団などに声をかけ、人員を集めた。当日は、小学校、中学校で作業進捗の連絡を取り合い、お互いに応援に駆け付けた。新型コロナの影響で3年間奉仕作業ができていないので、今年度は樹木の剪定など時間がかかった。今年度は8月に実施したが、熱中症の心配もあるので、来年度の実施時期については検討していく必要がある。
- ・新型コロナウイルス感染症の影響で子供たちが地域に出向いていく活動が見送られてきたが、今後、学校としては少しずつ活動を再開していきたい。学校からの要望を聞いて、学社融合推進協議会としてできることがあれば、積極的にサポートしてくことを確認した。
- ・通学路の危険箇所については、学社融合推進協議会委員で、できることは対応していきたい。（見通しの悪いところの樹木の選定、横断が危険な場所の改善を行政に要望など）

特徴的な協働活動

「米作り体験」の取り組み

中辺路町（内井川）に住む土山さんにご協力いただき、4年生と5年生が米作りを行った。今年度は3年ぶりに土山さんの水田をお借りしての学習ができた。もみの消毒、もみまき、苗植え、草引き、稲刈り、脱穀、精米を体験させていただく中で、お米ができるまでの過程や米作りの苦労、工夫など様々なことを体験を通じて学ぶことができた。

また、JA女性会の方々にサポートしていただきながら、自分たちが育てたお米と学校で育てたさつまいもを使った調理実習も行うことができた。さらに、今回はもち米も育て、そのもち米を使ってもちつき体験も実施できた。地域の皆様のご協力で本当に貴重な体験をすることができた。

①もみの消

苗にするもみを消毒しました。60度のお湯に10分間つけることで消毒できます。温度の調整がポイントです。消毒後は1週間ほど水につけておきます。もみをまく前に消毒することを初めて知りました。

②もみまき

消毒したもみをまきました。もみはたくさんありますが、同じ場所にたまらないようにまきました。まいたあとは、ミニビニルハウスの中で育て、土が乾いたら水をやります。水やりをしっかりやりたいです。

③苗植え

土山さんの田んぼをお借りし、苗植えをしました。同じ間隔になるように、ひもを使いながらうえました。田んぼの中はどろどろで歩きづらかったけどがんばって植えました。とても楽しかったです。

④草引き

苗を植えた田んぼに雑草が増えてきました。稲に栄養が行くように雑草抜きをします。思った以上に雑草が多かったです。みんなで協力して雑草を抜きましたが、思っていた以上に大変でした。

⑤稲刈り

大きく育った稲を刈りました。稲を一束つかみ、かまで下の方を手前を引くようになり、かった稲をたばねてひもでしばります。しばった稲を乾かすために干しておきます。みんなで協力したので早く終わりました。

⑥脱穀・精米

昔の足踏み式脱穀機と機械の脱穀機を使いました。足踏み式は初めの踏むタイミングが難しく、体力も必要でした。機械はとんでもなく速く脱穀できてとても驚きました。昔の人は大変だったと思いました。

⑦お米を使って調理実習

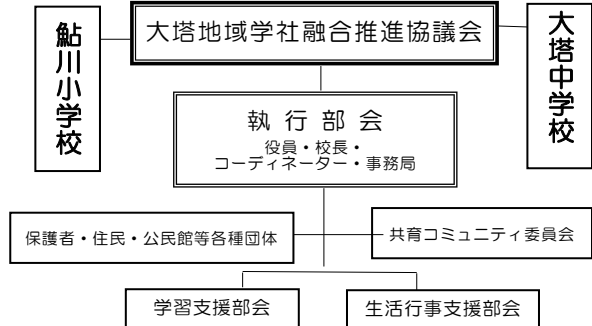
調理実習で、自分たちが育てて収穫したお米をたきました。苗植えや稲刈りのときにお世話になったJAの方やJA女性会のみなさんに色々教えていただきながらお米を炊きました。自分たちで育てたお米はとてもおいしくて何ばいもおかわりしました。1月のもちつき体験も楽しみです。

学校・園名		田辺市立近野小学校		公民館名		中辺路公民館 近野分館	
学社融合における学校・地域の様子							
本校は、世界遺産である熊野古道「中辺路」沿いに位置している。熊野古道の複数のルートの中でも「中辺路」は、平安時代より上皇や貴族から民まで様々な人々が参詣を繰り返した参詣道として知られている。そして、現在も本地域には、平安の昔を偲び古道を探索する人々が、日本だけではなくヨーロッパを中心に世界各国から訪れている。そのような歴史や伝統・自然環境にも恵まれた本地域には、古来より「誰でも受け入れる」という懐の深さがある。さらに、地域には我が身を惜しまず人々のために尽くした先人が幾人も輩出された歴史もあり、従来よりお互いのことを思いやって行動するという風土が地域内に根付いている。本校はそのような地域にあり、これまでの地域の教育力を活用したさまざまな取組により、多くの教育的効果をあげることができている。							
目 標	学 校 ・ 園 ・ 地 域	学社融合推進委員会活動を通し、学校を含めた地域の教育・文化の振興及び児童生徒と地域住民の健康・福祉の増進等に寄与する。					
		【学校】 ・地域での活動を通して地域を知る。 ・共同作業を通して協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切にし、尊重する気持ちを育てる。 ・地域の一員として地域の行事に参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。 【地域】 ・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。 ・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。					
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織			
実行委員会	近野まるかじり体験	中辺路公民館近野分館行事実行委員会 近野地域学社融合推進協議会 近野区民体育祭実行委員会 敬老会実行委員会 近野フェスティバル・文化祭実行委員会			マラソン実行委員会	熊野古道近野山間会	・学社融合推進協議会 ・中辺路公民館近野分館行事実行委員会 ・近野まるかじり体験実行委員会 ・中辺路町森林組合 ・近野獅子舞団 ・熊野百間溪谷自然学校 等 ・近野振興会 ・J A女性会
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学 校	・取組の中で地域の特色を再発見するとともに、自分たちの暮らしが地域の人々の努力や工夫によって支えられていることに気づき、地域の方々への尊敬と感謝の気持ちをより高める機会となった。 ・児童が地域で学んだことを、文化祭や世界遺産サミットで発表した。文化祭には、4年ぶりに地域の方を招待し、感謝の気持ちを伝えることができた。			・教職員が異動しても、新たなメンバーで学習活動のねらい等を引き継いでいくとともに、地域の方々とのつながりも継承していくことが重要である。 ・学校の取組をたより等で知らせるとともに、教育活動のねらいを学校と地域が今後も共有していくことや、学校教育目標とのつながりで活動を見直し、必要な修正を加えていくようにする。			
公 民 館 （ 地 域 ）	・地域の歴史や文化、自然等に関わる学習を継続することによって、ふるさと近野を誇りに思う気持ちや郷土愛が育まれている。 ・コロナ禍以前までに行ってきた学社融合の取組を再開することができた。地域の方々には学校の教育活動に協力的に参加していただいている。活動を通じて、子どもたちや学校の様子を知らせることができている。			・本地域では人口減少や高齢化が進んでいる。今後も学社融合の取組が継続、発展していけるよう、今あるつながりや組織の継承を大切にしたい。			

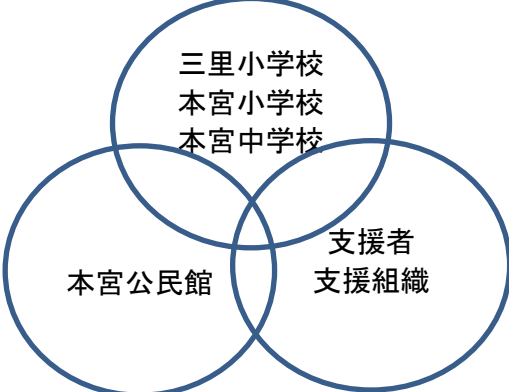
今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
○新型コロナウイルス感染症拡大予防に係る対策緩和に伴い、従来実施してきた学校と地域が連携した行事や取組等については、状況を見ながら内容を検討しつつ実施していきたい。 ○子どもたちの豊かな学びを保障し、たくましく生きる力を育むことができるよう、内容を工夫しながら学社融合の取組を進めていく。近野地域は文化財や自然などの郷土資源が豊富であり、地域社会の学校教育への協力体制も従来から手厚い。このような本地域の強みやよさを存分に生かして、確かな学力と豊かな人間性、たくましい心身の育成に努める。 ○児童生徒数が減少していく中で、人数を増やしていくためには地域の住環境の整備が大切だと思われる。 ○学校周辺の草刈りに地域の方々が大勢参加してくださり大変ありがたい。 ○常会長のご支援により、毎月の学校だよりを全戸に配布くださり大変ありがたい。	
特徴的な協働活動	
地域の方々とふれあいながら 地域の豊かな文化・伝統・自然に学ぶ	
ゲストティーチャー 季節の体験 近野区民体育祭 3つのクラブがあり、地域の方々がゲストティチャーとして来てくださる。今年度は、卓球・ソフトテニス・ものづくり・将棋と一緒に楽しんだ。1・2年生は、月1回読み聞かせにも来ていただいている。 茶摘み・ブルーベリー狩り・田植え・稲刈りと、地域の豊かな自然を味わう体験をさせていただいた。「今年もやるか。」と地域の方からお声がかかり、大勢の方が手伝いに集まってくださった。 保・小・中・地域が一つになった区民体育祭が4年ぶりに復活した。文化祭等、各種行事にも地域の方々に出席いただき、交流の場を広げた。 ふるさと学習 防災訓練・学習 「近野の水のひみつ」や「熊野古道」などの学習を通して、ふるさとを愛する心を育んでいる。伝統「野中のししまい」道中や語り部は、『ちかのまるかじり』、『文化祭』、『世界遺産サミット』で発表した。身近な地域教材がたくさんある。 学校・地域が連携した防災訓練・学習を通して、地域全体の防災意識の向上を図った。講師を招聘し、起震車体験や避難所体験を行った。	

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

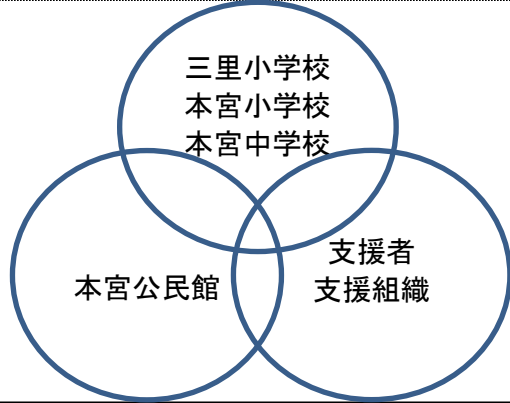
協議会名：大塔地域学社融合推進協議会

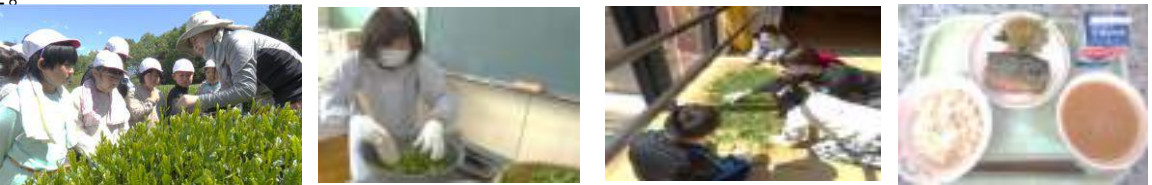
学校・園名		田辺市立鮎川小学校	公民館名	大塔公民館 富里分館 三川分館 鮎川分館
学社融合における学校・地域の様子				
本校は、平成２７年に三川小学校、平成３０年に富里小学校と統合し、大塔地域に１校の小学校となった。旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景から、地域全体で、子どもたちを温かく見守り、育てていこうという意識が高い。授業や学校行事への協力、児童の放課後の居場所づくりにご協力いただいている。「大塔地域学社融合推進協議会」では、行事支援部会、学習支援部会、生活支援部会の３つの実働部会があったが、本年度より生活行事支援部会と学習支援部会の２つの部会に変更し、小中学校と家庭と地域が連携・協働し「高めよう、ふるさと大塔。みんなの力で！」をテーマに取組を進めている。				
目 標	学校・園・地域	○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。		
		○鮎川小学校と大塔中学校の９年間を見通した学校運営を行う。		
		○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。		
		○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織		
		○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○子どもクラブ ○ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防 大塔分署 ○青少年育成市民会議大塔地区協議会		
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成果		課題		
学 校	○大塔リフレッシュ大作戦の実施…地域の方と一緒に中学校校区内の環境整備を行うことができた。 ○チャレンジデイキャンプ・水路見学・ふれあいスクール…キャンプ体験では、カヌーの事前指導からカヌー場の整備、トイレの水や川に降りていく道の草刈りなど、公民館の方を中心に事前の準備や当日のお手伝いなどを行った。水路見学では、事前の歩道の整備と道案内、水路の歴史や先人の苦労についての説明などをしていた。 ○校内音楽会…昨年は、リハーサルをみの参観だったが、本年度は会員の皆さんに参観を呼びかけ、校内音楽会に出席していただくことができた。 ○ゲストティーチャーへの授業参加の依頼を早めに計画し、ねらいや時間配分等、十分な打ち合わせを行うことができた。また、ミシンボランティアや毛筆の補助といった新しい取組をすることができた。		○ゲストティーチャーの人材確保については毎年の課題であるが、今後も幅広い分野、多様な年齢層の方から学ぶ機会を作っていくために、声かけをしていきたい。 ○昨年度まで学習支援部会・生活支援部会・行事支援部会の３部会での活動であったが、高齢化や参加人数の減少も考慮のうえ、活動内容を精選し、本年度から学習支援部会と生活行事支援部会の２部会での活動という形で実施することとした。 ○今後も職員が変わっても活動を引き継いでいけるよう、計画や実施後の振り返りの共有を小学校・中学校・地域・公民館が連携して行っていけるようにしていく必要がある。（※特に小５・小６・中１で行う選択交流学習）	
	○ふれあいスクールや図書ボランティア、公民館事業を通して、児童と地域の方々と世代間での交流を深めることができた。 ○校外学習（チャレンジデイキャンプや水路学習）を通して地域学習を行い、児童に地域の魅力を提供し、また、職員も地域のことについて再度勉強ができ、大変よい機会となった。 ○朝のあいさつ運動や、コミュニティスクールだよりの発行等を通じて、児童に様々な生活支援を行うことができた。 ○様々な自粛、制限のある環境から解放され、各活動がより充実して、人と人との交流を深めることができた。		○公民館として、地域全体で行っている学社融合推進活動により関心を持っていただくため、コミュニティスクールだよりの公民館だよりに通じて、地域住民に積極的に広報し、人材確保に努めていきたい。 ○現在の体制を維持しつつ、より一層公民館と学校、地域が連携を密にして活動を進めていきたい。 ○情報モラルやSDGs等の現代的課題や児童生徒、また、地域の課題を解決できるよう、学社融合推進活動や公民館事業を通じて積極的に取組を推進していきたい。	
公民館（地域）				

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
第１回大塔地域学社融合推進協議会（6/22） ①コミュニティスクール構想・大塔地域学社融合推進協議会 設置要綱の確認 ②令和５年度鮎川小学校・大塔中学校学校運営方針の承認 ③活動計画と予算の承認 ④協議会を昼間、各校での開催にし、児童生徒の様子を見てもらう機会とする。 ※協議会の委員さんを中心に、読み聞かせＣＤを作り、毎週届けてくれている。（小学校） ※登下校の通学路の危険箇所が改善されたか共有を行った。 第２回大塔地域学社融合推進協議会（10/31）〈大塔中学校〉 ①全国学力学習状況調査結果について報告 ②児童生徒の様子について情報交換 ③大塔リフレッシュ大作戦について ④２部会の活動報告 ※家庭学習の手引きについて、本協議会で作成したものを配布したが、どのように活用するかが課題である。 ※中学校の授業の様子について、意見交流を行った。 第３回大塔地域学社融合推進協議会（2/29に鮎川小学校にて開催する予定） ①令和５年度鮎川小学校・大塔中学校の学校評価について ②２部会の活動内容と成果について報告 ③決算報告 ④全体を通しての成果と課題について	
特徴的な協働活動	
【生活行事支援部】学校行事の地域との協働を進める。地域行事への児童・生徒・保護者の参加を進める。 登校の見守り、毎月はじめの登校指導を行う。学校や施設の整備作業を進める。 ☆大塔音頭の講習会 ☆川パトロール・大塔地球元気村パトロール ☆大塔リフレッシュ大作戦 ☆ふれあいスクールへの協力 ☆登校時の見守り活動・あいさつ運動 ☆通学路の安全点検、改善要望 ☆ぐるりんメールで情報共有 ☆施設の整備作業 ☆大塔CS（コミュニティスクール）だよりの発行（地域への広報） 【学習支援部】学校図書館の運営ボランティア、学習やクラブ活動の支援を進める。 ☆図書ボランティア（水曜日の昼休み） ☆クラブ活動 ☆芋の苗植え・焼き芋 ☆出前授業	
【ふれあい出前授業】 昨年度に引き続き、出前授業として防災に関する出前授業を行った。１年生は防災クイズの後、裸足になってガラスの破片に見立てたペットボトルキャップの上を歩き、裸足で歩く危険について学んだ。また、新聞紙で作ったスリッパを履いて体験することができた。２年生は防災カルタをした後、ビニール袋を使って、簡易の防災頭巾作りを地域の先生方と一緒に行うことができた。 	
【デイキャンプ・水路見学】 ９月に行った５年生のデイキャンプ（カヌー体験とカレー作り）では、前半と後半の２チームに分かれて、カヌーの体験を行った。指導には公民館や行政局の方にもお手伝いいただいて実施することができた。昼は各班に分かれてカレー作りをして調理の実習やグループでの活動の実践をすることができた。１１月に行った水路見学では、鮎川地域の発展につくした撫養重太夫氏の水路作りについて学習し、現地を見学することができた。水源から河口までの道筋をたどり、最後に記念碑を確認することができた。 	
【選択交流学習】 ６月と１０月に、５年生と６年生と中学１年生の３学年がともに学ぶ「選択交流学習」を行った。小学校と中学校の垣根を越えて、これからも、ともに学んでいく仲間づくりをテーマにし「音楽」「体育」「生け花」「大塔探訪」「木工」の５講座に分かれて、地域の方から学んだ。 	

学校・園名		田辺市立三里小学校	公民館名	本宮公民館 三里分館
学社融合における学校・地域の様子				
共育コミュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着している。 平成23年度から「音無の里共育コミュニティー事業」として小中3校と全地域が一体となった本宮独自の「学社融合」の取組を行っており現在も継続している。				
目 標	学校・園・地域	平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足されたことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続けていく。 また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめなおしていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
			育友会 熊野本宮語り部の会 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 学校ボランティア 世界遺産熊野本宮館 熊野本宮伝統芸能教室 公民館サークル 学校クラブ活動協力者	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成果			課題	
学校	・「地域に生きる学校として、地域を生かした学びを深める」という、学社融合の目標に沿った取組ができた。また、ICTを活用し、学んだことを地域や外部に発信することもできた。 ・語り部ジュニアの取組では、子供たちが達成感や伝えることの楽しさを感じることができた。また、高学年の活動を見て、下級生達も憧れをもち、自分たちも引き継いでいこうという気持ちが育ってきている。 ・コロナも落ち着いたこともあり、三里運動会・学校開放週間・文化作品展・三里まつり・小中音楽会など、地域の方に子供たちの学習の様子などを見てもらうことができ、「がんばっているね。上手に発表できたね。」などと声をかけていただく機会が増え、子供たちの自信につながった。			
公民館（地域）	・学社融合の取組もコロナ禍前の状態には戻ってきたが、高齢者施設との交流など、以前のようにできていない。ICTなども活用しながら、工夫して取り組んでいきたい。 ・ふるさと学習については、ある一定の形には整ってきた。職員の入れ替わりがあっても継続して実施できるように、情報の集約や共通理解が必要である。			
・公民館活動もコロナ禍以前の支援活動の取組を行うことができた。学校行事や公民館行事を共に協力し合いながら実施した。 ・学校教育の場でサークル活動等で取得した知識や経験を生かし、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。 ・子供たちと接することにより、子供たちから元気をもらい、子供たちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。			・学習パートナーの高齢化に伴い、地域住民に学社融合活動についてより理解してもらい、新たな人材発掘に取り組んでいきたい。 ・学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。 ・子供たちが生まれ育った地域を知り、理解し、故郷に誇りを持てるような活動を支援していきたい。	

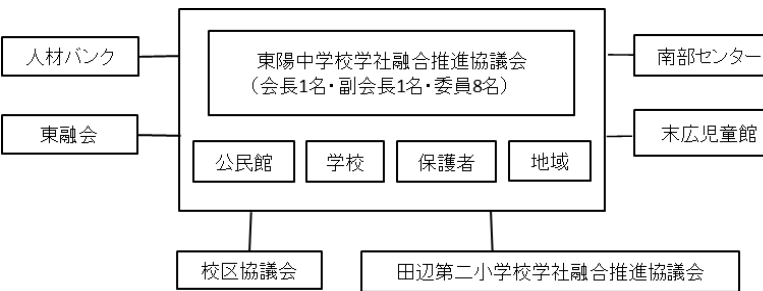
今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
・本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年2回開催とする。 ・第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。 承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。 ○各校独自の取組・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力 等 ○地域独自の取組・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等 ・学社融合の活動を通じて、地域の方々や地域の活動、またはその活動に対する思いを理解したり一緒に活動したりすることで、子供たちの本宮を自慢したいという思い、本宮プライドを高めることをめざしていく。 ・委員からの意見 「各校の学社融合に係る取組や事前の紹介は、地域の方に取組を知ってもらうよい機会になるため、今年度も行政局ロビーに年間を通して掲示する。」 「コロナ禍で途絶えていた行事や地域とつながる活動を徐々に再開していきたい。」	
特徴的な協働活動	
【防災教室】 平成23年の紀伊半島大水害時の本宮町萩地区の避難時の様子や復旧活動などについて、当時の地区長の横矢隆久さんや本宮公民館三里分館長の鳥居清人さんから話を聞いた。水位の変化によって4回も避難場所が変わったことや、高齢者や妊婦などの避難の大変さなどの話を聞いた。また、水がひいてから、地域住民やボランティアが協力して、復旧活動を行ったことを知り、子供たちは、次に災害が起こったときに、自分は何ができるかを考えることができた。お話を聞いた後に、実際に萩地区でフィールドワークを行った。どこまで水が来たかや防災備蓄倉庫の中などを自分の目で見ること、より実感の伴った学習になった。 【ふるさと学習】 「つなぐれ ひろぐれ 本宮の魅力」をテーマに全学年でふるさと学習に取り組んだ。	
1・2年 お茶農家体験学習 大居地区のお茶畑で収穫させていただいた茶葉を使って、倉谷夏美さんにお茶の作り方を教えてもらった。また、そのお茶を使ったお菓子づくりをCHOUXさんに教えていただいた。茶畑にも行き、お茶農家さんの1年の仕事も学んだ。	3・4年 地場産業学習 熊野鼓動さんでは、釜餅づくりを体験し、地域の材料で作るこだわりなどについて学んだ。石谷牧場では、牛への餌やり体験をし、熊野牛を育てる上で、気をつけていることなどについて学んだ。どちらも仕事への思いなどについても学ぶことができた。
5・6年 熊野古道語り部ジュニア活動 語り部の松本茂子さんに教えていただきながら、発心門王子から三軒茶屋までの語り部を行った。世界遺産学習サミットでも、実践発表を行ったり、エクスカーショで現地語り部を行ったりした。	
ICTを活用して、リモートで他校（本宮小・長野小・近野小・稲成小・鹿児島県屋久島町立栗生小学校）と交流を行い、自分たちが学んだ本宮の魅力について発信を行った。また、リーフレットなどを作成し、地域の施設においてもらう予定である。	

学校・園名		田辺市立本宮小学校	公民館名		本宮公民館 本宮分館 四村川分館 請川分館
学社融合における学校・地域の様子					
共育コミュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着している。 平成23年度から「音無の里共育コミュニティ事業」として小中3校と全地域が一体となった本宮独自の「学社融合」の取組を行っており現在も継続している。					
目 標	学校・園・地域	平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足されたことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続けていく。 また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめなおしていく。			
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織		
			育友会 熊野本宮語り部の会 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 学校ボランティア 世界遺産熊野本宮館 熊野本宮伝統芸能教室 公民館サークル 学校クラブ活動協力者		
成果と課題（学校・公民館からの視点）					
成果			課題		
学校	・今年度は、「世界遺産学習全国サミットinたなべ」が開催され、子供たちは、地元本宮の魅力と熊野古道の素晴らしさを紹介しようと語り部ジュニア活動により一層意欲的に取り組むことができた。また、その取組を参加者の方々から評価していただいたことで、子供たちは達成感を感じると同時に、本宮地域の魅力を再確認し、本宮を誇りに思う気持ちを高めることにつながった。 ・今年度も、語り部ジュニア活動以外にも、クラブ活動や手話学習、伝統芸能、花植などの活動に地域の方々に学習パートナーとして参画していただいた。クラブ活動では、公民館から地域の方を紹介していただいた。		・今後も子供たちのコミュニケーション能力を高めたり、自分たちが住む地域の魅力を発見したりするためにも、地域の方々との関わりを作り、深める機会を設けていきたい。また、活動が形骸化しないよう、その活動の意義や目的を子供たちと共有して取り組んでいきたい。 ・高齢化により学習パートナーを辞退される方がおり、今年度も新たな人材確保の必要性和その難しさを感じている。今後も学社融合推進協議会の協力を得ながら進めていきたい。		
公民館（地域）	・公民館活動もコロナ禍以前の支援活動の取組を行うことができた。学校行事や公民館行事を共に協力し合いながら実施した。 ・学校教育の場でサークル活動等で取得した知識や経験を生かし、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。 ・子供たちと接することにより、子供たちから元気をもらい、子供たちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。		・学習パートナーの高齢化に伴い、地域住民に学社融合活動についてより理解してもらい、新たな人材発掘に取り組んでいきたい。 ・学校教育に参画していただけた方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。 ・子供たちが生まれ育った地域を知り、理解し、故郷に誇りを持てるような活動を支援していきたい。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
・本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年2回開催とする。 ・第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。 承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。 ○各校独自の取組・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力等 ○地域独自の取組・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請等 ・学社融合の活動を通じて、地域の方々や地域の活動、またはその活動に対する思いを理解したり一緒に活動したりすることで、子供たちの本宮を自慢したいという想い、本宮プライドを高めることをめざしていく。 ・委員からの意見 「各校の学社融合に係る取組や事前の紹介は、地域の方に取組を知ってもらうよい機会になるため、今年度も行政局ロビーに年間を通して掲示する。」 「コロナ禍で途絶えていた行事や地域とつながる活動を徐々に再開していきたい。」	
特徴的な協働活動	
「～本宮大好き・本宮町の今とこれから～」	
1. 【音無茶】 今年度も、川湯地区の茶畑で音無茶を栽培している宇恵操さんの畑で、3年生の子供たちが茶摘み体験をおこなった。収穫した茶葉は煎り、揉んで天日に干し、袋詰めをした。加えて、お茶を渡す方を考えたり、音無茶の魅力にふさわしい名前をつけたりした。出来上がったお茶は、学習パートナーの方や地域の方々にお配りし、皆さんに本宮の味を楽しんでいただくことができた。また、5年生の家庭科の授業や給食のメニューにも活用した。子供たちは、美味しいお茶を作るまでの作業の大変さや楽しさを学ぶとともに、自分たちが作ったお茶が他に活用されたことで達成感を感じることができた。	
	
2. 【語り部ジュニア活動】 まず、職員研修として熊野古道「大日越え」を「熊野本宮語り部の会」の梅崎奈美江氏とともに歩いた。プロの語り部の方が語る内容や行動、心がけを知ることができた。子供たちは、梅崎さんのご支援、ご指導の下、本宮や熊野古道の魅力、さらには語り部の役割や方法について学習を進めた。6年生が昨年度の経験を生かし、4、5年生に語りの見本を見せたり、聞き手に伝わる語りのポイントを伝えたりする場も設けた。また、子供たちは、実際に現地に行き、語りを行うことで、場所の案内だけでなく、道中の安全のための声かけや日常会話などを行うことも大切であることを学んだ。「世界遺産学習全国サミットinたなべ」では、一般参加者、教育関係者等の皆さんに堂々とした語り部を行い、練習の成果を発揮できた。道中の声かけや名所の紹介等を通して、子供たちは、自分たちが愛する地元本宮の魅力と世界遺産熊野古道の魅力をしっかり伝えることができた。	
	
3. 【伝統芸能】 今年度は、熊野本宮伝統芸能教室の皆様にご指導いただき、「大瀬の太鼓踊り」に取り組んだ。子供たちは独特のリズムに手と足の動きを合わせることに苦労しながらも、練習を重ねる度に上達していった。また、技の習得だけでなく、指導を受けた伝統芸能教室の方々と関係も深まった。学習発表会では、練習の成果を発揮し、見事に踊ることができた。 また一つ本宮の魅力に触れることができた活動であった。	
	

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：東陽中学校学社融合推進協議会

学校・園名		田辺市立東陽中学校		公民館名		東部・中部・南部・ひがし公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
公民館施設を併設した中学校として、公民館と学校が連携を深め、地域の教育力を生かした様々な取組を実施している。「東融会」（東部・中部・南部・ひがしの各公民館主事と校区の学社融合を推進する会）を通じて管内公民館と情報を交換し、共有している。地域の方々も公民館の働きかけに協力的で、東部・南部公民館を通して学校支援サポーターを募集し、学校の教育活動に協力をいただく等、本校生徒の健全育成に尽力していただける体制ができている。公民館の掲示版には学社融合行事の様子や教科・部活の作品等を掲示し、地域の方々に紹介している。また、地域にある田辺第一、田辺第二、田辺東部各小学校と連携した学社融合の取組も推進してきた。学社融合推進協議会では、今までの取組を引き継ぎながら、現在の東陽の地域実情に合った取組の議論を進めている。							
目 標		学校・園・地域					
		・ 公民館施設を併設した学校として、地域の教育力を生かした学校支援サポーター等を活用した学社融合の取組を推進する。 ・ 校区の小学校と連携を深め、児童と生徒が交流できる企画を進める。 ・ 学校と地域が、共に取り組み、学び合う機会を増やし、「社会に開かれた教育課程」を推進する。 ・ 幅広く地域の方に呼びかけ、学社融合活動に携わっていただく。 ・ 生徒たちと共に、当地域の課題（防災等）について学んだり、活動したりする機会を持つ。					
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織			
				○人材バンク （学校支援サポーター） ・ 図書整備 ・ バラ園整備 ・ 各種授業講師			
							
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学校		地域との連携は、主に総合学習として取組を行った。1年生は防災学習を通じて学んだことを学社融合推進協議会の委員の前で発表した。また、3年生は地元の事業所にご協力頂き地域資源を生かした商品開発を行い、地域のイベントで生徒自ら販売を行う「TOYOマート」という取組を行った。これらから、生徒は自分たちが住んでいる地域の良さを再認識し、さらに地域の一員としてなができるかを考える良い機会となった。 小学校との連携では、田辺第二小学校・田辺東部小学校に向けて中学校体験を開催し、体験授業やクラブ見学を行った。			地域の方のご協力を受けるだけでなく、学校として地域にお返し・発信できる活動を増やしていきたい。そのために、生徒たちが、地域の一員として主体的に活動できるような取組を進めたい。		
公民館（地域）		東陽中学校バラ園の整備作業では、生徒ボランティア37名と地域のボランティア4名が作業に参加し、子供たちと地域の方々が交流できる良い機会とすることができた。また、母校のバラ園への愛着も深めることができたのではないと思う。 「文化展」や「なんぶフェスティバル」では生徒の作品を展示することで、東陽中学校の取組や生徒たちの日頃の学習の成果を地域に発表することができた。			バラ園の管理体制については今後も検討を重ねていき、多くの方々に携わっていただけるよう呼びかけていきたい。 「バラと音楽の鑑賞会」、「スマホ講座」、「ウォークラリー」等、現在も多くの場面で子供たちに活躍していただいているので、今後もそのような場を増やしていきたい。		

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

11月1日に行われた、第2回学社融合推進協議会では、1年生の授業を参観していただいた。防災学習のまとめ発表を参観していただき、生徒に直接質問やアドバイスをしていただいた。その後の協議では、生徒の発表について以下の意見が出された。

- ・良くまとめられています。
- ・スライドに書いている文章を棒読みするのではなく、自分の言葉で伝えられると良いですね。

特徴的な協働活動

「バラの東陽」をいつまでも

地域の方と一緒に、5月にバラ園の整備作業を行いました。また、「バラと音楽の饗宴」と題したバラと音楽の鑑賞会も開催し、200名以上もの方にお越し頂きました。バラ園整備の地域サポーターは年間を通じて活動してくださっています。

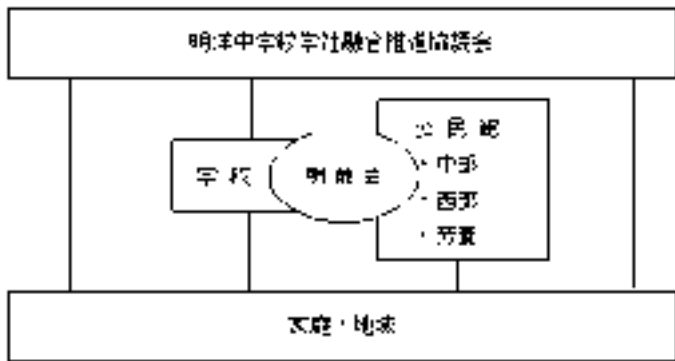
地方創生に向けて ～TOYOマート～

3年生は、昨年度総合的な学習の時間にSDGs（持続可能な開発目標）について学びました。その中で、地方創生という言葉を知り、今ある地域社会を持続していくために何かできないかと考えるようになりました。

そこで、「世界遺産に訪れた人々に和歌山の食をアピールする」を目標に、お弁当のレシピ作りに取り組みました。昨年度同様、地域の事業所さんの協力を得て、地元の食材をふんだんに取り入れたお弁当が完成しました。名前は「くまのの道 参詣弁当」です。食材は、南高梅、磯間のしらす、肉厚で有名な龍神しいたけ、そして、この地域でしかとれない「ひとはめわかめ」を使用しています。また、郷土料理である「めはり寿司」も入っています。

田辺駅前で行われた地域イベント「ふれあいバザール商店街」に、TOYOマートとして参加し、お弁当や梅からあげの販売、絵馬のワークショップを行いました。当日は、外国の方々にもワークショップに参加してもらい、大盛況でした。

地域資源を使って商品を企画し、イベント等で販売を行い、外国人観光客など、多くの方々に私たちの地域の素晴らしさを発信することができました。

学校・園名		田辺市立明洋中学校		公民館名	西部・芳養・中部公民館	
学社融合における学校・地域の様子						
本校では、学社融合推進協議会と公民館主事及び学社融合推進教員で組織する「明融会」の2つの会を中心に学社融合の取組を進めている。授業や部活動を地域から講師を招いて行う活動と、学校が地域に出向く活動があり、ともに公民館の協力を得ながら実施し、活動の充実に努めている。						
目 標	学 校 ・ 園 ・ 地 域	【学校】 ○地域の方々との交流を深めることにより、自分たちも地域の一員であるということを自覚し、故郷を愛する気持ちを育成する。 ○地域での活動を通して、多くの方々と関わることによりコミュニケーション能力を育成する。 ○地域での発表の場を設け、地域に貢献する態度を育てる。 【地域】 ○地域住民との関わりを通して、子供たちのコミュニケーション能力の向上と、伝統・文化の継承や技術の取得を図る。 ○学校授業への適切な地域人材の提供により、子供たちの愛郷心を育みながら、健全な育成を目指す。 ○子供たちとの関わりの中で、地域住民に学校の取組を知ってもらい、子供たちに対する意識のさらなる向上を目指す。				
		校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織		
				・学社融合推進協議会 ・明洋中学校育友会 ・芳養地域人材バンク登録者及び各地域の方々 ・芳養公民館 ・西部公民館 ・中部公民館 ・西部センター ・天神児童館 ・芳養児童センター		
成果と課題（学校・公民館からの視点）						
		成果		課題		
学 校		・学社融合の取組によって、学校や生徒の様子を伝えることができた。 ・第2学年のキャリア教育については、4年ぶりに職場体験を3日間実施することができた。37の事業所が受け入れてくれたおかげで、生徒が興味を持った職種の体験が可能となった。 ・地域の方々の協力を得て、専門的な話を聞いたり体験的な活動を行ったりすることで、学びを深められた。		・様々な活動が制限されることなく実施できるようになってきたので、改めてそれぞれの活動の目的を明確にするなど、見直しが必要である。 ・地域の方々と関わる機会を生かして、コミュニケーション能力の向上を図りたい。 ・公民館や学社融合推進協議会と連携し、体験活動等の指導に携わっていただける人の確保に努めたい。		
公 民 館（地域）		・紀州手まりや茶道、華道等、公民館から講師を派遣して実施することができた。また、紀州手まりと生け花については、文化発表会において展示することで、保護者や地域の方々に見てもらうことができた。 ・各公民館主催の作品展に、中学生の作品を展示することで、地域の方々に中学校の取組の一端を示すことができた。		・講師の先生方が高齢になってきているため、鰯の三枚おろしや浴衣の着付け教室については派遣ができなかった。取組内容を検討したり、取組自体できなくなることを予想した対応をしたりする必要がある。人材確保について、学校と連携したい。 ・今後も地域と子供たちの関係をより深く繋いでいきたい。		

今年度の取組内容		
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）		
【第1回学社融合推進協議会（R5. 5. 29）における協議内容】 ・コロナが5類になったことによって、学校では行事等についてコロナ禍以前に戻すだけでなく、見直しをし、改善できるところは改良している。 ・ICTを不登校生への対応として活用できないか。 ・SNS上でのいじめ問題に対応していくこと。 ・授業参観を含めた協議会をもつことについて検討する。 ・部活動の入部状況を説明し、今年度も10月に部活動検討委員会を予定していることを報告する。		
【第2回学社融合推進協議会（R5. 12. 20）における協議内容】 ・第1回学社融合推進協議会の意見を受けて、協議会を午前中に開催し、授業参観を行った。生徒・教師の様子を見ることができたのは良かった。 ・生徒は落ち着いて学習していて、教師の授業には工夫が見られる。 ・タブレットを使ってどう授業の質を高めるか等、先生に求められることは高くなってきている。 ・学力向上の取組は小学校から必要なので、小中連携が大切である。		
【第3回学社融合推進協議会は3月に開催予定】		
特徴的な協働活動		
【キャリア教育 職場体験学習】 ・今年度は4年ぶりに第2学年で、職場体験学習を3日間行うことができた。訪問の前にビジネスマナー講座やJCティーチャーによる講演を聞くなど、事前学習も充実させたうえで、37の事業所で体験させてもらうことができた。		
		
ビジネスマナー講座	JCティーチャー講演	職場体験
【西部地区防災訓練・防災スタンプラリー】 ・西部センターが行う「防災スタンプラリー」に中学生も参加をし、災害への備えについて、地域の人と一緒に見て・聞いて・体験した。		
		
【紀州てまり】 ・中部公民館から講師先生を派遣していただき、今年度も文化部の生徒が紀州てまりを作成した。公民館の作品展にも出品できた。		
		

学 社 融 合 推 進 協 議 会 活 動 報 告 書

協議会名：高雄中学校学社融合推進協議会

学校・園名		田辺市立高雄中学校		公民館名		秋津・万呂・稲成・ひがし・中部・南部公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
例年、家庭科、社会科、保健体育科などの授業や文化部などの部活動指導、総合的な学習における進路学習など、さまざまな形で地域の方をゲストティーチャーに迎えて取り組んでいる。また、1年生は校外学習、2年生は職場体験学習、3年生は保育実習等で地域と連携して活動している。本年度はコロナが5類に移行されたことによりほとんどの取組を実施することができた。							
目 標		授業や部活動での地域の方とのふれあいを通じて、地域を今まで以上に深く知り、専門性の高い内容に興味関心を抱くことで学習意欲を高め、自分が生まれ育った地域に誇りと愛着を持たせる。 【高雄中学校学社融合推進協議会】 高雄中学校学社融合推進協議会は、保護者及び地域住民等（以下「保護者等」という。）の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や生徒の健全育成に取り組むものとする。					
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織			
高雄中学校学社融合推進協議会 (会長1名・副会長1名・委員8名) 家庭 学校 公民館 地域 学校運営への企画・支援・協力				公民館 たなべる 昭和幼稚園 いずみ保育所 田辺警察 青少年センター 田辺市消防署 田辺社会福祉協議会 城山台給食センター			
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学校		・学校開放週間や学社融合推進協議会の授業参観、民生児童委員の学校訪問等で地域の方に学校や生徒たちの様子を知ってもらうことができた。 ・地域の方をゲストティーチャーとして迎え、思春期講座、ユネスコ平和学習、カンボジア国際理解などについて学習した。 ・職場体験学習や企業訪問を通して、地域でどのような仕事が行われているかを知ることができ、地域理解に繋がった。				・ゲストティーチャーの話を聞いて終わるのではなく、学んだことを元に学校から地域に発信していくことも必要だと考えられる。 ・地域の方に学校に来ていただく活動だけでなく、子供達が地域の活動に参加する機会をつくっていきたい。 ・小学校6年生の学校見学を実施しているが、教員同士の交流が少ないため、授業参観等で交流する機会をつくっていきたい。	
公民館（地域）		・作品展示会を通して、地域と学校のふれあいの場を作ることができただけでなく、出展者の生きがいづくりにもつながった。 ・学社融合推進協議会の中で、学校が抱える課題や要望、地域から見える学校の課題・疑問点について協議することで、学校と地域が連携して生徒を育てていくという意識の共有ができている。				・地域とのつながりを深めるため、中学生が地域の行事等に参加する機会を増やしたり、地域社会に参加しやすい居場所を作り、受け入れる体制を整えたりして、家庭・学校・地域との連携を強化していきたい。 ・中学生の公民館行事への参加が少ないので、中学生の関心やニーズを把握し、それに沿った行事を企画、実施する必要がある。	

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

【本校の課題】

- ・インターネットトラブル
- ・下校時間ギリギリでクラブが終わり、生徒が急いで下校するので危ない
- ・交通マナー

【協議事項】

- ・本校の不登校・別室登校生徒の現状
- ・コロナの影響で、地域と交流する機会が少ないこと
- ・避難訓練の在り方

【学校側として期待すること】

- ・教員以外の方々との交流により、学校では得られない新たな気づきが生まれること。
- ・コミュニケーション活動に対する自信を取り戻すこと。
- ・学校集団に戻って活動できるようにすること。

特徴的な協働活動

学社融合推進協議会委員の方をゲストティーチャーに迎えた、ユネスコ協会の平和を広める活動の講演会や、田辺市国際交流活動の一環としてのカンボジア国際理解学習、五味田道場の先生に教えていただいた合気道の授業、また、文化部の紀州てまり教室や茶道体験などを実施することができた。また、学年の取組としては、地域を知るために行った校外学習やキャリア教育の一環としての職場体験学習などで、学校ではできない貴重な体験をすることができた。昨年度に引き続き、保護者の方に図書ボランティアに来ていただいた。

カンボジア国際理解学習

ユネスコ平和学

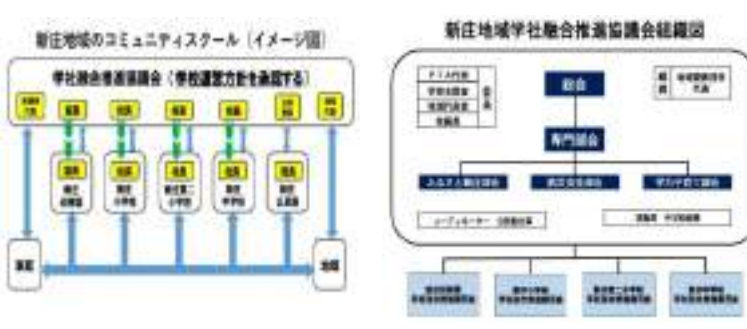
紀州てまり教室

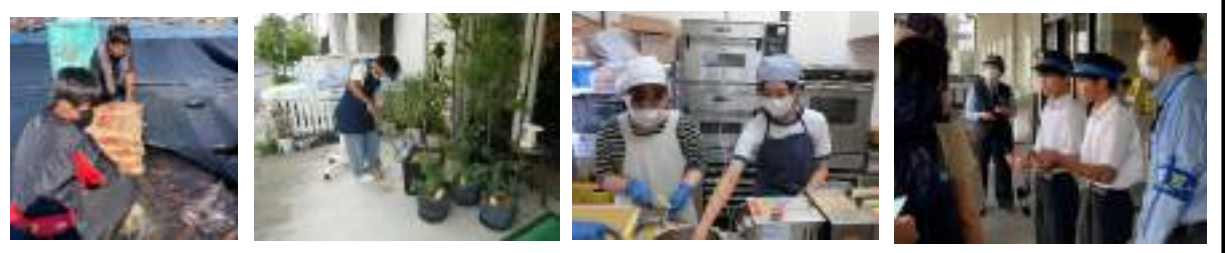
図書ボランティア

合気道の授業

職場体験学習

校外学習

学校・園名		田辺市立新庄中学校	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子				
新庄地域では、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、幼小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各学校単位で育友会・PTAの協力のもと、保護者・地域との取組も進めている。（今年度、新庄幼稚園は休園中）				
目 標	学校・園・地域	田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。		
		本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の文化や伝統産業の調べ学習、地域の未来を考える学習を通して、地域を愛する心を育てる。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織		
		学社融合推進協議会 ○ 幼小中学校育友会・PTA ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 新庄中学校 ・新庄漁業協同組合 ・和歌山県南紀熊野ジオパークガイド田辺ジオパーク研究会 ・新庄橋谷獅子舞保存会 等		
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
学校	成果		課題	
	1年生は、「新庄地域学～新庄の歴史・産業・自然とこれから～」をテーマに、新庄地域の伝統や自然、漁業や産業について調べ、また地域の方から学び、文化発表会で伝えることができた。2年生は、18カ所の事業所での職場体験学習に取り組んだ。3年生は、「未来につながるアクション～考えよう・取り組もう・変えていこう～」をテーマに、世界の現状や課題についてカードゲームを通して学び、その後、身近でできることを調べ、文化発表会で伝えることができた。また、地域の消防団の方々と避難所運営ゲームHUGに取り組むことができた。文化発表会では、生徒の俳句作品や技術・美術・家庭等の作品を展示したり、各種たよりにおいて、行事のあとの生徒の感想を載せることで、地域の方にも、学校の活動を知ってもらうことができた。		・従来の活動がさらに充実したものになるように、カリキュラムの工夫や見直しをしている。また、専門的な技術、知識を持っている地域の方々とさらにつながりを深め、ゲストティーチャーとしての活用を工夫し、取組の内容を考えていく。	
公民館（地域）	「新庄の獅子舞」や「新庄ぎおんさんの夜見世」などの地域の伝統行事について、生徒にその歴史や魅力、特色を伝えるとともに、自らも地域に対する想いを再認識できるいい機会となった。また、地域の方、公民館が生徒と顔見知りになることで地域の一体感がより一層高まった。		より多くの方に事業に携わってもらえるよう、情報提供や参加しやすい雰囲気づくりに努める。 また、地域学習の幅をさらに広げられるよう、人材把握や育成に努めていく。卒業後も地域と関われるような仕掛けに努めていきたい。	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学社融合推進協議会）	
* 学力子育て部会 ・各校の講演会等案内を小中の保護者に配布。新庄地域全体で参加を呼びかけた。 * ふるさと新庄部会 ・総合学習の調べ学習「地域学」で、公民館や新庄地区の各種団体と連携（1年生）。 ・国の天然記念物「鳥巢半島泥岩岩脈」でフィールドワークを実施（委員11名）。 * 防災安全部会 ・消防新庄分団とのHUG（避難所運営ゲーム）を実施（3年生）。 * 11月19日の文化発表会（11月13日から11月19日は学校開放週間）の案内をし、委員さんが来校。生徒の様子や取組内容を知っていただく機会とした。	
特徴的な協働活動	
【1年生 地域学】 自分たちの地元について、設定したテーマに沿って調べることで、地域への関心や新たな課題を見出すことができた。また、自分たちの設定したテーマに関係する仕事の方々にアンケートをしたり、実地調査を行ったりした。 	
【2年生 職場体験学習】 職業観・勤労観を育み、自己理解を深めること、社会規律やマナー等の必要性を理解し、習得することを目的とし、今年度は18の事業所に協力頂き、10/11～13の3日間実施した。 	
【3年生 新庄未来学】 ●SDGsカードゲーム「2030 SDGs」 疑似的な世界を作り、仮想のお金や時間を使って仕事やボランティアを行い、自分たちの行動が、環境、経済、社会（幸福度）にどのような影響を及ぼすのかを体験した。  ●避難所運営ゲーム HUG ゲームを通して、避難所での生活やそこで起こりうるトラブルなどを体験した。また、地域の消防団の方にも参加してもらうことで、異なった視点での考え方に触れることができた。 	

学校・園名		田辺市立衣笠中学校	公民館名	三栖公民館・万呂公民館
学社融合における学校・地域の様子				
三栖地域では、学校が抱えている課題を保護者や地域の方々に積極的に伝えることにより、共有化を深めている。また、「地域について学ぶことで地域への愛着心を培い、様々な人たちと交流を図る中で好ましい人間関係のあり方を学び、人を思いやる心など豊かな人間性を身に付けさせる。」という目標実現に向け、学校・地域・公民館がお互いに協力できる体制が確立されている。				
目 標	学校・園・地域	・自然や地域の人々との触れ合いを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、様々な面から地域に貢献する態度を育成する。 ・地域を知り、たくさんの人やものとの出会いから、豊かな心を育て、生き方を学ばせる。 ・様々な活動を通じ、中学校の取組について理解を深め、地域ぐるみで取り組んでいく体制を作っていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
衣笠中学校学社融合推進協議会 組織体制図 			○三栖幼稚園 ○三栖小学校 ○長野小学校 ○会津小学校 ○三栖公民館 ○万呂公民館 ○育友会 ○地域住民 ○田辺市梅振興室 ○J A 三栖等地域団体や企業	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成果			課題	
学校	・1年生は、防災学習を伏菟野地区で実施し、経験談を地域の方々から聞いて、防災意識を高めることができた。 ・2年生は、コロナで自粛していた職場体験学習を地域の事業所の方々に協力していただきながら、実施することができた。 ・生徒会活動において、三栖小学校の運動会の運営を手伝うことができた。 ・衣笠中学校でミニ町内会を開催することができた。「三栖」「城山台」「万呂」の各町内会の代表者の方々から町内会の仕組みや役割、課題について学び、それらを解決するための方策を考えることができた。 ・講師を招聘して情報モラル教室を全校生徒を対象に実施することができた。		・本校の専門委員会組織を改編し、よりよい学校生活を送るための活動を充実させたい。その中で各種の取組への参加や地域や事業所との連携を増やしていきたい。 ・今年度実施したミニ町内会を総合的な学習の時間に位置付け、来年度以降も継続して実施する予定のため、教育計画に記載する必要がある。 ・来年度のミニ町内会を6月に開催し、地域ごとのニーズに応じた活動や生徒の主体的な活動につなげたい。	
公民館（地域）	・毎月公民館の入り口に小中学校や幼稚園、公民館サークルの活動を紹介する掲示物を展示することができた。成果として定期的に公民館への来訪者を増やし、それぞれの活動を知っていただくきっかけとなった。 ・地域の方々の交流を目的にソフトバレー大会を開催することができた。地区ごとにチームを編成することで、活気のある大会になった。壮年の参加が多く、非常に有意義な取組となった。 ・小中学校や幼稚園の行事日程を「公民館だより」を通じて発信することができた。		・公民館、学校、地域の取組を「三栖公民館だより」を通じてさらに発信していきたい。公民館からの視点で意義や取組の成果を紹介していきたい。 ・学校や地域のニーズを把握するため、学校や地域に出向いて、それぞれの現状や課題を把握する。 ・三栖は転入者が増加している地域であるものの、地域内での繋がりは希薄になりつつあるように感じる。地域、公民館、学校を繋ぐ役割が必要である。	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
学社融合推進協議会を開催して、地域の方々の困り感や課題について出席者で共有することができた。 【具体的な内容】 ・町内会に入会している割合が年々減っている ・老人会への参加人数が減少している ・地区の会議への参加人数が減少している ・地域住人同士のコミュニケーションが減少している ・夏祭りの内容のマンネリ化 時代の変化と共に学校の抱える課題も多様化している。衣笠中学校と地域が協力し、子どもを育成していくという認識を共有した。 ・和歌山県教育委員会道德読み物資料集中学校希望へのかけはし「町内会デビュー」を使って、全校一斉道德を実施し、教師生徒共に町内会への意識づけを行った。	
特徴的な協働活動	
・1年生で、平成23年の台風第12号における豪雨で大きな被害に遭った伏菟野地区を訪問し、その後谷口元区長よりお話を聞き、災害の怖さや日頃の備えの大切さ、復興に向けての取組について学習することができた。 ・1年生の総合的な学習の時間に、世界遺産センターの土永拓也先生を招聘し、地域学習を行った。 ・2年生の総合的な学習の時間に、地域の事業所にて職場体験学習を行った。 ・3年生の技術・家庭科の家庭分野授業で、三栖幼稚園にて保育実習を行った。 ・「世界津波の日」に、避難訓練を三栖幼稚園と合同で実施した。 ・NIT情報技術推進ネットワーク（株）代表取締役の篠原嘉一先生を招聘し、「スマホやSNSのトラブルから身を守るために」をテーマに、教育講演会を全校生徒を対象に実施した。 ・敬老会が中止となったため、中学生が地域の方に手紙を書き、公民館を通じて配布していただいた。 ・元三栖小学校栄養教諭の田上成美先生を招聘し、全学年食育の授業を行った。 ・生徒会活動において、三栖小学校の運動会の運営に生徒会役員が参加することができた。 ・学社融合推進協議会で共有された地域の困り感や課題に対して、衣笠中学校内でミニ町内会を行った。事前に道德の授業において、和歌山県教育委員会が発行した道德読み物教材「町内会デビュー」（希望へのかけはし）を活用し、郷土の伝統と文化の尊重、郷土を愛する態度について学んだ。その後「三栖」「城山台」「万呂」の各町内会の代表者の方々から、町内会の仕組み、役割、課題について学ぶことができた。学んだことから自分たちが地域にできることを考え、2月に清掃活動を実行する予定である。	
ミニ町内会 in衣笠中	
 	

学校・園名		田辺市立上秋津中学校		公民館名		上秋津公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
平成28年度から30年度までの、幼稚園・小学校・中学校・公民館と連携した「上秋津地域共育コミュニティ本部事業」の取組を継承している。幼稚園から小学校、中学校に至る11年間の教育活動を目指した、地域とともにある実践活動を目指している。 従来から上秋津では、地域が子供たちを育てる取組が進められており、上秋津学社融合推進協議会はその活動をさらに発展させるため、幼小中の連携強化に重点を置いたものであった。							
目 標		学校・園・地域					
		・ 農事体験を中心とした体験活動を行い、ふるさとを大切にする心を育てる。 ・ 地域の産業や文化を学習の中に取り入れ、学力の向上を図る。 ・ 防災、福祉活動を中心とした人を大切にする教育をすすめる。 ・ 幼・小・中・公民館・地域の連携を図る。					
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織			
上秋津地域学社融合推進協議会 公民館・上秋津幼稚園・上秋津小学校・上秋津中学校 PTA・町内会等 役員・事務局 ※役員＝会長・副会長・役員 ふるさとを誇りに思う 学力の向上を図る 人を大切にする				上秋津町内会 上秋津公民館 JA紀南上秋津 JA紀南上秋津青年部 幼稚園PTA 小学校育友会 中学校PTA 民生児童委員 公民館サークル 秋津野ガルテン 介護老人保健施設あきつの 等			
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成 果				課 題			
学 校		・ ゲストティーチャーを招聘する機会が増え、生徒の学びがより効果的なものとなった。 ・ 3年ぶりに体育大会や文化発表会に保護者だけでなく地域のたくさんの方々に来校していただき、楽しんでもらうことができた。 ・ 農事体験学習を通して、地域の産業や文化を学ぶことができた。また地域の方々との関わりから、一人一人が地域に大切にされていることを実感させることができた。 ・ 大人とだけでなく、小学生や園児と交流することで、相手のことを想像し、コミュニケーションをとる力をつけることができた。				・ これまで保護者をお願いしていた農事体験学習が、準備段階からJA紀南上秋津青年部の方々のご協力を得られるようになった。こういった繋がりを大切にし、その時々状況に合った取組ができるようにしたい。 ・ 地域の方々との継続的な関わりの中で、コミュニケーション力や社会性を育む手立てを考える。 ・ 教科の授業にもゲストティーチャーに来ていただく機会を増やしていきたい。	
公 民 館（地 域）		公民館が持つ地域との繋がりを生かし、中学校との協働活動において連携を取ることができた。 コロナ禍から始まった上秋津文化作品展では、管内の幼稚園、小学校、中学校の子供たちの絵画や作品が多く展示されるとともに、公民館の文化サークル（絵画、陶芸、写真）の作品を同時に展示することでできた。 個別の展示ではなく、学社融合活動として協働で展示会を行えたことは、出展者に加え一般の来場者においても見ごたえのある展示となった。				地域行事が再開した中学校と、スムーズに実施できるよう、相互の情報共有は十分に生かすことができた。今後においても地域と学校が協力できる体制を継続させることで、相乗効果を生むことができると考える。 今後の課題としては、コロナ禍で長い間事業の中止が続いたことに加え、これまで地域活動の柱であった女性会や老人会などの組織が無くなるなど、公民館の繋がりを生かした活動を進めるうえで、大きな課題となりつつある。	

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）
◇ 開かれた学校づくり ◎学社融合推進協議会全体で課題・目標を共有する。 ◎授業を中心に、学社融合を推進する。 ・ 農事体験 ・ 職場体験 ・ 食育講座 ・ 防災学習 ・ 地域学習 など ◎地域と学校が一体となって行事を融合させる。 ・ 公民館主催の夏祭・春祭 ◇ 幼・小・中・PTA・公民館の連携 ◎校園長・学社融合担当者会・公民館主事・PTA役員が共通理解できる場の設定。 ◎幼・小・中・地域が連携した取組を進める。 ・ 職場体験 ・ 幼稚園との交流（家庭科） ・ 小中交流授業 ・ 農事体験
特徴的な協働活動
～地域の特色を活かした取組～ 夏季職員研修 上秋津の農業を中心とした地域づくりについて、秋津野ガルテン代表木村則夫さんよりお話を伺った。子供たちが地域を知る学習を進めるにあたり、まず職員が地域について知ることを目的に企画したものである。「住民でやれることは何でもやる」という理念で、地域活性化を継続してきた取組は、地域の学校として子供たちの今後の活動を考える貴重な機会となった。 地域の産業を核とした体験学習 農業を地域の基盤となる産業の一つ、生活を支える身近な職業の一つとしてとらえ理解する事を目的に、地域の農業を営むご家庭に協力をお願いして「農事体験学習」を実施している。また、ＪＡ紀南、秋津野ガルテン様の協力で「梅学習」やマーマレードづくり、ガルテン巻づくりを通して地域の産物について学習した。
 農事体験学習
 梅学習 マーマレードづくり ガルテン巻
防災学習 ６月の防災学習では、防災士の資格をもつ元上秋津公民館長の芝光治さんから、和歌山県で過去にあった災害についてお話しいただいた。地域の子供たちに語り継いでほしい事を伝える機会があることを喜んでいたことが印象的であった。



学社融合推進協議会活動報告書

協議会名：秋津川地域学社融合推進協議会

学校・園名	田辺市立秋津川中学校	公民館名	秋津川公民館
学社融合における学校・地域の様子			
秋津川中学校では、ほとんどの生徒が保育所から小・中学校と一緒に生活し、生徒同士の人間関係がよい。また、保護者も長い年月と一緒に活動しているため、連帯意識が強く、地域の人々も子供たちを見守り育てようとする意識が強い。学社融合の取組から、計画的に子供たちが地域の方々と触れ合うことで、視野を自分たちから地域へと広げて考えられるようになるとともに、一緒に行動することで地域全体の活性化に貢献している。今年度は、4年ぶりにふるさと祭りや町民運動会が開催され、秋津川の文化の継承行事も再開された。			
目 標	・地域の方々との交流を通して、秋津川の先人の知恵と文化を受け継ぎ、地域の良さを再確認し、地域や学校を大切に作る心を育てる。 ・地域の方々との交流を通して、コミュニケーション能力を高める。 ・地域の方々との交流を通して、子供たちに伝統文化等の様々な知識を教え愛郷心を養う。 ・普段子供たちと接する機会の少ない保護者以外の方々に、公民館主催のイベントを通して交流を持っていただくことで、地域の活性化に繋げていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
<pre> graph TD EC[教育委員会] <--> A[秋津川地域学社融合推進協議会] A <--> KS[秋津川小学校] A <--> KS2[秋津川中学校] A <--> PD[保護者・地域] </pre>		秋津川公民館 秋津川町内会 秋津川振興会 JA紀南秋津川店 JA女性会 秋津川婦人会 秋津川小学校 秋津川保育所	
成果と課題（学校・公民館からの視点）			
	成果	課題	
学校	・町民運動会やふるさと祭り等の地域行事は、4年ぶりに再開された。また、文化発表会での苔玉教室、中学生・小学生で行うウバメガシどんぐりの種植え作業、キャリア教育の実施などに取り組むことができた。今年度の職場体験は南紀白浜エアポート、ホテルシーモア、たなべるで実施した。 ・1年生の校外学習で地域の偉人についての学習を実施し、南方熊楠顕彰館・植芝盛平記念館を訪れた。 ・小中学校の連携についても、例年通り実施できた。	・毎年実施している学校行事や地域との連携による行事はどれも大切なものである。しかし、何か新しい視点を入れて行事を地域と生徒と共に作り上げていくための工夫をしていく必要がある。 ・中学生の人数の減少から、今後も同じ取組を続けていくことはすでに厳しい状況であるため、中学校側でもさらに工夫をする必要がある。	
公民館（地域）	・令和5年度は、公民館主催の行事が徐々に再開でき、地域と子供たちが交流する機会が元の状態にもどりつつある。 ・コロナ禍後の活動においては、運動会やふるさとまつりをはじめとした中学校との協働活動においても連携を取ることができた。 ・今後も、活動を継続しながら、子供たちが、地域の魅力を再発見する機会にしていきたい。	・地域の活動が再開した際に備え、学社融合推進協議会を中心に、地域と学校が連携できる体制を継続していたため、スムーズに再開できた。 ・地域の高齢化が進み、既存行事の継続が難しくなっている状況ではあるが、中学生にとっても地域にとっても大切な意味のある活動を継続していけるように、学社融合推進協議会等で協議を重ねて行く必要がある。	

今年度の取組内容

会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

・今年度の第一回学社融合推進協議会は、5月に実施。協議内容は以下の通りである。地域行事の再開もなかった。

【議案】

- ・役員（会長・副会長）の決定及び確認
- ・令和５年度スクールプランについて（秋津川小学校・中学校）
- ・令和５年度年間計画案について ・令和５年度会計予算案について

特徴的な協働活動

・6月21日（水）保育所、小学校、中学校合同避難訓練を行った。地震が発生したという想定のもと、揺れが収まるまで机の下に入り、避難指示が出てから保育園児たちの避難誘導も手伝った。その後、消防士の方々からお話を聞き、消火訓練では「火事だ」と大きな声で叫び、リズムよく消火活動を行った。



・11月10日（金）文化発表会を実施。保護者や地域の方々にもお越しいただき、作品展示や合唱、炭琴演奏、学年の発表など、日々の学校生活での取組の成果を見ていただいた。また、フラワーコーディネーター 野田 実さんをお招きして苔玉教室を実施した。地域の方々も参加していただき、楽しく制作活動ができた。



・12月5日（火）小学校5・6年生と中学生でどんぐりの植えを体験した。生徒から「大きく育てほしい」などの感想が見られた。この日は、備長炭の窯出しも見学することができた。



【文化発表会および苔玉教室に参加された地域の方々の感想】

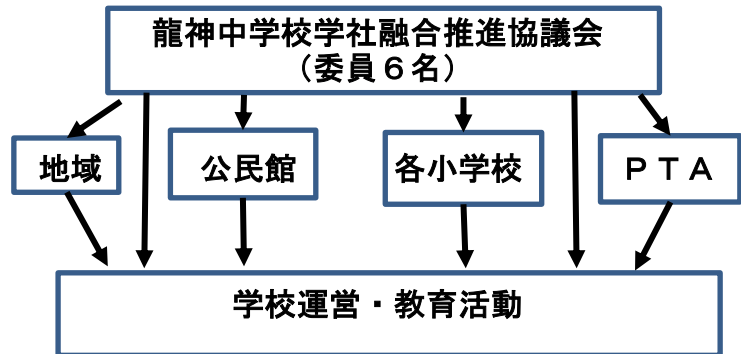
- ・炭琴の演奏はとても良かったです。5人の生徒の息がぴったり合っていました。
- ・司会をみんなで交代してやっていたのが良かったです。それぞれの発表や展示物・作品、みんな素晴らしかったです。
- ・常に向上心を持って成長してくれている様子が伝わってきて、うれしく思いました。
- ・苔玉教室、初めてで少々難しかったけれど、短時間で完成できて良かったです。観賞用に重宝しそうです。

学校・園名		田辺市立上芳養中学校		公民館名		上芳養公民館	
学社融合における学校・地域の様子							
自然豊かな環境の中で、児童生徒は地域や保護者に見守られながら学校生活を送れている。小・中学校は、地域のサークルや地域の方々の協力を得ながら、地域にある施設や事業所の方々と交流を図ったりして教育活動を進めている。地域全体が「地域で上芳養の子どもを育てる」という意識が高く、学校の教育活動に非常に協力的である。 公民館は子供対象の行事を実施したり住民参加のスポーツ大会、文化祭を開催したりして地域の交流を図っている。							
目 標	学校・園・地域	＜ 学校 ＞ ○地域の自然や人とのふれあいを大切にし、地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ○地域行事やボランティア活動に積極的に関わっていかうとする児童生徒を育成する。 ○地域の方々との交流を通してコミュニケーション能力の育成を図る。 ＜ 地域（公民館） ＞ ○児童生徒と地域住民との交流を深めることにより、子供たちの地域理解を深める。 ○学校と地域との連携を密にして子供たちの健全育成を図る。 ○地域の教育力を生かし、学校の授業や活動を支援することで地域の活性化へと繋げる。					
		校（園）区の推進組織（組織体制図） 上芳養地域学社融合推進協議会 委員15人 (学校関係者 各種団体代表及び学識経験者) 事務局5人(上芳養小・中、公民館) 各種団体・地域住民等 小学校、中学校及び育友会 校区協議会 連携・協力 助言・協働 支援					
		支援者及び支援組織 育友会 上芳養小学校育友会 上芳養中学校育友会 上芳養公民館 日向保育所 各種団体 ・上芳養町内会 ・交通安全協会上芳養分会 ・上芳養消防団 上芳養校区協議会 学識経験者 地域の事業所・地域の先生					
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学校		・農事体験学習と職場体験学習を通して、働くことの大切さや意義を学ばせることができた。また、1年生は梅の収穫体験だけにとどめず、地元の特産品の梅を使い、スイーツ作りに挑戦した。 ・地域の産業（梅産業、農産業）を通じて郷土愛を育んだ。 ・地域貢献活動では、教科横断的な取組の中で思考を深めることができた。地域との関わりの大切さを学んだ。				・次年度も地域と様々な行事等で関わりを持ち、より一層連携を深め、地域貢献・地域活性化を共に考えていきたい。 ・総合的な時間の内容を見直し、さらに充実させ継続して何かに取り組めるように工夫する。 ・生徒自身が学びを振り返り、次の学びに繋げていけるような、深い学びとなるよう工夫改善をする。	
公民館（地域）		・公民館の体育行事を通して、生徒と地域の幅広い年代の方との交流が促進され、新たな関係作りができ、郷土愛を育む一端を担えた。また、地域の方と教職員の交流もでき、今後の学社融合の取組等にも繋がる良い関係性を築くことができた。 ・9月に実施された田辺市防災訓練では、中学生・町内会・公民館が一体となって訓練ができ、良い経験となった。その後に開催した防災学習会（訓練の振り返り等）にも生徒会の代表が参加し、話し合うことができた。				・小中学生を対象とした事業の参加者数が減少傾向にあるので、生徒や保護者を対象としたアンケートを実施するなどしてニーズの汲取を行い、来年度以降の事業計画を入念に行う。 ・中学生の力が地域にとって大きなものであると再確認できた防災訓練の良い経験を生かし、地域をより活性化させられるように取組を検討する。	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
* 第1回 定例会 （令和5年7月6日） ・学校教育目標について ・今年度の活動について * 第2回 臨時会 （令和5年12月14日） ・学校の取組について 今年度はコロナ感染症が第五類に移行したこともあり、学校と地域の連携が密になり、様々な行事や体験が実施できている。引き続き、地域・家庭・生徒の社会生活に目を向けながら、学校行事・生活と連携させ、相乗効果が出るように取組を充実させていきたい。 ・来年度の活動について熟議 小中で連携して、系統だった「総合的な学習の時間」の学習内容を確立するために、熟議した。地域の歴史や課題を知ることができ、その課題解決のために、次の一手を考える大変よい機会となった。 * 第3回 定例会 （令和6年2月予定） ・活動のまとめ、次年度の取組について ・学校評価について	
特徴的な協働活動	
○「農事体験学習」を通して、生徒たちは働くことの大切さ、意義についての学習ができた。特産物である梅を使い、スイーツ作りに挑戦した。完成したケーキを文化発表会で地域の方達にも試食していただき、とても好評だった。 ○「職場体験学習」で地元のキャラバンサライ様、日向保育園様、大金様に訪問・体験協力を得られた。 ○生徒会主催の「地域清掃活動」にも地域の方に参加いただいた。生徒の郷土愛を育む活動ができた。 ○「校内マラソン大会」の道路交通安全見守り、「文化発表会」への参観など学校行事へ積極的に参加していただいた。 ○「ころころ山さん」読み聞かせを月1回実施していただいた。地域の読み聞かせサークルの方々の協力により、本にふれあう機会となり、読書意識が向上するきっかけとなっている。 ○「田辺市防災訓練」の地域防災訓練に中学生全員で参加した。地域の方々と共にパーテーションの設営やアルファ米の炊き出し等を協力しながら実施することができた。 ○公民館主催体育行事（卓球・ファミリーバドミントン・カローリング）で、公民館・地域の方々と交流し、地域・生徒・教員ともに親睦を図ることができた。	
	

学校・園名		田辺市立中芳養中学校		公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子					
「地域と共にある学校 学校でつながる地域の”わ”」をテーマに、「子どもの育成」「文化の伝承」「交流の推進」を3つの柱として取組を進めてきた。この取組の成果を生かし、地域とのつながりを大切にしたい取組を公民館と連携して進めている。					
目 標	学校・園・地域	・子どもたちの学びや体験活動を充実させ、学力向上を図るとともに、愛郷心や自己肯定感を育む。			
		・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子どもたちの成長を見守る意識を高める。			
		校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織	
		中芳養地域学社融合推進協議会 (会長・副会長・委員10名) 地域 公民館 幼稚園 小学校 中学校 育友会 ↓ 子供の育成 文化の継承 交流の推進		・中芳養公民館 ・中芳養幼稚園 ・中芳養小学校 ・ＪＡ紀南芳養谷支所 ・中芳養地区老人会「芳寿会」 ・中芳養町内会 ・中芳養地区消防団	
成果と課題（学校・公民館からの視点）					
		成果		課題	
学校	今年度は、感染症による行動制限もなく、地域と交流する機会も増えた。公民館主催の「中芳養夏祭り」が開催され、それに向けて「敬老会」の方々に中学生が盆踊りを教えてもらった。敬老祝賀会にも出席することができた。昨年度に続き、今年度も地元の企業や高校と連携をはかり、1年生が「梅（UME）プロジェクト」と称するキャリア教育体験活動を行った。また、3年生は、「地域活性化プロジェクト」に取り組み、地域と共に学ぶことができた。		感染症による影響もなく、ほぼ以前と同様の地域行事が開催された。3年間実施できていなかった地域行事については、内容を見直す良い機会となった。また、行動制限がなくなった学校行事についても内容の再検討を行った。地域や住民のニーズにどのように応えていくか、学校としてどのようにかわっていくか検討を続けていく必要がある。今後も、幼稚園・小学校・中学校・公民館・町内会の連携を進め、地域と共にある学校としての在り方を探っていきたい。		
公民館（地域）	4年ぶりに開催した中芳養夏祭りでは、「当てくじ」のブースを中学校のPTA役員さんと共に生徒が運営してくれ、ブースを訪れた地域の方々との交流を深めることができた。また、夏祭り前には盆踊り練習会を開催し、地域の方にご指導いただいた。地域の伝統を継承し、郷土愛を深める一端となった。合同作品展の開催や、毎月の学校だよりの配布、敬老祝賀会での合奏の披露等を通して、地域の方が生徒の日頃の学習の成果や部活動の頑張りを実感し、教育への関心を高めることができた。		学校運営や公民館事業に積極的に参加してもらえるような人材探しを引き続き行う。公民館事業への生徒の参加数の減少が現れているため、公民館事業の見直しや新たな取組等、幅広い視点でニーズを汲み取りながら来年度以降の事業計画を検討していく。		

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
「梅（UME）プロジェクト」について 校内の梅の木を活用していることが、素晴らしいというご意見をいただき、梅キャリア学習を持続させていくために必要なことについて協議した。それを受け、梅の木の剪定方法を町内会長にご指導いただいたり、梅ジャムの売上金で梅の若木を1本植えたりした。	
「地域活性化プロジェクト」について 地域課題について、中学生として何かできないかという思いを受けとめていただき、地域住民と共に考え、活動していく方向性を共有した。その中で、地域PR活動にも賛同していただき、学社融合推進協議会と共に『We Love Nakahaya』のステッカー（本校3年生デザイン）を作成することになった。	
特徴的な協働活動	
1年生 『梅UMEプロジェクト～梅UでみんなMを笑顔Eにしよう～	
①ＪＡ紀南様のご指導のもと、「中芳養の梅産業」について学び、校内の梅を収穫した。 ②収穫した梅を校内でペースト状にし、それを冷凍保存した。 ③南紀みらい様に「利益や売り上げの伸ばし方」を教えていただいた。 ④南部高校様のご協力のもと、梅ジャム作りを行った。また、梅ジャムに合うお菓子の商品開発に着手し、チュロス作りも行った。 ⑤各メディアのご支援で、梅ジャム販売に向けての広報活動を行った。 ⑥田辺駅前tanabe en+様で、梅ジャムとスコーン（カフェマイユ様ご協力）の販売をし、国内外の多くの方に来ていただいた。 ⑦中芳養祭において、取組の様子を地域に向けて発信した。	
本年度、様々な方々のご協力のもと活動を充実させることができ、子どもたちは地域の方々とのつながりや温かさを感じることができた。また、商品作りから販売までの活動を通して、子どもたちに多くの興味・関心を育むことができた。来年度も地域の方々のご協力を得ることができれば、梅と合わせた商品の提案・開発を行っていきたい。	
3年生 『地域活性化プロジェクト』	
①【地域課題検討会】 町内会長、公民館主事、PTA役員等、地域の方々に来校していただき、地域の課題について話し合う機会を設けた。 ②【地域清掃活動】 地域課題検討会で出た課題を精選し、「地域清掃」を行った。町内会長、PTA会長はじめ、地域の方々と共に、道路や公民館の清掃活動を行った。 ③【地域PR活動】 東京での修学旅行の際に、中芳養地域と大坊地域の良さについて載せた手作りのパンフレットを配布した。あわせて、ＪＡ紀南様にご協力いただき、梅干しの配布も行った。	
地域課題検討会	
地域清掃活動	
地域PR活動	

学校・園名		田辺市立龍神中学校		公民館名		龍神公民館 龍神・宮代・殿原・東西・中山路・福井・甲斐ノ川分館	
学社融合における学校・地域の様子							
校区が旧龍神村全体である本校は、3台のスクールバスを所有し、全校生徒の約54％がバス通学している。校区は広大であるが、各行事等への保護者の出席率は常に高い。地域も学校の教育活動に対して協力的である。 学校は、地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）から外部講師を招聘した授業を積極的に実施したり、生徒が地域（旧龍神村内やさらに広域な地域）へ出かけ学習する場を多く設定したりするなどし、外部人材を有効に活用する教育活動に取り組んでいる。							
目 標		学校・園・地域					
		①学校が教育活動等の情報を積極的に地域に提供し、地域の学校への関心を高め、地域から支援や協力が得られるように努める。 ②PTA、公民館等と協力して、学校・家庭・地域のそれぞれが果たす役割について考え、地域全体の教育力を高める活動の推進に努める。 ③体験活動の実施、外部講師を招聘する授業の実施等、地域の教育力を積極的に活用することにより、生徒の知識や技能を高め、さらに生徒の道徳性や社会性を高めていく。					
校（園）区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織			
				学社融合推進協議会 ○龍神中学校PTA ○龍神公民館・各分館 ○学校支援者 その他の関係機関 ○田辺市社会福祉協議会 ○龍神行政局 ○NPO「みらい龍神」			
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成 果				課 題			
学 校		・生徒の学びの場を校区や広域な地域で展開することによって、実体験を通じて、知識を活用しながら学ぶことができた。 ・生徒が清掃活動やリサイクル活動に取り組むことによって、達成感を感じることができ、自己有用感を高めることができた。 ・外部講師を授業に招聘することにより、生徒の「考える力」が深まった。 ・地域での教育活動に対し、保護者や地域の方々から多大な協力を得ることができた。				・地域の人材を活かした外部講師をより多く取り入れていきたい。 ・地域やたくさんの人々と交流する機会を増やして、生徒の自尊感情を高めながら、社会性を育てていきたい。 ・生徒数の減少、保護者数の減少、地域の世帯数の減少の中で継続していける持続可能な取組を工夫しながら、状況に応じた新しい取組を考えていきたい。	
公 民 館（地域）		・廃校清掃、年3回の古紙古着回収、「田んぼアート」への協力などの継続的な学社融合活動が、地域の交流の場となり、地域の活性化にも繋がっている。 ・上記の様な様々な活動を行うことで、多様な人々が活動に参画し、幅広い人々は中学校の教育活動が身近なものに感じられるようになった。				・学社融合の取組が継続的に行われてきたが、地域によっては人口減少と高齢化が進み、今まで協力してくれた地域の住民が減少している。今後は、地域ごとの住民に協力してもらう方法から、龍神地域全体で協力して取り組む仕組みを検討していく必要がある。	

今年度の取組内容
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）

- ①保護者・地域の願いについて
 - ◎生徒の学力の向上
 - ◎生徒の「豊かな心」と「健やかな体」の育成
 - ◎部活動の取組の充実
 - ◎生徒にとって楽しい学校生活の実現
- ②生徒の実態
 - ◎素直で真面目な生徒
 - ◎部活動等に意欲的に取り組む
 - ◎あいさつができる
 - ◎SNS等を利用する時間が長い
- ③学社融合の活動を通してどんな生徒を育てていくか
 - ◎ふるさとに誇りを持ちながら、新しい時代を拓き、たくましく生きる生徒
- ④「めざす生徒像」を実現するための取組をどう進めていくか
 - ◎生徒が地域に出て、地域の住民とともに活動を持続していく
 - ◎生徒の自己肯定感、自己有用感を高めることにつながる取組を行う

特徴的な協働活動

【「豊かな人間性」を育むための取組】

（1）「田んぼアート」への協力

◎1年生が6月10日（土）に安井地区にある『たんぼアート』の田植えをしました。『田んぼアート』は、龍神地域の9団体（田辺市龍神行政局産業建設課他8団体）によって構成している『田んぼアート実行委員会』が取り組んでいる活動です。本校もその構成団体の一つです。『田んぼアート実行委員会』会則の目的に、「この会は、龍神村安井地内において田んぼアートを実施し、龍神村の観光振興、地域振興に寄与することを目的とする。」と記されています。本年度は、8月3日（火）に3年生が草取りを行いました。また2年生が稲刈りを10月3日（火）に行いました。

（2）古紙古着回収

◎古紙古着回収は、昭和52年、旧下山路中学校から始まりました。その後、多くの地域の方々にご協力いただきながら、旧龍神村の全ての中学校で実施されるようになりました。平成19年、龍神地域の3校が統合してできた龍神中学校も、学校と保護者、生徒が協力してこの取組を継続していて、龍神地域の古紙古着回収は、47年目を迎えています。
◎校区の全世帯（約1500戸）に案内を配布し、年3回（日曜日）実施しています。1年間の回収量は約160tです。回収で得た収益は、各学年の宿泊体験活動の費用に使っています。

（3）3年宿泊体験活動（沖縄修学旅行）

◎僕はアブチラガマを出たときに「今が平和で良かった」と心から思った。日本でも戦争があって、沖縄はすべて戦場だったのに、今は当たり前平和な毎日を過ごせるのは本当に奇跡なんだと思った。戦争当時、アブチラガマの中で「助ける必要がない」と判断された人は、何も見えない場所で死ぬのを待つだけだと聞いた。当時の人たちは本当に怖くて、悲しかったのだらうと思った。そして、たくさんの戦争の跡を見て、どんな理由があっても戦争を起こすと、誰かが悲しむことを意識しなければならないと思った。【3年】

学校・園名		田辺市立中辺路中学校	公民館名	中辺路公民館 栗栖川下分館 栗栖川上分館 二川分館
学社融合における学校・地域の様子				
中辺路地域学社融合推進協議会では、学校と保護者・地域の三者が、より発展的な関わりや、結びつきが強まるような行事や取組が行えるよう協議を重ねた。少子化が懸念される将来の小中学校の在り方についても考え、会議では大変熱心な議論が行われている。本校の生徒数は少人数であるが、保護者や地域の方々々に温かく見守られて学校生活を過ごしている。学校においては、新型コロナウイルスの影響で、地域の方々との積極的な交流ができなかった３年間があったが、５類移行により、活動可能な範囲を広げつつ、元の活動を再開させながら、地域の皆様と協力してもらええる行事を行った。				
目 標	学 校 ・ 園 ・ 地 域	・ 家庭、地域の持つ教育力を積極的に取り入れ、地域の施設や環境などを教育活動に生かすことを大切にしたい取組をめざす。 ・ 自然や地域の人とのふれあいを大切にしたい、生徒自身に地域社会の一員としての自覚を持たせ、ふるさとを愛する心を育む。 ・ 地域行事やボランティア活動に積極的に関わる生徒を育成する。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
田辺市学社融合推進協議会規則に基づき設置			・ 田辺市中辺路町 社会福祉協議会 ・ 熊野の森ネットワーク ・ いちいがしの会 ・ JA紀南 ・ 中辺路生活研究グループ ・ 中辺路町観光協会 ・ 田辺消防署中辺路分署 栗栖川分団、二川分団	
学社融合推進協議会 事務局：教頭 学習支援・行事 環境・安全				
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
	成 果	課 題		
学 校	・ 地域の方の教育力を生かし、様々な行事や活動を増やしている。本年度も学校と地域が良好な関係を築けているので、各種の取組を通して地域との連携を深め、地域の方々の学校教育や生徒に対する理解や関心が高められた。 ・ 地域の方々との関わりにより、学校の中だけでは経験できない社会性が育まれ、コミュニケーション能力の向上に繋がった。 ・ 地域の伝統をはじめ、様々な技術の共有や交流ができた。	・ 新型コロナウイルス感染症５類移行に伴い、体育祭や文化発表会などの学校行事に地域の方々を積極的に案内し、参加の呼びかけを行った。また、生徒も清姫まつりなどの地域の行事にも参加し、地域との交流を深めることができた。 ・ 地域交流の行事や取組の充実を目指し、来年度以降も、可能な限り交流を増やし、発展させていこうと考えている。何ができるかを考え、持続可能な取組となるようなコミュニティを目指す。		
公 民 館 （ 地 域 ）	・ 花いっぱい運動では、生徒が種から育てた苗を地域の方々に配布することで、ふれあいの機会が広がっている。 ・ 地域の方からいただく感謝の言葉により、生徒は自尊感情を高め、地域に貢献できている達成感を味わうとともに、郷土を大切にしていきたいという心の醸成につながっている。 ・ 地域の方と学校とが互いに誇れる活動を通して、その交流が地域の環境美化意識を高めることにつながっている。	・ 公民館として、学校で取り組んでいる学習活動に地域全体がもっと関心を持ったり、積極的に参加したりしてもらえようサポートしていきたい。 ・ 花いっぱい運動以外にも、地域の各自治会や社会福祉協議会等との活動を通じて、老人会などとの積極的な交流を継続していきたい。		

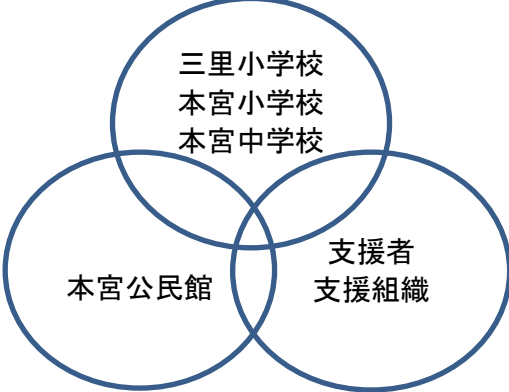
今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
①【夏の整備作業】 新型コロナウイルス感染症のため、３年間中止が続いていたが、年度当初の計画で、５類移行が決定していたため、今年度は実施する方向で計画した。 協議では、作業内容や参加体制の確認等を行い、推進協議会会長、小中育友会会長と協議し、調整を図った。 また、予備日の設定についても議論されたが、中止になったときの学校側の負担を考え、一週間後に予備日を設けることとした。しかし、警報が出ない限りは、室内作業を行うなどできる限り予定日実施を優先させた。実際は晴天で延期することなく実施できた。８月下旬であったが、まだまだ暑さが厳しく熱中症等が心配されたが、大型車両や電動機械などが多数あり、大変効率的に行えたのは有り難かった。地域町内会からの燃料の寄付、消防団による重機の作業、地元建築業者による運搬廃棄など多くの関係者に支えられて実施できた。 ②学社融合推進協議会委員が、これまで以上に学校行事に関われるように、学校から昨年度以上にお知らせや案内を送った。体育祭・保小中合同避難訓練・芸術鑑賞会・文化発表会などには、委員だけでなく地域の方々にも積極的に参加していただいた。	
特徴的な協働活動	
【花いっぱい運動】 花いっぱい運動は、学校や中辺路町を花いっぱいの町にしようという取組で、たてわり班の８班に分かれて、マリーゴールド、ひまわり、アスター、ネモフィラ、日々草、コスモス、ペチュニア、百日草の８種類の種を植えた。セルトレイに土を入れ、指で穴をあけ、種を１つずつ入れ、そして土を優しくかぶせ、最後に霧吹きで全体に水をかけるという細かい作業を全員で行った。その後、当番を決めて毎日水やりを行い、６月には、セルトレイからポットに植え替え作業を行った。中辺路コミュニティセンターと中辺路福祉センターの２カ所に苗を置き、みなさんに持ち帰っていただいた。また、生徒が分担し、町内の１１の事業所に直接配布をさせていただき、快く受け取っていただいた。	
	
【JAへどんぐりの苗の寄贈】 ２年間かけてどんぐりから育てた苗をJAに寄贈した。人工的な植樹により、自然を取り戻す取組は、SDGsを身近に考えさせる良い機会となり、生徒はそれぞれで達成感を味わうことができた。そして、この取組を持続したものにしていこうと考えている。 	

学校・園名		田辺市立近野中学校		公民館名		中辺路公民館 近野分館	
学社融合における学校・地域の様子							
創立より地域との絆を密に紡いできた本校は、学校と地域が一体となって取り組む行事が多い。中学校も実行委員会に入りその運営の一翼を担い、生徒・職員とともに主体的に参加してきた。近野区民体育祭、米作り、職場体験学習、近野まるかじり体験、近野フェスティバル・文化祭、アメリカンファミリー交流と多くの行事を通じて地域と共に生徒達を成長させてきた。							
目 標	学校・園・地域	学校を含め地域の教育・文化の振興、児童生徒と地域住民の活力・健康の増進、地域福祉の増進等に関わる行事等を通して、教育上の諸課題解決に寄与するための取組を行う。 （学校）・地域での活動を通して地域を知る。・共同作業を通して、協調性を養い、共に助け合うことの大切さを学び、地域住民とともに伝統・文化を大切に、尊敬する気持ちを育てる。・地域の一員として地域のイベントに参加し、地域に対する感謝の気持ちを表すとともに、地域の振興に貢献することで達成感を味わわせ、郷土愛を培う。 （地域）・児童生徒と地域住民との交流を通して、児童生徒・保護者・地域住民の相互理解を深める。・学校と保護者、地域の連携を密にして児童生徒の健全育成を図る。					
		校区の推進組織（組織体制図）				支援者及び支援組織	
近野まるかじり体験 実行委員会 中辺路公民館近野分館行事実行委員会 近野地域学社融合推進協議会 近野区民体育祭 実行委員会 敬老会 実行委員会 近野フェスティ バル・文化祭 実行委員会 熊野古道近野山間 マラソン実行委員会				・地域の皆様方 ・まるかじり体験実行委員会 ・学社融合推進協議会 ・J A女性会 ・近野振興会 ・中辺路町森林組合 ・公民館近野分館 ・奥ジャパン株式会社 等			
成果と課題（学校・公民館からの視点）							
成果				課題			
学 校	・ここ数年間、新型コロナウイルス感染拡大対応の影響により実施できていなかった近野区民体育祭、文化祭や餅つき、アメリカンファミリーとの交流などができた。行事の度に、生徒達の笑顔が増えていったこと。 ・地域の方にたくさん協力していただいたおかげで、たくさんの行事が成功した。 ・地域の方に、学校や生徒の様子を伝える事ができた。			・新型コロナウイルス感染拡大対応前に行っていた行事（近野まるかじり体験で地域の皆様とお餅つき・アメリカンファミリー来校・近野区民体育祭・文化祭）を再開するにあたり、詳細を知る教師がいなくて、運営する上で苦労があった。 ・地域の皆様に生徒・教職員が感謝の意をきちんと伝えられているかどうかを、学校長が常に意識すること。			
公 民 館（地域）	・地域の歴史、文化、自然に関わる学習を地域と学校で手を取り合ってすすめることで、子どもたちの中の愛郷心を大きく育んできた。 ・地域の伝統と文化に根ざした学校の取組状況を、常会（町内会）を通じて学校だよりを全戸配布することによって、伝えることができた。			・新たな地域人材の確保と行事の継承。 ・近野は郵便局とJAと2つの金融機関、果無山脈からの美味しい上水道、スーパーや店舗があり、田辺・上富田に近く本宮にも近い好立地で高速ICや南紀白浜空港まで45分、定期バスも通る、清流・田園・熊野古道と緑にあふれる素晴らしい住環境であることを世間に知っていただきたい。			

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
□地域の実行委員会の内容を含む （1学期）(1) 新年度の体制とスクールプランについて (2) 春と夏の草刈りボランティアについて (3) 近野区民体育祭に向けて (4) 8月の清掃活動について （2学期）(5) 近野丸かじり体験について ①会計及び予算案 ②おもてなしについて ③中学校の餡入りヨモギ餅作りについて ④各種届け出について ⑤チラシについて ⑥地域ボランティア（カマドと蒸し器の番、餅つき作業、餅取り作業） (6) 近野フェスティバル・文化祭について (7) 熊野古道近野山間マラソン（歴史ある大会でしたが本年をもって中止） ※生徒達の笑顔と成長のために、近野地域の皆様方から常に最大限の支援を賜れましたことは、学校関係者として大きな喜びである。	
特徴的な協働活動	
1、昨年制作した『ちかのマップ』（地域を紹介する動画が見られるQRコードつき）を道の駅においてもらい、観光客に手に取ってもらう。生徒会が道の駅を訪れマップを道の駅に置いて下さることの感謝の気持ちを伝える。	
    牛馬童子の道の駅	
2、地域の方にご協力をしていただき、地域の秋祭り「近野まるかじり体験」でよもぎ餅を販売した。	
   	
3、地域の保・小・中・地域の皆さんとの近野区民体育祭。	
   	
4、近野地区の環境保持活動 ” KYSGsプロジェクト”（Keep yourself to sustainable goals～持続可能な目標達成のために、あなたの行動を続けてください～というスローガンと3キャラクターの頭文字をとって決定）	
    近露王子 テニスコート横にある熊野古道	

学校・園名		田辺市立大塔中学校	公民館名	大塔公民館 鮎川分館 三川分館 富里分館
学社融合における学校・地域の様子				
旧大塔村時代より、地域連携教育や小中一貫教育を推進してきた背景もあり、保護者及び地域住民は学校教育に協力的であり、PTA活動や学校行事への参加は積極的である。しかし一方では、共働きや一人親家庭の増加に伴い、平日行われる参観日等の出席率は低い傾向にある。また、昼間はほとんどの成人が旧田辺市など近郊に働きに出るため、大きな災害が発生した時など、地域で活動できる人材が特に不足することも想定できる。				
目 標	学校・園・地域	○大塔地域において、学校と家庭と地域が連携・協働し、子供たちの成長を支える学校づくりを進める。 ○鮎川小学校と大塔中学校の9年間を見通した学校運営を行う。 ○今まで培ってきた「大塔地域共育コミュニティ」の力を活用し、学校や地域の抱える課題を解決するとともに、これからの大塔地域を担う人材を育成する。 ○学校・家庭・地域それぞれが成長することを目指す。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織		
		○大塔公民館、各分館 ○田辺市自治会連絡協議会大塔支部 ○大塔女性会 ○大塔老人クラブ ○社会教育委員会 ○子どもクラブ ○あゆかわ保育園 ○放課後ふれあいスクール ○民生児童委員 ○田辺市保護司会大塔支部 ○社会福祉協議会 ○田辺市消防署大塔分署 ○青少年健全育成市民会議大塔地区協議会 ○地球元気村実行委員会		
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
	成 果	課 題		
学 校	・ 保育園との合同避難訓練を実施した。園児の避難に中学生がサポートする取組を行った。 ・ 図書ボランティアさんのサポートにより、読みやすい、借りやすい環境が整えられている。 ・ 大塔CS会議を昼間に行い、今年度は全校合唱の練習を参観していただくことができた。 ・ ふれあいスクールボランティアに参加し、地域の方と共に、小学生のサポート活動を行うことができた。	・ 予告しての実施だったので、今後突発的に行っても対応できる体制づくりを考えていかなければいけない。 ・ 昨年度に比べて図書室利用者が若干減少してしまった。生徒が気兼ねなく利用できる環境の工夫を考えていく必要がある。		
公 民 館（地 域）	○図書ボランティアや、朝のあいさつ運動、CSだよりの発行などを通して、児童生徒に様々な学習支援、生活支援を行うことができた。 ○大塔リフレッシュ大作戦などに加え、ふれあいスクール（小学生対象の放課後等子ども教室推進事業）に中学生ボランティアに参加していただくことにより、中学生が地域の先輩として、小学生と交流できる機会が増えた。	○中学生と小学生や地域の方の交流は行われているが、関わる方の固定化が懸念されている。より多くの方に関わっていただけるように、CSだよりや公民館だよりを通して活動を広報していきたい。 ○様々な自粛を要請されていた生活により、地域の関わり合いが薄くなっている部分があるため、学社融合推進活動や公民館事業を通して、積極的に地域の交流を深める取組を推進していきたい。		

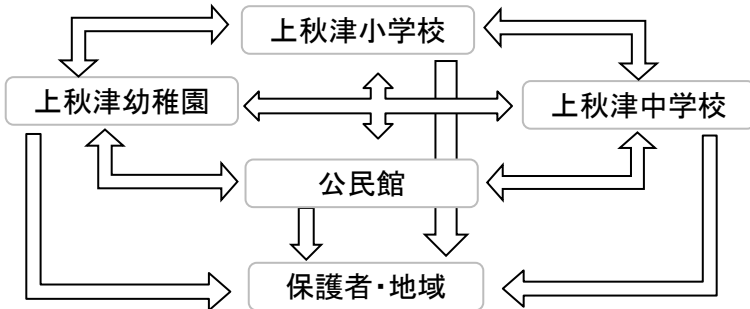
今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
○地球元気村への参加 ・中学生の出来ることを考える 各会場の運営手伝い ゴミ袋の配布 ティッシュ配り 司会進行 など	
○リフレッシュ大作戦のあり方について ・班長が旗を持って横断に使う。 ・小学生を中学生で挟み事故予防に努める。 ・分別収集の方法の確認。最終分別は教育事務所で代表者が集まって行う。	
★トークフォークダンスの企画・運営について（3月に開催予定） ・地域の方と中学生の交流を計画 ・立場の異なる参加者同士が1対1になって、お題について話し合う。 ・1分ごとに交代しながら、お題について話し合う。	
特徴的な協働活動	
地球元気村参加に向けての取組の様子	
実行委員会の谷口さんに来ていただいて、元気村のあり方や今年度行う予定のイベントについて全校で説明を受けました。	
 	
その後、参加するにあたって中学生の自分たちにできることを各グループで話し合い、最後に発表しました。	
  	
当日は、それぞれの任された役割を責任を持って果たすことができ、地域の力にもなれ、充実した1日を送ることができました。	

学校・園名		田辺市立本宮中学校	公民館名	本宮公民館 本宮分館 三里分館 四村川分館 請川分館
学社融合における学校・地域の様子				
共育コミュニティといわれる以前から、本宮地域では地域人材交流を各校において実施し定着している。 平成23年度から「音無の里共育コミュニティ事業」として小中3校と全地域が一体となった本宮独自の「学社融合」の取組を行っており現在も継続している。				
目 標	学校・園・地域	平成30年度に本宮地域学社融合推進協議会が発足されたことにより、これまで本宮独自で発生した取組である主な3項目、熊野古道道普請、古道ジュニア語り部、郷土芸能伝承は関係団体の協力を得ながら継続事業として引き続けていく。 また、学校支援地域本部事業として取り組んできた、郷土芸能伝承、図書ボランティア、授業協力などの内容を協議会の委員さんをはじめとする支援者・支援組織の皆様からの意見をいただきながら内容を見つめなおしていく。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
			育友会 熊野本宮語り部の会 田辺市女性会連絡協議会本宮支部 本宮町自治会連絡協議会 学校ボランティア 世界遺産熊野本宮館 熊野本宮伝統芸能教室 公民館サークル 学校クラブ活動協力者	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
	成果		課題	
学 校	・今年度は今まで以上に世界遺産センターや本宮観光協会の方に関わっていただく機会が多く、生徒が地域の方にお世話になっている事を実感できる機会が増えた。 ・図書ボランティアが行っていた読み聞かせを、新たに生徒によるビブリオバトルの取組に変えていくことについて、毎月1回のボランティア定例会で検討し図書ボランティアの協力を得て取組を進めることができた。		・現在行っている活動を継続しつつ世界遺産学習や地域学習の系統だてについて見直し、生徒が地域の方と共に活動できるようにしていくことが課題である。 ・生徒に活動の意義を理解させながら、主体的に活動できるよう工夫していきたい。	
公 民 館 （ 地 域 ）	・公民館活動もコロナ禍以前の支援活動の取組を行うことができた。学校行事や公民館行事を共に協力し合いながら実施した。 ・学校教育の場でサークル活動等で取得した知識や経験を生かし、指導する喜びや生きがいを感じられる機会が生まれた。 ・子どもたちと接することにより、子どもたちから元気をもらい、子どもたちの成長を温かく見守ろうという意識が高まった。		・学習パートナーの高齢化に伴い、地域住民に学社融合活動についてより理解してもらい、新たな人材発掘に取り組んでいきたい。 ・学校教育に参画していただける方の発掘と今までに参画していただいた方々を人材バンクとして取りまとめ、充実させていきたい。 ・子ども達が生まれ育った地域を知り、理解し、故郷に誇りを持てるような活動を支援していきたい。	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
・本宮地域学社融合推進協議会では、定例会を年2回開催とする。 ・第1回定例会で承認された事業内容について取り組む。 承認された事業内容は、「各校と地域独自の学社融合の取組を継承しつつ、小中交流会などの合同開催や授業参観での公開授業、花植えボランティアなど地域と連携した行事を進めながら学社融合の取組を充実していく。」ことである。 ○各校独自の取組・・・郷土芸能伝承、図書ボランティア、防災教室、福祉、社会体験教室、授業協力 等 ○地域独自の取組・・・語り部ジュニア、熊野古道道普請 等 ・学社融合の活動を通じて、地域の方々や地域の活動、またはその活動に対する思いを理解したり一緒に活動したりすることで、子供たちの本宮を自慢したいという思い、本宮プライドを高めることをめざしていく。 ・委員からの意見 「各校の学社融合に係る取組や事前の紹介は、地域の方に取組を知ってもらうよい機会になるため、今年度も行政局ロビーに年間を通して掲示する。」 「コロナ禍で途絶えていた行事や地域とつながる活動を徐々に再開していきたい。」	
特徴的な協働活動	
●本宮祭〔4月15日〕 熊野本宮大社 例大祭（本宮祭）に生徒が参加している。 大和舞、八咫烏舞（巫女舞）は、それぞれ男子4名、女子4名が春休み中に本宮大社の氏子の方から舞を習って練習し、当日大斎原の祭礼で奉納する。また当日は舞の奉納の他にも渡御祭に控巫女、物持ちとして生徒が参加している。	
 	
●英語語り部〔10月11日〕 世界遺産学習全国サミット in たなべ〔12月9日〕 3年生が世界遺産学習の一環として熊野本宮大社で英語の語り部を行っている。 今年度は世界遺産学習全国サミット in たなべ（12月9日）でも、英語語り部の発表を行った。世界遺産学習全国サミットでの発表に向けて、本宮観光協会の方に平安衣装の着付けを教えて頂いたり、発表で使用する映像を提供して頂いた。また、発表練習の時には英語で語り部をしている地域の方にアドバイスを頂いたり、当日の演出で本宮祭りで笛を吹いている保護者の方が演奏してくれるなど多くの方の協力を得て良い発表ができた。	
  	
【成果】学社融合の活動は、生徒が地域のことを知る機会となっており、また、地域の方から支えられていることを実感できる機会となっている。	

学校・園名		田辺市立三栖幼稚園	公民館名	三栖公民館					
学社融合における学校・地域の様子									
三栖地域は、新興住宅地として他地域からの転入家庭が増え、本園の保護者も地域に知り合いが少なく、保護者同士や保護者と地域とのかかわりも薄くなってきている。本園では昨年に引き続き「人とのかわり育ち合う」を研究主題として、友だちや地域の方とかかわる中で育ち合う保育を進めることで「自分が好き」「友だちが好き」「地域が好き」な子どもに育ちつつある。									
目 標	学校・園・地域	新型コロナが5類感染症になったことを受け、できることを企画し、園児の成長に繋げる。 ・小学生、中学生、及び地域の方々とかわる事で、お互いが育ち合う喜びや楽しさを味わう。 ・園児同士が、日々温かい関係をつくれるよう保護者や地域の協力を得られる園経営を目指していく。 ・地域と連携を取り地域の方に幼稚園の様子を知ってもらうことで、地域ぐるみで子どもを見守っていく意識を高める。							
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織						
<table><tr><td>学三三 社栖栖 融小幼 合学稚 進校園 協・ 議園 会</td><td>会 長 （公 民 館 長 ）</td><td>副 会 長 （町 内 会 長 ）</td><td>委 員 事 務 局</td><td> ・地域関係者 ・保護者 ・校園長 ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員 </td></tr></table>			学三三 社栖栖 融小幼 合学稚 進校園 協・ 議園 会	会 長 （公 民 館 長 ）	副 会 長 （町 内 会 長 ）	委 員 事 務 局	・地域関係者 ・保護者 ・校園長 ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員	保護者 三栖公民館 三栖小学校 衣笠中学校	
学三三 社栖栖 融小幼 合学稚 進校園 協・ 議園 会	会 長 （公 民 館 長 ）	副 会 長 （町 内 会 長 ）	委 員 事 務 局	・地域関係者 ・保護者 ・校園長 ・公民館主事 ・小学校教頭 ・小学校学社融合担当職員					
成果と課題（学校・公民館からの視点）									
成果		課題							
学 校	・数年ぶりに上・下三栖の獅子舞が来園し、地域の伝統芸能に触れる機会となることで地域をより近くに感じることができた。 ・梅取り体験や防火パレードでは地域の方からの協力や声援を受け、地域に貢献できたという自信や喜びを感じることができた。 ・三栖小学校の2年生や衣笠中学校3年生の家庭科実習での交流を実施することができた。 ・「えんだより」「ホームページ」「公民館報」で、保護者・地域へ園の様子を発信できた。また、公民館への作品展示も良い機会となった。		・昨年度から行っている小学校・中学校との交流を今年度も継続できた。小学生・中学生と園児の触れ合いは、両者にとってとても良い体験である。今後も継続できる形を模索しながら実施したい。運動会などの園行事に未就園児支援事業に申込をいただいている家族を招待するなど、少しずつではあるが地域の皆様に来園していただく機会を今後も増やしたい。 ・衣笠山登山や防災パレード、七夕の笹飾りなど、地域に出向き地域の方とかかわることは、単に地域の名所を知るだけではなく地域の方の思いにもふれる機会になると考えており、できることを企画し実施継続したい。						
公 民 館（地 域）	・各種行事等で、園を訪問する機会を多く確保することが出来たため、地域・保護者の方々と関わることも繋げることが出来たほか、隣接する衣笠中学校との交流にも参加させていただいた。 ・三栖公民館のロビーにおいて月替わりでのロビー展の開催は今年も継続実施となった。園に直接的な繋がりのない地域の方にも、園児の作品を見てもらう機会ができ、幼稚園の活動を知ってもらえた。 ・公民館だより（館報）の発行を通じ、学社融合の取組はもちろん、幼稚園の季節行事の様子なども掲載・発信したことで幼稚園の存在をより認知してもらうことに貢献出来ていれば幸いである。		・今年度においては、公民館・幼稚園の共同行事である衣笠山登山が天候不順により実施出来なかったため、公民館として幼稚園と関わる機会が大きく減少してしまった。中止に備えたサブプランを検討する。 ・公民館関係者の高齢化対策として、館区内で新たな人材を発掘し将来へとつないでいく仕掛けが必要である。 ・幼稚園と公民館だけでなく、地域全体が融合できる機会を作り、つながりを深めていく必要がある。 ・数少ない人口増加地域であるが、古い住民と新しい住民との交流機会やコミュニティの確保が期待されている。						

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
無理なくできる交流を続けられるよう、以下の活動を話し合い確認した。 ・ＪＡ三栖支所との交流 ＪＡ三栖支所の職員と公民館主事の協力により、梅取り体験や親子サツマイモの植え付け等、地域の教育力を活かして実施することができている。 ・防火パレード 園を出て地域の方とふれあうことで、園児たちの地域への意識が高まることをパレードを通して感じた。自主的に覚えた誓いの言葉を地域の方が聞いてくださることで、自信と達成感を得ることができた。 ・小中学校との交流 この交流が地域の幼稚園であるという意識を強くした。幼小中の教師同士が子どもたちの交流が大切である事を認識できており、今後も模索しながら継続することで三栖地域の子どもを育てる意識ができつつある。幼小連携についても取組を進める準備を始めていく。 ・開かれた園づくり 公民館への作品展示は、幼稚園を知っていただく機会となっており、今後も取り組んでいく。	
特徴的な協働活動	
～和歌山県公立幼稚園・子ども園教育研究大会～ 数年ぶりに表記大会が本園を会場として開催された。当日は年中あか組は「森のステージ」で年長き組は「森のお店屋さん」で来園された県内幼稚園や関係機関の皆さんと交流することで、人とかかわる楽しさを得ることができた。自分たちでダンスの振り付けを考え、みんなで話し合いながら作ったお店へ来られたお客さんに自信を持って接することができた。「いっぱい拍手してもらった。」「お店忙しかった。」など、嬉しそうに話す園児の姿から、人とかかわりこそが学社融合の本質だと感じた。 ～三栖小学校・衣笠中学校との交流～ 今年も2年生のまち探検と防火パレード、運動会での交流を通して職員も含めてお互いを知る機会となり、幼小連携に繋がる素地が整ってきた。衣笠中学校とは、家庭科実習で3年生が来園した。事前に幼稚園の紹介をし、生徒達は園児とどう対応すれば良いかを考えて園児との活動を体験してくれた。また、昼休みの時間を活用して来園してくれるなど、あこがれである中学生と関わることは園児にとって大変意義のある時間である。	
        	

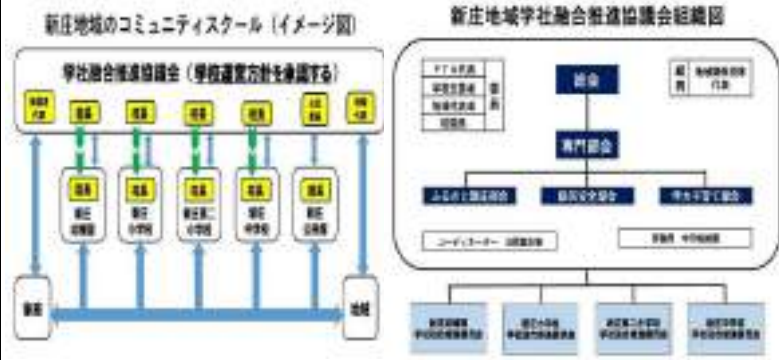
学校・園名		田辺市立上秋津幼稚園	公民館名	上秋津公民館
学社融合における学校・地域の様子				
令和２年度以降は、コロナ禍の状況で幼稚園では外部との関りを制限し、様々な行事を取りやめたり、規模を縮小したりしてきた。令和４年度は地域と関る行事を少しずつ復活させてきたが、まだ参加者の人数の制限を行っていた。 本年度は対外行事の制限を撤廃し、外部の方々に来ていただく機会や、園児が園外に出かけて行く機会を増やした。特に小中学校との交流行事を増やすことに努め、小学校を訪問したり中学生と交流したりする機会はコロナ前の状況に戻った。 また、現在、園児数が減少してきているが、地域の方々は幼稚園の園児確保についてたいへん心配してくださっている。				
目 標	学校・園・地域	公立幼稚園にとって、地域は「最大の教育資源」であるとともに、今後の公教育の「最後の砦」です。子どもを取り巻く社会状況がどんどん変化していくなかで、子どもの育ちを「幼稚園」という狭い枠組みのなかでとらえるのではなく、「学校で学び、家庭で育て、地域で鍛える」の言葉通り、園や家庭、そして地域ぐるみで子どもを育てる体制を整備していかなければならない。		
		本年度の重点目標 ・小中学校とのつながりを強化する ・園外へ出かけて外部の人と出会う機会を増やす ・外部の講師を園に招き、交流を通して専門的な学びを深める		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
上秋津地域学社融合推進協議会  <pre>graph TD A[上秋津地域学社融合推進協議会] --> B[上秋津小学校] A --> C[上秋津幼稚園] A --> D[上秋津中学校] A --> E[公民館] A --> F[保護者・地域] B <--> C C <--> D D <--> E E <--> F</pre>			・あきつの運営委員会 ・上秋津地区民生児童委員 ・社会福祉協議会 ・上秋津公民館	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成果			課題	
学校	・新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、以前のように交流を行う機会が増え、園児にとって人と触れ合う良い経験ができたと思う。 ・秋津野塾夏祭りでは、大勢のお客さんの前で盆踊りを踊ったり、幼稚園の様子のスライドショーを流したりすることで幼稚園のことを知ってもらう機会になった。		・公民館や小学校、中学校とは交流を再開できてきた。しかし、12月に予定していた老人保健施設あきつの訪問は、健康面を考慮して実施することができなかった。交流を行う時期などを検討したり、メッセージ等での交流をしたり、交流の方法を臨機応変に考えていきたい。 ・秋の公民館の作品展は、幼稚園の活動を知ってもらう良い機会なので、広報の仕方を考えていきたい。	
公民館（地域）	・公民館と幼稚園との協働活動において連携を取ることができた。 ・幼稚園の活動においては子育て支援事業でのシャボン玉交流や、園児の防火パレードをはじめ様々な機関と連携した事業を行った。また、公民館事業の夏まつりでは地域の方々との交流や、文化作品展では段ボール箱で電車や線路を作り、実際に触れたり乗車できる体験型の作品を展示するなど学社融合事業として積極的な展開ができた。		・コロナ禍後の初めての年として、これまでのブランクを埋めるため、幼稚園との情報共有等に注意した。 ・園児数が減少傾向にあるなか、地域に根ざした園の活動を支援するとともに、地域の人材が関わることで、より強力にその魅力発信ができればと考える。 ・一方、公民館の課題としてはかつて地域活動の柱であった老人会や女性会の組織が無くなったことで、地域人材との接点が薄れつつあることが、今後の課題と言える。	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
・５月の第1回総会で、幼稚園の経営方針の承認をいただいた後に、現在、幼稚園の園児数が激減している状況を説明した。委員の方々は、園児数が6名という状況を聞いて驚かれ、歴史のある幼稚園がなくなってしまうのではないかと危機感を持ってくれた。 ・例年2学期に行っている授業参観を兼ねた第2回の総会を、今年は幼稚園で開催した。委員の皆さんに園児が運動会の練習をしている様子を見ていただき、その後協議会を開催した。幼稚園の預かり保育のことをよく知らない委員の方もいて、幼稚園の良さを広く知ってもらえるようにとの意見をいただいた。他に保育年数やスクールバスの運用についての意見も出された。	
特徴的な協働活動	
《小学生・中学生とのふれあい》 これまで、コロナ感染症拡大予防のため、様々な行事や交流が中止されてきた。今年度は行動制限も取りやめ、以前のように交流をしていこうと連絡を取り合い、いろいろな交流を行うことができた。4年ぶりに中学生の職場体験も行うことができた。子どもたちにとっても、園内だけで過ごすのではなく、園外に出て、様々な方と触れ合うことができたことはよい経験だと思う。 また、幼稚園の職員が小学校の授業の様子を見せてもらう機会もいただいた。	
○5月 ～校庭で遊ぼう～ 今年度初めての交流は、小学校の校庭での遊びだった。休み時間になると、小学生が駆け寄ってきてくれた。卒園した子どもたちとの再会を喜んだり、お兄さん、お姉さんと遊んだりと様々な人との交流を楽しんだ。	 小学校へ遊びに来たよ！ 
○7月 ～七夕飾りを届けよう～ 園児が作った七夕飾りを小学校にも届けようと子どもたちと持って行った。「お願い事何を書いたの」など話をしていた。 小学校以外にも、公民館・JA上秋津支所・郵便局・老人保健施設あきつの・秋津野ガルテンにも届けた。	 笹飾りをつくりました。飾ってください。
○11月 ～防火パレード～ 秋の火災予防週間に合わせ、地域へ防火パレードに出かけている。 小学校へは4年ぶりにパレードで訪れることができた。休み時間になると大勢の小学生が見に来てくれた。また沿道には地域の方が子どもたちの声を聞き外に出てくれた。自分たちは、いろんな方に見守られているということを実感できるよい経験になった。	
○9・12月 ～中学生とのふれあい～ 9月下旬に、2年生が職場体験に来てくれ、一緒にかけっこをしたり、ゲームを楽しんだり、絵本を読んでもらった。 12月には中学校へ出かけ、3年生が用意してくれたゲームを楽しんだ。どのゲームも大盛り上がりだった。	 <職場体験> <中学生とのふれあい交流> 

学校・園名		田辺市立中芳養幼稚園	公民館名	中芳養公民館
学社融合における学校・地域の様子				
今年度も「子供の育成」「文化の伝承」「交流の推進」の三つの柱を中心に据えて、学社融合の取組を進めた。園児たちは、豊かな自然環境と、いつも温かく見守ってくれて大変協力的な地域の方々との触れ合いを通して、明るく伸び伸びと園生活を送ることができた。また、今年度はこれまで見合わせてきた行事を実施することができた。これからも、行事の内容、実施方法等地域や公民館と連携を図りながら取組を進めていきたい。				
目 標	学校・園・地域	・子供たちの学びや体験活動を充実させ、自分の住む地域を知り、地域のことを大切に思う心情を育む。 ・幼稚園や小中学校の取組や行事に地域全体で協力し、子供たちの成長を見守る意識を高める。		
校（園）区の推進組織（組織体制図）			支援者及び支援組織	
中芳養地域学社融合推進協議会 (会長・副会長・委員10名) 地域 公民館 幼稚園 小学校 中学校 PTA ↓ 子供の育成 文化の継承 交流の推進			・中芳養地域の方 ・中芳養公民館 ・中芳養小学校 ・中芳養町内会 ・中芳養中学校 ・老人会「芳寿会」 ・JA紀南芳養谷支所 ・未就園児の家庭	
成果と課題（学校・公民館からの視点）				
成果			課題	
学校	・梅採り体験やみかん狩り体験などの地域の豊かな自然との関わり、泉養寺や八幡神社など地域の伝統文化との関わり、敬老祝賀会や夏まつりへの参加、老人会「芳寿会」さんや小学校との交流など地域の人々との関わりを通して、園児たちは中芳養地域を知ることができ、大きく成長することができた。 ・運動会や生活発表会に多くの地域の方々に参観していただいた。園児にとって、その中で競技や発表などの表現活動を行うことは大変有意義なことで、自信になり、自己肯定感が高まったように思う。		・地域と関わる行事は大変多く、それだけ園が地域から大切にしていることだと思う。これからもその関わりを大事にしながら、見通しを持って内容等工夫改善しながら取組を進めていきたい。 ・菜園活動については、地域の人材の手を借りるなどの方法も含め、今後の課題である。	
公民館（地域）	・4年ぶりとなる中芳養夏まつりや敬老祝賀会を開催し、地域の方と園児が交流する場を持つことができた。また、盆踊りの事前練習会では、地域の方に中芳養の伝統ある盆踊りを教えていただき、郷土愛を深めることができた。 ・園児達が頑張って取り組んだことや、日頃の様子を公民館報に掲載し、地域の皆さんに知ってもらった結果、「地域全体で育てていく」という気持ちが感じられるようになり、より積極的な支援活動の促進につながられた。		・園児達の豊かな心と体の成長の一助となるような、家庭や幼稚園ではできない公民館体験事業を検討していく。 ・現在も地域の方には多くのご支援をいただいているが、今後も引き続き地域の新たな人材にアンテナを張りながら、園児達の良い経験につながるよう取り組んでいく。	

今年度の取組内容	
会議で協議した特徴的な事項（学校運営協議会）	
【幼稚園を訪問して】 ・授業を参観して、園児がとても楽しそうにしていた。 ・各校園の説明を聞いたが、どこも素晴らしい取組をしている。こういった経験が将来生きてくると思われる。 【学社融合の取組について】 ・学社融合の組織を幼稚園、小学校、中学校で一本化できているのは良いことである。特に幼稚園と小学校は距離も近く、学習以外の安全確保の面等でも連携しやすいと思われる。 ・老人会としては、園や学校の行事に招待されて、園児と遊ぶことや盆踊りの練習を一緒に行うことがとてもうれしいことである。 【幼稚園の園児確保について】 ・地域に住む若い家族は増えている。中芳養幼稚園の園児が増えていくのが理想的であるが、なかなか難しい面がある。 【中学校敷地内の環境について】 ・中学校の敷地内の梅を使った学習はとてもよいが、古木になりつつある。今後、次世代に向けて若木も育てていきたい。	
特徴的な協働活動	
≪地域の人々との関わり≫	
○夏まつり参加	
 	
盆踊りを4曲踊りました。その後、夜店を楽しみました。	
○敬老祝賀会参加	
 	
「園歌」を歌って「エビカニクス」のダンスを披露、たくさんの拍手をいただきました。	
○防火パレード	
 	
田尻地区の広場、JA芳養谷支所、泉養寺さんで「誓いの言葉」を唱えました。	

学社融合推進協議会活動報告書 協議会名：新庄地域学社融合推進協議会

学校・園名		田辺市立新庄幼稚園	公民館名	新庄公民館
学社融合における学校・地域の様子				
新庄地域では「共育コミュニティ」の研究指定を機に、学校と公民館が連携して学社融合を深化させてきた。そして、平成30年度からは幼稚園・小中学校が公民館と連携しながら地域全体で「学社融合推進協議会」を設置し、保護者や地域の皆さんの意見を取り入れた学校運営を進めている。また、各園・学校単位で学社融合推進委員会を設置し、園・学校ごとの取り組みも進めている。				
目 標	学校・園・地域	田辺市新庄地域学社融合推進協議会会則 第2条（目的） 協議会は、保護者及び地域住民等の学校運営への参画や、保護者等による学校運営への支援・協力を促すことにより、学校と保護者等との信頼関係を深め、学校運営の改善や園児児童生徒の健全育成に取り組むものとする。		
		本校における学社融合の目標 地域の祭りや行事等への参加と、地域の伝統産業の調べ学習、地域の福祉施設との交流等を通して、伝統文化を継承するとともに、地域を愛する心を育てる。		
		校（園）区の推進組織（組織体制図）		支援者及び支援組織
				学社融合推進協議会 ○ 幼稚園・小中学校育友会 ○ 学校支援者・地域代表者 ○ 地域関係団体 ○ 公民館運営委員会 ○ 新庄地区校区協議会 ○ 新庄共育コミュニティ本部 その他関係機関 ○ 新庄地区老人会 ○ 真寿会 ○ ふたば福祉会 ○ 南紀のぞみ会 ○ 社会福祉協議会
本園は現在休園中のため、未就園事業『親子広場』の写真を掲載します				
				

世界遺産学習サミットinたなべ（活動の様子）	
公開授業（田辺第二小学）	
	
公開授業（東陽中学）	
	
ポスターセッション	
	
	
	
舞台発表	
	
	